

採 蓮

Siren

第
十
九
号

No.19

目次
Contents

採蓮のいわれ 4
The Implication of "Siren" 5

対談「小川信治のグランド・ツアー、その思考と制作」 7
A Discussion: "Ogawa Shinji's Grand Tour: Thoughts and Production" 24

オーハリン大学・アレンメモリアル美術館所蔵
メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵版画目録（調査報告） 25
Allen Memorial Art Museum Collection, Oberlin University
A Catalogue of The Mary Ainsworth Collection of Ukiyo-e Prints: Result of Research 81

平成二七年度 千葉市美術館の活動 83
Fiscal Heisei 27 Activities of Chiba City Museum of Art

採蓮のいわれ

蓮は古来の画題でありそれを描いた名画が多い。その花は清浄無垢、また枯れては寂寥の情をもたらす。

千葉は古代蓮の種が発掘され現代に命を復活した町であり、奇しくも千葉市美術館は古には蓮池（はずいけ）と呼ばれ蓮の漂う池を埋立てたといういわれの繁華街に位置する。音通する *music* は美声をして船乗りを誘惑し難破させるギリシャ神話の海の精である。蓮を採るが如く古今の美を紡ぎ、妖精の如く人を魅惑する芸術に就いて論ずべく本誌の題を定めた。

千葉市美術館

The Implication of “Siren”

The lotus has been the theme of painting, and there many master works which delineate it. Its flower is pure and innocent, and gives the feeling of loneliness and silence after it is withered. Chiba is where ancient lotus was discovered and its life was reinstated. Coincidentally, the Chiba City Museum of Art is located on a street made by reclaiming the lotus field called Lotus Pond (Hasu-ike) in ancient times. *Siren* has same phonetic expression as Siren in Greek mythology who lured mariners to their destruction. The name of the bulletin was decided with the intention to weave the beauties of both present and ancient times as if harvesting the lotus and to discuss the arts which lure us like a siren.

Chiba City Museum of Art

対談 「小川信治のグランド・ツアー、その思考と制作」

小川信治（現代美術作家）
平芳幸浩（京都工芸繊維大学 美術工芸資料館 准教授）
畑井 恵（司会進行／本館学芸員）

小川 まず僕がどんな人間かっていうのを分かっていたくために、日記のメモから見ていただきたいと思います。絵を見ていただながらその当時の日記の文章を読みますので、お願いします。

クリスマスの夜、僕は瑞穂との待ち合わせの場所の本屋に向かう（図1）。アトリエと本屋との中間に位置する白川公園は、澄み切った夜空の下、とっておきの環状空間で僕を迎えてくれた。その中央に立ち、周囲三六〇度を見回す。これはいつものことだ（図2）。ただし、この日は少し違っていた。僕を取り囲む帯状の樹木と建物が大地から切り離され、ゆっくりと回転を始めた。その帯はどんどんスピードをあげていった。大地と空から切り離されて、ものすごい



図1

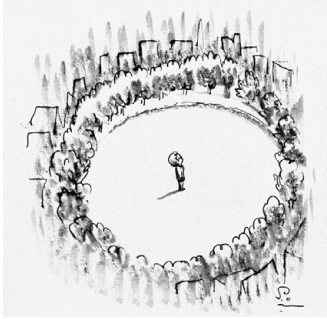


図2



図3



図4



図5

速度で回転する帯状を僕はしばらく見つめる（図3）。すると、ある考えが浮かんだ。そして僕はそうした。つまり回転する樹木と建物の帯を九〇度たてに起こして巨大な車輪としてリスのようにその中を駆けることで（図4）、本屋で待つ瑞穂のもとへ急いだのだった（図5）。

こんな感じの人間なんですね。現実と妄想が入り乱れていると言いますか。

対称性／非対称性

次にアイデアについてお話ししたいと思います。アイデアは突然降ってくるんですね。ずっと考えて辿りつくというより、突然ポーンと降ってきます。最初は微かな気配にすぎないんですけど、何か思いついたなという感じで、それ

を思い出そうとするともう過ぎ去っていく、過ぎ去りかかっているという、そういう感じなんです。だからその時は、そーっと手を伸ばしてぐいつてつかんでズルズルと引きずり寄せるといふか、今見たものはなんだったんだらうと、とりあえずまず、それらしきものを掴むということをやります。つかまえたアイデアというのは、そのときにはまだなんのこともだか全くわからなくて、でも何かこれは大事なことのような気がするというのがありまして、そういうときのために、僕の家にはいたるところにメモが置いてあります。

今見たことを、例えば単語の羅列であつたり、簡単なラフスケッチだったり、いろんなかたちで、とにかく何か残さなければということを書いていくわけです。ときどき記号を使うんですね。今回の展覧会の会場に入つてすぐの鉛筆画の作品、「対称性／非対称性」というシリーズなんですけれども、それを思いついたときに、まずこういうふうな記号にしました(図6)。これは、お互いに矛盾する概念を同時に一つの画面に表現できないかと思つて始めたアイデアです。お互いに矛盾する概念というのは例えば、大きい、だけど小さい、あるいは黒い、だけど白いとか。同じ、だけど違うとか。そういう相矛盾するものをひとつの画面で表現したいと思ひました。そんな中から、対称性と非対

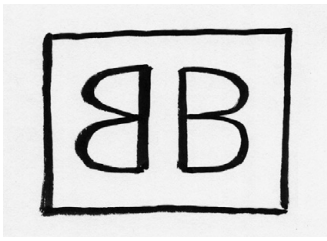


図6

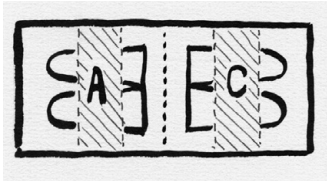


図7

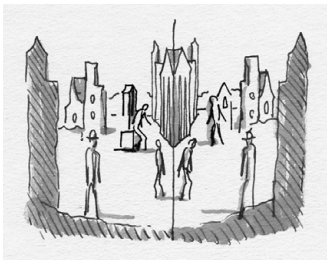


図8



図9



図10



図11

称性というのを一つの画面でできないかなということ、まず、Bがひっくり返っている対称的なものを描きました。これに非対称のAとCを入れたんですね(図7)。これをラフスケッチにします(図8)。まあなんとか作品になるかなということ、もうちょっと色のついた水彩画にしてみます(図9)。僕にとつてこれはまだ作品というよりも覚書の範囲内なんですけど、たぶんいけるでしょうということ、やつと鉛筆画に入ります。

今回は出品できなかったんですが、一番最初に「対称性／非対称性」を思いついたとき、最初に描いたのがこの作品です(図10)。これはベルギーのブルージュの風景を使っているんですけど、対称性と非対称性を同時に表現するところなるのかなと、自分でも見てやつとわかつた感じです。それで、二つ目につたのがこれですね(図11)。同じくブルージュのファンエイク広場というところを使いました。ちよつとわかりづらいんですけど、この人はこつちにしかないし、このおじさんはこつち向いてこつちにしかないですね。あとは奥のここが違う。あとそれとは全然関係無いんですけど、僕はこの猫を描きたく

て、それで描いたような感じがします(笑)。これが、どうしても描きたかったんですね。今回の展示では、『ストラスブル』¹という作品がこのコンセプトに該当します。

一方、Bの間にAとCを入れるんじゃないなくて、上下二段にしないでいいだろうかというふうにして、記号をもう少しアレンジしました(図12)。水彩画で描いたのがこれです(図13)。こちらの左側の絵で言いますと、椅子に座っている女の子の部分がBの反転、上の丘の方がA、水のほうがCみたいな、そんな感じになっています。それをもう少しアレンジしたのが、右側の絵ですね。それを作品にしたのが、この『アントワープ—ジュネーブ3』²(図14)なんです。これは今展示されている作品ですが、アントワープにある大聖堂が左右反転になっていて、奥はジュネーブの風景が広がっています。ジュネーブの風景は、何も細工をしていない風景です。ところで、今の作品はこの記号(図12)を使っただけですけど、この下のBを反転して右にあるようにひっくり

返した場合にどういうふうになるかなっていうのも試してみたいと思ったんです。どんなふうになるでしょうか。こんなふうになりました(図15)。遠くの風景は変わっていないんですが、手前のBがひっくり返るとアントワープ大聖堂の繋がり方が入れ替わりまして、裏と表、両方裏だったのが、両方表になるみた

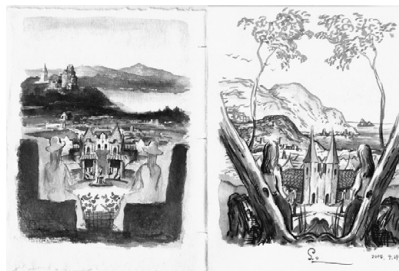


図13

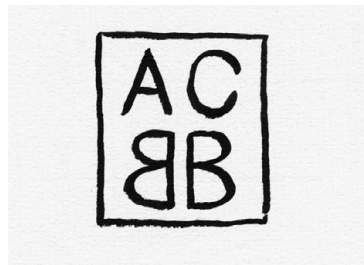


図12

いな。一つのアイデアで二つ作品ができちゃうんですね。図形を使うとういうふうなこともできるのかなということで、何でも思いついたときには、まず図形で表現してみる、図形というか、記号で表現するというようなことをやっています。ただ、とっても素晴らしい記号を思いついて、でも実際にそれを絵にしてみると全然駄目だとか、そういうケースもけっこうあります。

重なるの庭

次は、展示会場の中で一番難解な、ミルククラウンの作品があったと思うんですけど、その『重なるの庭』³(図16)という作品についてお話しします。『重なるの庭』は正直に言ってもまだまだ変わっていく可能性があるので、作品の持っている謎については、ここではまだ語らないようにしたいと思います。ですが、その前段階の作品というのがありまして、それは『アナザードロップ』という、一五年前に作った作品です。場所は岐阜県にあるギャラリキヤブションというギャラリーです⁴。この当時、僕はなぜか撮影現場というものに興味がありました。スタジオがあつて、モデルさんがいて、照明係がいて、いろんな人が渾然一体となって作業する現場みたいなものに妙に興味がありました、その撮影現場そのものを作品として提示できないかなと思っただけです。それ

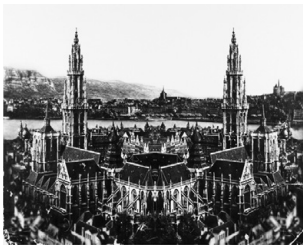


図14

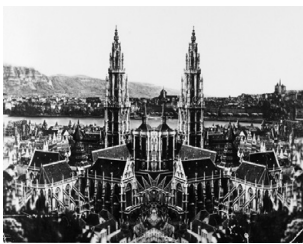


図15

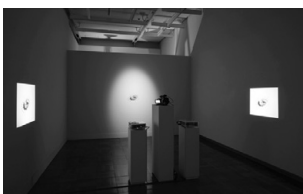


図16

で、普段は絵しか描いてこなかった僕がいきなりインスタレーションを始めるんですが、僕の作品の場合はモデルさんを撮影する代わりに、僕が描いたミルククラウンを撮影して、それをプロジェクターなりモニターなりで映すという、そういう作品ができないかなと。ちなみに僕のミルククラウンは点がひとつ増えています。ミルククラウンの王冠の上に並んだうちのひとつが増やしてあるんですけど、どうせプロジェクターに画像を映すなら、その点の位置を映像だけ変えていたら面白いかなと、そういうふうに思ったわけですね。だけど壁画と映像が一对一じゃ面白くないと思って、映像を二つに増やしたらどうだろうと思いました。

今回はこれにちよつと捻りを加えてある作品なんですが、これをもう一回作ることになるとは全く考えていなかったです。僕の中では秘蔵の作品みたいな感じで。それで、今回の《重なるの庭》について僕があまり話をしたくないというのはなぜかという、みなさんの心の中に《重なるの庭》のイメージがいろんな形で出来上がっていると思うので、それを僕が言ってしまうと、いつばいあるみなさんの解釈が一つに収斂してしまうかもしれない。そうするとこの作品の趣旨に反するかなということで、謎は謎のままで持ち帰っていただけだと思います。

今回の《重なるの庭》で一つだけエピソードを言いますと、覗き穴が外側の壁にあったと思うんですけど、あの穴は最初は開ける予定は全然なくて、完全に中側が見えない展示にしようと思っていました。ですが、ここで展覧会をするにあたって千葉県のことをいろいろ調べていたら、覆面観音という観音様があるというのを知りました。観音様が仮面をつけているんですよ、あまりにも霊力が強いということで。それがすごく面白いなと思って。しかも、ごくまれに仮面を外したご開帳をされることを聞いて、ああそうか、やつぱりご開帳の穴を開けないといけないなと思ひまして。ということで、ご開帳の穴とい

う名前なんですけど、それを壁に開けました。

「Behind You」のイメージについて

ここから先はまた僕の妄想の話になるんですけど、今映し出されているのは、「Behind you」シリーズの、「Behind youの作り方」ですね(図17)。これに思いついたのは、二〇〇六年の一月一五日の日記に書いてあるんですけど、大阪の国立国際美術館でまさに今回みたいな個展をやっている最中⁶に思いついてしまったんです。その日記をちよつと読みますと、「統合された世界は紙細工のように曲げることができ、さらに接合し、任意の線に沿って切り開く事ができる」。ここという統合された世界というのは、普通の現実の風景というよりも、一枚の写真みたいに二次元の平面になった世界のことをいうんですけど、平面にしてしまえば曲げたり切ったりできるといふ、そのくらいの意味です。

例えば、人物が風景の中にいる絵があつたとします。これを丸めて筒型にすると、両端同士は普通うまくつながりません。間に僕が想像力で補う部分を入れて、この赤い2番のところですね(図17中に図示)、それでつなげてやれば円

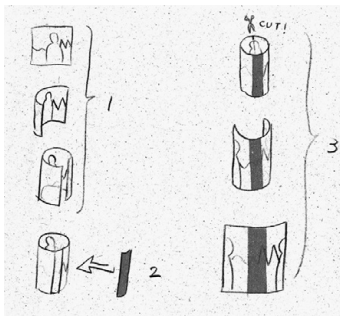


図17

筒になるんじゃないかと。それを元々の絵の中心であつた人物のところからハサミでちょきよきと切つて広げると、二次元空間に戻る。二次元から三次元を通つて、また二次元になるんじゃないか、そんな感じで作品ができるんじゃないかなと思ひました。それで一番最初に作つたのが、これです(図18)。ルーカス・クラナツハの《風景の中のヴィナス》という作品をBehind You的に処理したものです。このお城なんかは本物にはないですね。僕のイメージで付け加えたものです。

それと同時に制作していったのが、《ウルビーノ公夫妻の肖像》で、カタログの表紙にもなっているものです(図19)。イタリアルネサンスのピエロ・デッラ・フランチェスカの作品を使つてBehind Youするんですけど、この作品の場合は僕の想像はあまり入れてないです。この作品の特殊なところは、奥さんの方の絵の湖があるんですけど、この湖は旦那さんの方のチラつとのぞいている湖から想像したんですね。それで、旦那さんのほうの真ん中の丘、大地の部分は、奥さんの方の少し見えている風景を足して作つたんです。

これは図形で描くといつたどういうことになるんだらうと、まるでメビウスの帯が二



図18



図19

重になつて捻つているような、そういう感じかなとずつと思ひ続けて早十年が経ちまして、数日前にやつとこれを思ひつきました(図20)。数学が得意な方とか、トポロジーが得意な方は多分五秒くらいで思ひつくものだと思うんですが、僕は十年もかかつてしまいました。Aは旦那さんの方の絵をぐるつと曲げたところで、ここが足らない部分です。Bは奥さんの方の絵をぐるつと丸めたところでやつぱり足らない部分があります。このAとBを近づけていつて足らない部分を相手の部分で共有するといつか、くつついちやつてゐるわけですね。こんな感じじゃないかなと、数日前に思つた次第です。

これらの作品をまずは油絵で描いたんですけど、鉛筆でもできないかなと思ひまして。僕は古い写真やポストカードが大好きで、いっぱい集めているんですが、そういったものを使つてできないかなと思つて作つたのが、《バルコニーにて》(図21)という作品です。これを思ひつくまでに、まずこんなスケッチをしました(図22)。これは本当に最初の方の、イメージのしつぽをつかむところで、もう何だかわかんないけどとりあえず描いてみたという感じなんです。確かこういうイメージを思ひついているはずだつていう。世界があつて、その世界が突き

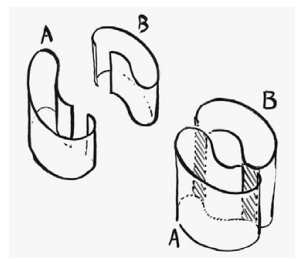


図20



図21

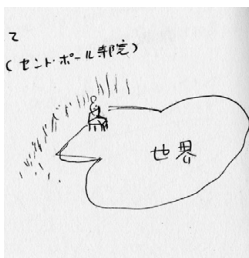


図22

出たところにバルコニーがあつて、そこに女の子が座っている、そういうイメージなんですね。この女の子は世界の外にいるのか、世界からはみ出した部分なんですけど、これどこにあたるのかなと思ひながら、とりあえず作ってみました。

作り終わって見てみたときに、あれ、この女の子は世界の外にはいないなと、後ろが世界だとするとそれにくっついて存在しているから、世界の中にいるんだろうか、と思いました。ちよつと話を戻しますけど、この作品はまず円筒を作つて、その円筒を建物のところでカットする。さらに、女の子の中心でカットするとこんな感じになる、という二つのものを見せないと表現できてないと思つて、二枚組にしました。

それでさっきの疑問に戻るんですけど、この絵を見ている人はいつたいどこにいることになるんだろうと。具体的に言うくと、僕はいつたいどこにいるんだろうという事です。またそれも、だんだん薄れていくイメージを手帳にメモします(図23)。これは円環の中に僕が立っているんですけど、さっきのBehind youの女の子があそこにいて、建物があつて、そ

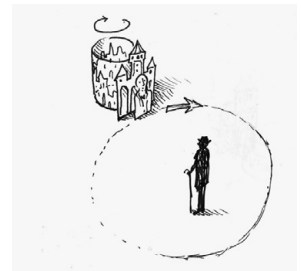


図23

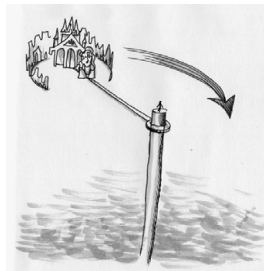


図24

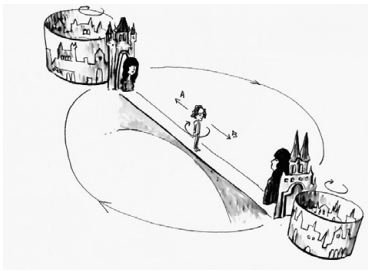


図25

の後ろにも何やら世界があるらしく、しかもぐるーつと回転していく感じなんです。僕以外の世界が回っている。ここから地面を取り去ったらどうなるかというと、こうなります(図24)。僕が真ん中において、僕の周りをああいふのがぐるーつと回っていて、あれ自体も自転しているんですね。それを見つめなさないといけないから僕も回転しているという、そういうイメージなんです。このあたりはまだ全然作品になつてないですよ。僕の暴走している妄想を今お話ししています。これからさらに次の段階にいくと、こういうふうになります(図25)。これは、外部世界みたいなものが二つあつて、僕がその真ん中に立っていて、右を見ても左を見てもさっきのような世界があつて、それぞれ自転しながら回転している。こつちもすごい、こつちもすごいって見ている間に、僕自身も回転しています。惑星とか天体の動きとか、そういう感じですよ。

どうしてこんなイメージを思いつくのかなと考えたんですが、これはチェコのプラハにあるカレル橋の真ん中に立つと、正面にプラハ城というものがすごく大きな、視野を全部覆うくらい大きなお城が橋の向こうに見えているんですね。それで振り返ってみると、今度はプラハの街並みが見えて、そこに塔がよきによきと立って、中世都市がひろがっているんです。プラハ城の前とその反対側のプラハの街並みの前、橋の両側ですね、入口に二本の塔が立っています。しかも両方とも穴が開いていて、そこを通過して橋に出て、またその門みたいな塔をくぐって向こうに行くようになっていきます。こういう風景のインパクトというのはすごく大きくて、やつぱりそういう、自分が見たものに影響を受けているなと感じます。このようなイメージを考えながら、「あなた以外の世界のすべて」という言葉が自然と浮かんできまして、このBehind Youシリーズを説明するときのキャッチコピーとしてしばらく使っていました。

「ロンド」について

最後のお話になりますが、今回は展示しなかった作品で「ロンド」というシリーズがあります。それは二〇一一年、今から五年前ぐらいに、ポーランドのクラクフにMOC AKという現代美術館ができて、その時に歴史をテーマにした展覧会に何か作品を出してほしいというオファーが来ました。そのときに、「歴史が繰り返すように、空間もまた繰り返す」という言葉を思いついたんですね。僕以外の出品者はヨーロッパの人やポーランド人が多く、ポーランドと言えばアウシュヴィッツとか、第二次大戦のいろいろな思い出があつて、そういうものを扱った作品が多いかと思いました。じゃあ僕はそういう具体的な歴史の事実がどうこうということではなくて、歴史や時間とは何か、その法則、歴史は繰り返すというふうなことを空間に当てはめたらどうなるかという、そんな作品を考えてみました。歴史が繰り返すようにまた、空間も繰り返すというのはどういうことかということで、スケッチを描いてみました(図26)。

これは風景が繰り返すというのと、ポートレイトが繰り返されるという二つのケースなんですが、上の図で言うとBという記号のところに描いてある赤い

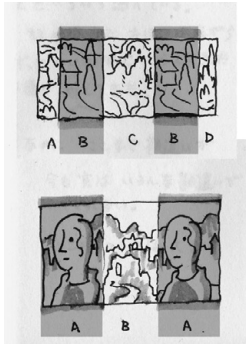


図26

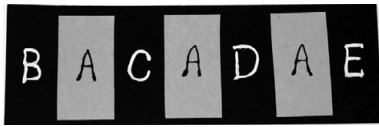


図27

風景ですね、これは同じものです。同じものを二つ並べて、その間をつないでいると。それで下には同じポートレイトが二つ並んでいて、それを真ん中でつなぐという感じです。これを記号化したものがこちらですね(図27)。Aが三つありますが、同じ風景があると、それを違う要素でつなげている。僕は音楽のことはそんなに詳しくないので、フーガなのかそれともカノンか、いろんな似たような音楽で同じテーマが何回も流れてきたり、同じテーマが追いかけてついたり、いろんな形式があるようなんですけれども、たぶん僕がやろうとしているのはロンド形式なのかなということ、タイトルを「ロンド」としました。

それで作った作品が三点ありまして、その制作過程を参考までにいくつかお見せします(図28、29、30)。僕は部分的に完成させて描いていくという手法を取っています。一度描いたところはほぼ二度と触らずに、完成させた部分をどんどん拡大していきます。この時に使っていたのはFくらいの鉛筆ですね。それで刻むように、アルシュ紙を使っているんですけど、紙に描いていきます。これは人物の部分拡大していますが(図31)、この人の腰のあたりに白い塗りが残したいところがあります。僕の鉛筆画は古い写真のように見えてほしいので、昔の百年前ぐらいのプリントというと、現像するときにゴミが入ったりして、ノイズとか埃が写真に混入するんですけど、それをあえて入れるという感じで塗が残しています。

こうやって作品を制作する中で、目と手は酷使していくんですけども、脳だけはまた暴走を始めるんですね。どういうことかというのと、「ロンド」というのは、どの方向を見ても同じ風景が見えたらどうなるかという考えなんです。子どもの頃に、夜に月が追いかけてくるというイメージを持った方もいらっしゃると思うんですけども。自分の位置が移動しているのに同じ月が見える、同じ風景が見えるみたいな、そういうことなのかなと。じゃあそのとき



図28



図29



図30

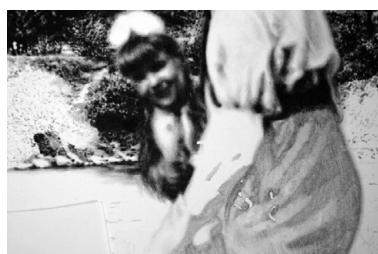


図31

に、月から僕を見たらどう見えるのかなと、思ったりもします。実は一つだけの風景なんだけど、大きな目がその周りをぐるっと取り囲んでいる状況なんだろうかと思ったり、いやいやちがう、たくさん目の目が風景の周りをずらっと取り囲んでいて、その目が見たものを順番にひろつていくと、連続した風景なんだろうとか。風景がずっと無限に奥に連続して続いている様子ですね。

ではここで、時間を止めてしまつたらどうなるんだろうという事です。例えば時間を止めてしまつたときに、僕の動きも止まつて空間も止まつてしまうと思うんですけど、その時は、何も動いていないんだろうか、どこか時間と空間じゃない別の方向に何か動いているのかなと、そんなイメージです。こういうことは、一アーティストがどこまで考えてもどうしようもないことではあるんですけど、日々こういう妄想をしながら作品を作っています。ここまで考えてきて思つたことは、世界というのは、観測者、観客の数だけ世界は存在して、たくさん人の観測が重なつて世界はできている。世界は観測を求めている、我々人間が存在する意味というのは、世界を観測するためにいるんだろうというふうに思ったりもします。

た以外の世界のすべて」でいうと、「あなたあなた以外の世界のすべて」ということになります。こんな感じで終わりたいと思います。

対談

——では、続きまして、対談に移りたいと思います。こちらはゲストに平芳浩さんをお迎えしております。平芳さんは二〇〇六年、国立国際美術館での小川信治さんの個展をご担当され、本展の図録にも論文をご寄稿いただきました¹¹。小川さんからは、イラストもたくさん交えつつ、アイデアの展開や、当展のタイトル「あなた以外の世界のすべて」に至るコンセプトなどお話しただきまして、ありがとうございます。まずは平芳さんに、今回の展覧会につきまして、いくつかコメントをいただければと思います。よろしく願います。

平芳 ご紹介に預かりました平芳です、よろしく願います。なんだか展示台の上に乗つたかっているようで、生きた彫刻になっているような感じがします(笑)。今、小川さんの方から、アイデアがどうやって形になっていくかと

いう話を非常に面白く聞かせていただきました。ご紹介をいただいた通り、二〇〇六年に国立国際美術館で私が学芸員として勤務をしておりました頃に、日本の美術館での個展としては初めてとなる小川さんの展覧会を担当させていただきました。その時のご縁もありまして、今回もこういう形で呼んでいただいたり、カタログに書かせていただいたりしています。継続して小川さんの作品は見せていただいているわけなのですが、二〇〇六年の個展から一〇年後の今回の展覧会を拝見させていただいて感じた違いも含めて、今日の話を伺っていくつか感じたことを、小川さんの疲れが取れるまでの間、話をしたいと思います。

一つは、最後に言われた「あなたⅡあなた以外の世界のすべて」という「AⅡ非A」というふうになるのは、図式そのものが小川さんが長い期間を経たどおり着いた答えのようでありつつも、一方で実のところ、一番最初のシリーズのWithout Youがもうそのすべてであると。あなたが消えてしまっている世界というのがそこにもう最初に出てきているという意味では、小川さんの仕事は、今日のお話の中でも何度も出てきましたけれども、円環状にずつとぐるぐるリスのように回っているというような感じもあるのかなという印象を持ちました。ひたすらある種のゴールに向かって突き進んでいくというよりも、いろんなところで分岐をしながら、すべてがぐるぐるとなわつてその円周が大きくなっていくというような感覚を覚えました。それが一つ。

それと合わせていうのか、カタログの一番最初の文章にも書かせていただいているのですが、いったい小川さんって何者なのかというのがついてまわっている疑問でして。文章の中では、紛れもなくコンセプチュアル・アーティストであり、まぎれもなく画家だと書きました。つまり非常に概念的な思考の、頭の中で考えて仕事をする作家である一方で、徹底的に技術でもって絵を描くという、その両方の側面をもっている、どちらでもあるんだというような書き

方をしています。そう書きながらも一方で、結局いったい何者なんだろうというのは今も思っています。今日の話を伺いして強く思ったのは、どういう言葉で表現をすればいいのかと思った時に、まぎれもなくコンセプチュアル・アーティストであり、画家なんですけれど、何をやっているのかというと、世界に対して一種のオペレーション、操作をやっている。で、オペレーションをやっているってどういうことなのかというと、ああ、手術なんだと思ったんですね。要は外科医のような仕事を、世界に対してやっている。外科医の手術のことをオベツて言いますよね。外科医は当然、人の体を切開して、何かを取り除いたり、何かをつけ加えたりして、また閉じて、完了するっていう仕事をやっているわけです。外科医がどれほど優れているかというのは、その時の手さばきにかかっているわけです。手さばきと、あるいはどのどういう部位をどういうふうにおペをすればいいのかっていう最初の発想のつかみ方と、その発想を実現させるための指の先の繊細さというものに全てがかかっている。そういう意味で言うと、外科医とかオペレーションというのが、小川さんがやっていることを表現するにはしっくりくるのかなっていうふうに思っただけですね。

実は、私の研究の対象はずっと、マルセル・デュシャンという、二〇世紀の初頭から現代美術に非常に大きな影響を与えたと言われている、男性用の小便器を彫刻だと言って出した悪名高い作家なのですが、彼はソシエテ・アノニムという団体のコレクション・カタログを作る際に、ピカソとかブラックとかカインディンスキーとか自分と同世代の作家たちについての短評を書いているんです。たとえばその中で、キュビズムの画家のホアン・グリスを評する時に、外科医という表現を使っているんですね¹²。絵筆の使い方を「外科医の自己修練」というような言い方で評したわけです。それでいうと、あながち外科医と画家を結びつけるのは、間違っていないのかなと思いました。

あと二つほど、気づいたことをお話しさせていただくと、その二つとも二〇〇六年の国立国際美術館の展覧会との大きな違いなんですが、一つはミルククラウンです。先ほど小川さんが「謎は明かしません」と言いながらいろいろ説明をされたあの作品ですが、二〇〇六年の国立国際美術館のときには、ああいうインスタレーション形式のものは、実は全然なかったんですね。鉛筆画と油彩画と映像作品二点で小川さんを見ていただくという形だったんですけれども、今回、久しぶりにインスタレーションを拝見して、平面の中で小川さんがやられていることとインスタレーションとしてやられていることにはやはり一貫性があるということに改めて気づかされました。今日みなさん、小川さんの先ほどの話を聞かれて、もう一度時間があれば、『重なり庭』の会場を見ていただきたいと思います。実は、今日の話を聞いてから見るとさらにちよつと訳がわからなくなるといような仕掛けも施されていて(笑)、その種明かしは僕はできないのでしませんが。ミルククラウンのインスタレーションを見てなるほどと思うのは、やっぱり小川さんは常に世界を眼差している観察者の位置にいながら、本当は何を訴えようとしているかという、見ていると思っているものは実は見ていないんだ、という感覚、あるいは私たちが日々見ているものというのは、それは実は世界のすべてではないということ。そういった、自分に情報として入ってきているものが、何かそれこそがある種の正しさとか確かさでもって確認できるようなものではないというようなこと。それが世界の裏側であつたり、向こう側であつたり後ろだったというようなところで、実はインスタレーションの中には巧みに仕組まれているつていうようなことがありますので、その辺をちよつとどういうふうになっているのか改めて見てもらえればなと思います。

それと、二〇〇六年の展覧会とのもう一つ大きな違いは、鉛筆画のサイズが極端に大きくなっているんですね。二〇〇六年には、『グランド・ツアー』の

部屋にある、アミアンの大聖堂が二体並んでいる絵¹³が、中でも圧倒的に大きかったんです。二〇〇六年の段階ではあれがほぼ最大に近いようなサイズだったんですけど、今回の展覧会の中ではもうどちらかというと小さい方の部類に入る印象があるぐらい、あれから後に鉛筆画が大きくなった。それは技術的な達成で大きくなつていった部分も大きいんだと思いますけど、それとは別に、今日の話を聞いていて、操作というかオペレーションの部分で、Perfect Worldは画面全体のほんの一部分を二重化する作業だったわけですね。例えばピサの斜塔をもう一本並べてみるとか、お月さまをもう一つ書き足してみるとか。つまり全体の中のごく一部を改変して、一つの別の世界を作るのにあれだけの紙面が要った。今、小川さんがやられていることというのは、その一部ではなくて、さきほどの記号でもよくわかった通り、あの全体をボタンボタンと折り曲げたりひっくり返したりして操作されているので、やっぱり元々のサイズでは到底不可能な、あれぐらいのサイズ感が必要になってくるのかなと。その意味で言うと、どんどんと円環が大きくなっているというのが、作品のサイズが変わつていったということからも感じられました。

特にやっぱりサイズが大きくなると鉛筆画の場合は迫力が違いますね。小さい作品でも、みなさんもうご覧いただいたと思いますが、どこをどう見ても鉛筆に見えないような鉛筆画という感じだったかと思えます。小川さんはあまりご本人からお話しされませんが、先ほど少しだけ制作途中の写真が出てきました。一日、三平方センチぐらいでしたっけ、描けるサイズが。一日かけてそれぐらいしか描けない。で、消しゴムを絶対使わないので描き損じが一切許されない。一箇所描き損じると、もうその絵は駄目になるので、その日描く部分だけを、窓を開けて、そこだけを描いて、次の日はそこを閉じて、別のところの窓を開けて描いてつて、最後に全体が見えるという形でようやく一枚が仕上がる、非常に繊細な作業です。一般的な画家が絵全体を眺め渡しなが

ら、ここをもうちょっとこうすればいいやとかつていうことではなく、それこそ外科医がメスの先で悪い細胞を取るような作業です。インタヴューの中でも、全てをシミだと考えて描くというふうにおつしやつていましたけども、まさにそんなような仕事で描かれているのかなと。それもサイズが大きくなると生々しい迫力が出てくるんだなと、今回しみじみと感じました。

——デュシャン研究との関わりも含めて、「外科医」というのが一つ、キーワードに出てきました。小川さんは今までに、そうおつしやられたことつてないですね。初めてでしょうか。

小川 僕はあんまり技術にはこだわってなくて、作品にとつて必要なだけの技術で作品を仕上げるつていうのがあればいいなと思つていて、特に技術についてのお話はさつきはしなかつたんですけれど。

平芳 技術に関心を注いでほしいということではないんですけど、アイデアを実現させるための技術というのも当然必要なわけで、それがやつぱり小川さんの作品を作品たらしめている部分では当然あるのかなということです。知つておいてもらうのは、作品を見ていただくためにはいいのかなと。

小川 そうですね、今回は出品できなかったんですが、ワークショップで二〇人くらいの子どもに絵を描いてもらつて、その子どもの絵の間に僕の絵を入れることによつて、ずらーつとつなげていく作品があるんですよ。それは例えばAつていう子どもの絵があつて、こつちにBつていう全然違う子どもの絵があつて、子どものタッチがあるんですね。そのタッチを僕の紙の上にのぼしていくつていうか、子どもの絵の癖を真似してのぼしていくんですね。紙のこちら

側にはBの子どもの絵があつて、こつちの子どものタッチと癖をのぼしていつて、真ん中でブレンドするというか、そういうのが二〇枚つながつて円環になつてるんです。これは僕が子どもたちと一緒にやるワークショップで、コラボレーションの作品でもあるんですけど、その時は本当に子どもの絵のタッチとか絵の具の飛沫とか靴でふんずけた跡とかいろんなものを、すごく観察して参考しながら、のぼしていきます。それとフェルメールの絵なんかを一部改変しながらやるつていうのは、僕にとつては全く同じ意味でして、その時に必要な技術をその時、頑張つて投入するつていう、そういうふうなですね。

平芳 基本的に、小川さんが自分自身をある種のコンセプチュアルなアーティストであると位置づけられているというのは非常に納得していますし、その通りだと思つていのですが。いわゆるコンセプチュアル・アーティストというのは、コンセプトがある種すべてという部分がどうしてもあつて、特に自らをコンセプチュアル・アーティストだと名乗る人たちというのは、作品が最終的にどういう「形」になるかつていうことは、二義的に考えている人たちが多いんだろと思うんですね。小川さんの作品もそうですし、同時に七階の方で展示をされています岡崎和郎さんの作品もそうですけども、お二人とも非常に強いコンセプトで裏付けはされていますが、やつぱりどういう「形」になつて、どういう「手」でもつて出てくるのかつていうのが、非常に重要な部分もありますし、それがあつて初めて見ている人にそのコンセプトがちゃんと伝わるといふか、共有されることになるんだろかなと思うんです。そうじゃないでしょうか。

小川 はい、そうです。そうです。

平芳 で、もう一つ。先ほど、小川さんを外科医だと表現をしたんですねでも、小川さんの作品の立ち位置というのが、今の日本の現代美術の中でも独特な場所にあるのだらうと思うんですね。今のペインティングの傾向の中に小川信治をそのままではめられるかという、当然そうでもないでしょうし、人と人との関係性に立脚しているようなコンセプトブチュアルな仕事に位置付けられるかという点も必ずしもそうではない、独特なところにいると思うんです。一方で思うのは、小川さんがずっと考えてやっていることは、二〇世紀以降の作家たちがやろうとしてきたことの一つを確実に担っているのかなとも思ったんですね。近代からの美術、特に絵画が何を表しているかというのはよく問題にされることだらうと思います。一般的に、印象派までは何を描いてあるのかわかるんだけど、ピカソの絵以降は何が描いてあるのかわからないって言われますよね。一方で近代美術、特に抽象絵画なんかを評価する人たちというのは、その画面の中で描かれているものがすべてだと。そこで見えているものがすべて、そこに描かれることがすべてだという言い方をします。それはそれで間違った考え方ではないと思うんですけども。

それとは別のもう一つの方向として、今回の小川さんの展覧会そのものだろうと思うんですけど、画家は描くことを通して描かれないことを表現する。つまり、人はどのようにしても描けないような、あるいは形にならないようなもの、あるいは人が絶対に見ることができないようなものを描いたり見せたりすることによって、なんとかかわかつてもらおうとしているんじゃないのかと思うんです。例えば、ピカソやブラックの「キュビスム」は、三次元の物体をどうやって二次元に描くかっていうときに、パーツを一個ずつバラバラにしているんな角度から見たものを並べ直したってよく言われます。一方でピカソなんかは四次元にすぐく興味があって、時間をこの空間の中に取り込んだときに、止まっている絵画の中で運動と違う形でどうやって表現をするのかというのを考

えた。つまり三次元の表現ではない、それよりさらに上の次元のものを描くということ、二〇世紀初頭の画家たちはいろんなやり方で模索をしていたんだというのも事実としてあるわけですね。だから、色がどうか線がどうか、というようなことは、すべて「見えないこと」とつながっているわけです。その意味で言うと、小川さんがやっていることも、その延長線上にあるのかなと。だからそういう意味では、画家がコンセプトブチュアル・アーティストかを分けること自体も、あまり意味がないのかなと、個人的には思っています。

小川 僕は子どものころからずっと写真で絵を見るのが好きで、絵画オタクみたいな感じだったんですけど。西洋の古典絵画とか一通り大体は、写真のレベルですけど、だいたいは見えていて。あとシュルレアリスムなんか好きで、ダリもすごい好きでした。ダリなんかはものすごく好きになってしまつて、描いたらダリみたいな絵にしかならなくて悩んだ時期があつて、ダリから脱出をいかにするかつていうのが一〇年間ぐらいあつたんですけども。大学に入ったときに、やっぱり現代美術っていうものに僕も触れざるをえなくなつて、抽象絵画みたいなものも出てきたり。ニュー・ペインティングっていうのができて、バスキアとかキース・ヘリングとかああいう。絵として完成してないんじゃない、描きかけみたいなものが大画面でしかも高額で取引されるみたいな、そういうニュー・ペインティングの時代に翻弄されながら、自分もアートワールドに入るにはこういうこともしなくちゃいけないのかなつて。いろいろやつてみたんですけど、どれも全くとまらなくて、そのうちそういうこと自体をやめてしまつて、それ以後、美術史にもあんまり興味がなくなつてしまつたんですね。流行とかいろんな過去の巨匠たちの作品と僕って、あまり関係ないのかもしいないと思つて。自分だけに関係のあるものってなんだろうって考えた時に、じゃあ、映画「ローマの休日」から、オードリー・ヘップバーンを消

したらどうなるかなって想像して、ちょっと描いてみたんです。それが Without You の始まりなんですね。それからずっと今まで何も変わっていないので、美術の状況に全く関心のない僕っていいんでしょうかね(笑)。

平芳 それでいいんだと思うんですけどね(笑)。結果的には小川さんも当然美術の状況の中にいらっしやるので、それは小川さんがいることによって美術の状況がまた少しずつ変わっていくことになるんだろうと思いますし。美術の状況があつて、そこに小川さんが入っていくだけでは当然ありませんので。同じように、さっきのスケッチじゃないですけども、どちらもぐるぐる回っているという状況になると思います。

小川 たまたま、レセプションの時に言ったんですけれども、二〇年前に岡崎和郎さんと初めて出会いました。そのころ僕は全くの駆け出しで、東京の小さいギャラリーで個展をやるぐらいの、そういう感じだったんですけれども、ここに見に来ていただいて。そういうのがご縁になって、その二年後か三年後に名古屋の小さい画廊で僕と岡崎さんの二人展をやったんです。偶然第三者の方が企画してくれて。それから岡崎さんのお宅にお邪魔したりとしばらくやりとりがあつて。それから一〇年間ぐらい切れてるんですけど。今回ここで展覧会を岡崎さんと一緒にやるってことでものすごくびっくりして、あり得ないなっていう、そういう個人的な感想になります。

さっきの話に戻るんですけど、美術の状況には興味がなかったんですけど、岡崎さんの、まずコンセプトで作品を作つて、それをまた次のコンセプトの作品に持つて行ったりする、そのやり方みたいなもののがものすごく共感できるなと思つて。多分、僕が自分がこうであつていいのかつてずっと不安だったのを、岡崎さんが先にやつている感じがして。そういうやり方いいんだつてい

うふうに、僕に確信を与えていただいたつていうのがものすごく大きいですね。マルセル・デュシャンの作品の展開の仕方と同じように、作品そのものつていうよりも、論理の展開の仕方がすごく、僕には親しみがもてる、そういうのがありますね。ポツポツそういう作家がいるんです。

平芳 多分そういうことなんでしょうね。考えていることと、それが形になつて出てくることと、それがまたさらに考えに還元されていつて次につながっていくというような、一つの思考と実践のあり方みたいなもののモデルになるような作家たちというのが小川さんの前にいて。それに共鳴するような形で進められていて。多分、さらに若い世代の人たちが岡崎さんなり小川さんなりの仕事を見て、同じように共鳴をして、それがつながっていくことなんだろうと思えます。状況に乗つて売れることがつながっていくことでは必ずしもないわけですから。そういう意味では非常に重要なつながりになっていくんだろうと思います。

もう一つ、さきほど後回しにしますねと申し上げていた、展覧会の一番最後のところが、今回「グランド・ツアー」というタイトルで、小川さんにとつては新しい試みになっているということについてです。二〇〇六年の時には、純粹にシリーズごとに部屋を区切つて、一つずつシリーズを見てもらうという構成でしたが、今回も前半は新作から始まっていくという感じではあります。それぞれシリーズごとに小川さんが何を考えてられるかを見てもらつて、最後に「グランド・ツアー」という、いろんなシリーズからピックアップしてきた作品をシャッフルした感じの展示になっています。いろんなタイプのものが一部屋に集められていて、個人的な感想としてはとても新鮮で、それぞれのシリーズの中で捉えられてきたこととか、このシリーズはこういうものなんですつていう、ある種の説明がつくようなところを超えて、小川さんがどのよ

うにして仕事を考えて実践してきたのかをいろんなサンプルで見渡しながら、ありえもしない世界をみんながめぐっているような、そういう感覚を覚える部屋になっていました。小川さん自身、あの部屋を展示してみて、どんな感想をお持ちですか。

小川 僕は、「グランド・ツアー」の部屋を作りたいっていうのは、この企画が持ち上がった少し後くらいに思い始めていたんですけれども、でも僕はそのときに今みたいなものになるとは思ってなくて、グランド・ツアーというのが、僕は詳しくないんですけど、実際にありますよね。ヨーロッパの貴族の。

平芳 そうですね。社会に入っていくとする若い貴族階級の男性が、一種の通過儀礼として行う大旅行。イギリス発祥ですけれども、ヨーロッパ大陸を何ヶ月とか何年もかけてずっと回っていったって、社会経験ではないですけど、世界を見て回るといふ経験をすることによって、成人になって社会に入っていくというようなものですね。

小川 そのことをカリカチュアというか、面白おかしく本にした「ドクター・シンタックス博士の旅」という、昔にベストセラーになった本を偶然見つけたって。ドクター・シンタックス博士を主役にして、何か僕なりのグランド・ツアーの旅を表現しようと思ったんです¹⁴。けど、発想が二転三転しまして、僕がこれまで二〇年くらい作品を作ってきたことを見渡して、それぞれ意味はあるんですけどそれを一度全部バラバラにして、僕がキュレーションしてみたらどうなるかなと、そういう感じに結果落ち着いたわけですね。

平芳 確かに、キュレーションなさっている感じが非常に表れていましたね。

もう一つ感じたのは、選ばれている作品が、当然そのシリーズの中心になるようなものとは別に選ばれているんだとは思ってんですけど、軽快な作品が多いという印象はありましたね。切手が並んで、消印がほとんど変わっていくようなものであったりとか、絵葉書と絵葉書、エッフェル塔の写真が重なっていったような。非常にガッツリと正面切って描きこまれたというよりも、軽やかにアイデアと戯れながらやっているというような感覚のものなんかが出ていて。それによって小川さんの仕事の中での軽やかさも出ていますし、旅というものがもっている、あまり重々しくない非日常的な軽やかさみたいなものが出ていて、非常にタイトルとコンセプトに合った部屋になっているなと感じました。

小川 今、平芳さんが言われたカラージュの作品の中で、一番最初に作ったのが、パリのポストカードとロンドンのポストカードが貼ってあって、真ん中だけ僕が描いてつなげている《パリーロンドン》¹⁵というやつなんですけど。旅の思い出つていふのは何箇所か、例えばヨーロッパとか行ったりすると、後で思い出すと、あれこれどっちだったっけ、って混ざっていくんですね。そういう感じを、たまたま買ってきたこのポストカードを見て、これつなげちゃえみたいな感じでつないだのが始まりで、それだったらもつといろんなつなげられるものがあるんじゃないかって。その時、古本屋さんみたいなところで買ってきた大量の使い古しの切手、消印の部分だけ僕は鉛筆で補ったんですけど、ああいうものとか。あとは、《地球》¹⁶っていう作品が、ミリオラマカードっていうカードが円環状に貼ってある。その隙間の三角形の隙間だけ僕が補ってあるんですけど。ミリオラマカードっていうのは、昔からヨーロッパに伝わっているカードらしくて、どの順番に並べても繋がるっていう不思議なカードらしいんです。それを見た時に、でもこの作者は円環状につながることとは想

像してないだろうと思って。じゃあやつちまえて、じゃあこう隙間が空くよねって、それは僕が補うべきところだなんていうそんな感じで。常にあるイメージを、そのイメージの持っている意味とはまったく関係のないところから勝手につないでいってしまうという、ある意味の編集作業みたいな、そういうのを狂ったようにやってみました(笑)。そのときは。これでもできるあれもできるって。

平芳 ミリオラマカードを円形につないでいるのは非常に面白くて、あの部屋にある作品の中で僕は一番好きなんです。飾ってあるのは円の内側に空がある状態のもので、今回展示はありませんが、同じようなミリオラマカードを使って、外側に空がある《天球》というタイトルがついている対になる作品があります。非常に深い小川さんのコンセプトを、ミリオラマカードを使って軽やかに表している面白い作品なので、またお時間があれば後でじっくり見ていただければと思います。もともとミリオラマカード自体が、世界を断片化してバラバラにして、継ぎ足していけば、どのようにでも一つの世界が出てくるというようなものなので、小川さんの発想の先祖のようなものの一つなのかなとも思います。

——「グランド・ツアー」に関して、もしかしたら展覧会全体のことかもしれないんですが、展覧会を詰めていく中で印象的だったのが、「芸術家は展覧会ごとに死を繰り返す」という小川さんの言葉でした。ちょっとびっくりしたところもあるんですが、すごく緊張感のある言葉だったので。小川さんがその過程を振り返ったときに、どういったことを経験されたのか、せつかくの機会です。で聞いてみたいと思います。

小川 今、まさに死んでいる状態です(笑)。言葉にはしたんですけど、ああこういうことなのかと、今味わっています。展覧会場を作る前に畑井さんにもインタヴューしてもらったりとか、平芳さんのテキストを読ませてもらったり、いろいろやり取りをさせていたでいて、僕の中でこんな展覧会ができるんだって積み上げていったんですね。それで展覧会場が全部出来上がって、見たときに、それまで僕が考えていたことが全部吹っ飛んでしまって、頭の中が真っ白になっているような状態なんです。展覧会っていうのは諸刃の刃みたいになっていて、見に来ていただくお客さんの方に向かって解放されているものなんですけど、僕自身にも、ものすごい塊となって降り注いでいるわけなんです。それで僕はショックを受けている状態で、もう一回ここから立ち直って、また次のことを考えようかと、そんな感じですね。

平芳 立ち直りは早いと思いますけどね(笑)。大阪の展覧会をやっている最中にBehind Youが浮かんでいたぐらいなので。一回頭が真っ白になることで、次のシリーズがすぐに浮かんでくるのだらうと思いますが。展覧会を一本やると学芸員も必ず死にますけどね(笑)。

小川 学芸員に捧ぐっていうことですね。

——いろんな死がここで繰り返されていくのかなと。また、小川さんがあえて残してくださったという謎についてですが、小川さんの作品を見れば見るほど、謎が一つわかったような気になったらまた次がわからなくなっていく。このレクチャーを聞いたならさらに生まれてくる新しい謎があつて、円環状に繰り返す。作品も謎をまつて大きくなっていく。それを私たちは目撃できるっていう、有機的っていうんでしょうか、作品が一つできてそれで終わりではない、

そういう魅力的な謎があるんじゃないかなというのが、私の感じたところです。これはぜひ、会場の皆さんにも体験していただきたいと思います。

小川　どうか、謎を持ち帰ってください。

——今回、小川信治さんと同時に岡崎和郎さんの個展も開催しています¹⁷。小川さんもおっしゃっていたように、岡崎さんとの深い関わりがあったというところで、今日は、会場に岡崎さんもうらっしゃっていただいています。岡崎さん、一言お願いできますでしょうか。

岡崎　この度、小川信治くんと一緒に展覧会をすることになって、非常に光栄です。作品を見せていただいて、三〇(歳)の違いって、恐ろしい感じがしますね。僕なんかデュシヤンのオブジェから始まって、ごろごろごろ来たんですけれども。デュシヤンはかつて「絵画は死んだ」とか言って¹⁸。彼〔小川さん〕の場合は絵画の復権がありますね。もう衝撃を受けます。それで、今の漫画のような絵で説明がありましたよね。楽しかったですよ。ただ僕には彼みたいなデッサン力は全くないんですけど、ただ、ものをつくることはできるんですよね。だから切り口が全く違うんですけど、考え方は似たところもありますね。対称と非対称の問題とか、位相の空間の問題とか。だけど、絵画の場合はもつと複雑にできますね。立体的場合はそんなにできませんよね。それともう、時代が全く違って、彼みたいに新しいタイプではありませんから僕は。もう二一世紀と二〇世紀の違いぐらいな感じですね。

小川　そんな、とんでもないです。

岡崎　僕は二一世紀と二〇世紀の中間ぐらいです。彼は非常に素晴らしいと思います。先日、彼の絵画の作品をいただいたんです。僕の作品の中でモランディの立体があるんですけども、モランディにちなむという作品¹⁹。それを彼流に仕上げた作品をいただいたんです。ものすごい几帳面ですよ、素晴らしいです。どうもありがとうございます。御礼を言わせていただきます。

二〇一六年九月二四日(土) 於千葉市美術館二階講堂
本対談は、当美術館の展覧会「小川信治―あなた以外の世界のすべて」(二〇一六年九月七日―一〇月三〇日)にあわせて開催された。

- 1 《ストラスブル》二〇一五年、鉛筆・紙、一〇九・八×一四九・八cm、作家蔵(小川信治―あなた以外の世界のすべて『千葉市美術館、二〇一六年、一八頁])
- 2 《アントワープ―ジュネーブ3》二〇一六年、鉛筆・紙、一一〇・〇×一五〇・〇cm、作家蔵(同、一七頁)
- 3 《重なり庭》二〇一六年、二つの映像、壁とパネルにアクリル絵具、二台のビデオカメラ、照明、レフ板、イーゼル、白衣、画材一式、作家蔵(同、七〇―七二頁)
- 4 「小川信治展二つの点」(ギャラリーキヤブション、二〇〇三年三月三十一日―四月二八日)
- 5 南房総市真野寺の本尊《千手観音菩薩立像》(平安時代後期・十二世紀。千葉市美術館で開催した展覧会「仏像半島―房総の美しき仏たち」(二〇一三年四月―六月一日―六月二六日)に出品されている。『仏像半島―房総の美しき仏たち』千葉市美術館、二〇一三年、五二―五三頁。
- 6 「小川信治展―干渉する世界―」(国立国際美術館、二〇〇六年九月三〇日―十二月二四日)
- 7 《風景の中のヴィナス》二〇〇七年、油彩・カンヴァス、四〇・〇×三六・〇cm、個人蔵
- 8 《小川信治―あなた以外の世界のすべて『千葉市美術館、二〇一六年、五五頁]》
- 9 《バルコニーにて1》(二〇〇七年、鉛筆・紙、七六・一×五六・二cm、東京ステーションギャラリー、同、五八頁)、《バルコニーにて2》(二〇〇七年、鉛筆・紙、七六・〇×五五・九cm、東京ステーションギャラリー、同、五九頁)に関して、「オープン・ウィーク」ひらかれた美術の九日間(東京ステーションギャラリー、二〇一七年一月二八日―二月五日)において、小川は「Behind Youシリーズ」のコンセプトを解説するための立体模型を新たに制作・展示している。
- 10 「History in Art」(クラクフ現代美術館(MOCCA)、二〇一一年五月二〇日―一〇月二六日)
- 11 《モアレの風景1〜9》二〇〇五―二〇〇六年、鉛筆・紙、各五六・〇×七六・〇cm、作家蔵(小川信治―あなた以外の世界のすべて『千葉市美術館、二〇一六年、二三―三二頁])
- 12 平芳幸浩「ではここで、凍った世界を捻って割ってみましょう」同、六一―四頁。
- 13 デュシャンがソシエテ・アノニムのコレクション・カタログ(一九五〇年完成)のために書いた短評については、『マルセル・デュシャン全著作』(北山研二訳、未知谷、一九九五年)二九―三二二ページを参照。ただし、この文章はソシエテ・アノニムの主催者であるキヤサリン・ドライヤーによって修正が加えられ、「外科医」や「化学者」等の比喩が削除されている。修正前のオリジナル原稿の内容については「Robert L. Herbert, Eleanor S. Apter, Elise K. Kenney, *The Societe Anonyme and the Drier Bequest at Yale University: A Catalogue Raisonne*, Yale University, 1984を参照。また「医者や科学者や職人とのアナロジー―で芸術制作を記述したデュシャンの態度の意味については、平芳幸浩『マルセル・デュシャンとアメリカ 戦後アメリカ美術の進展とデュシャン受容の変遷』(ナカニシヤ出版、二〇一六年)四二―四六ページを参照。
- 14 《アミアン大聖堂》二〇〇六年、鉛筆・紙、六六・五×一〇四cm、小川瑞穂氏蔵(小川信治―あなた以外の世界のすべて『千葉市美術館、二〇一六年、七七頁])
- 15 William Combe, *The tour of Doctor Syntax, in search of the picturesque. A poem*, London, R. Ackermann, 1817. その他複数の書籍を参照して作品を構想しつつた。
- 16 《バリー・ロンドン》二〇〇九年、アクリル・絵葉書・紙、五六・〇×七六・〇cm、作家蔵
- 17 《小川信治―あなた以外の世界のすべて『千葉市美術館、二〇一六年、八〇頁]》
- 18 《地球》二〇〇九年、アクリル・紙・ミリオラマカード、六六・六×六六・〇cm、個人蔵(同、八八頁)
- 19 「岡崎和郎 Who's Who―見立ての手法」(千葉市美術館、二〇一六年九月七日―一〇月三日)
- 20 マルセル・デュシャン『マルセル・デュシャン全著作』(北山研二訳、未知谷、一九九五年、二七八頁、およびマルセル・デュシャン、ピエール・カバンヌ『デュシャンの世界』(岩佐鉄男、小林康夫訳、朝日出版社、一九七八年、八四頁等を参照。
- 21 岡崎和郎《Natura Morta》一九九六年、セメント、個人蔵(岡崎和郎 Who's Who―見立ての手法』千葉市美術館・北九州市立美術館、二〇一六年、一四一―一四四頁)

A Discussion: “Ogawa Shinji’s Grand Tour: Thoughts and Production”

Speakers: Ogawa Shinji, Hirayoshi Yukihiro

Chair: Hatai Megumi

This Discussion was held in conjunction with the Special Exhibition “Ogawa Shinji: The Whole World Without You” which ran from 7 September until 30 October 2016. Ogawa Shinji (1959–) has produced work on a consistent theme that challenges the familiar world through images of that “world” using a multitude of layers in the search for new possibilities. On display were the Ogawa-definitive series that employ traditional techniques in oil painting and pencil drawing, images based on picture and photograph, as well as introducing us to the various experiments in present-day Ogawa, including the most recently produced installations that combine different media.

Prior to the Discussion, a Lecture was given by Ogawa himself interspersed with illustrations drawn for the occasion and images from his work. Firstly, using ordered examples from his *Symmetry/Asymmetry* series, Ogawa explained how ideas grasped from the midst of “confusion of reality and imagination” are put into the form of an artwork. This showed us how all Ogawa’s work is based on solid concepts. Next, on the subject of his most recent creation: the installation-type work *Overlapping Garden* – deemed the exhibition’s most mind-bending piece – he leaves visitors to puzzle over so as not to destroy its links with past works or the any number of diverse images that it may evoke. The lecture theme also extended to images of time and space considered through a vision of a landscape, and the relationship between world and its observer. It concluded with a focus on one exhibit, *Moiré*, in order to explain the conceptual development, and, indeed, the title of the exhibition, “The Whole World Without You”.

The Discussion was begun by Hirayoshi Yukihiro, organiser of the 2006 Ogawa Shinji Exhibition held at the National Museum of Art, Osaka, who confirmed the characteristics and position of Ogawa as a contemporary artist, and provided analytical comments on the structure of the exhibition on this occasion and on the development of his artwork. Hirayoshi made mention of the experiment in installation-type creations unknown 10 years previous, and the change in size seen particularly in the pencil drawings. This concluded in statements about Ogawa’s underlying vision, and expectations for future development. Hirayoshi even described Ogawa as a surgeon, whose work is the result of an on-going thought process and experiment that focuses on manipulating the world using high-level techniques for its inspiration and detail.

In response, Ogawa used examples of his past work to re-affirm the methodology behind his production. Ogawa also explained how his style is a result of childhood experience, trial and error in his response to trends in art history and contemporary art contexts, to finally arrive at “that which concerns just the self”. At this point Hirayoshi remarked on contemporary artist Ogawa’s unique position within present-day Japanese contemporary art, whilst undoubtedly sharing the aims of modern-period artists since the 20th century as an artist who “expresses the unportrayable through portrayal”.

The Discussion moved onto the room entitled *Grand Tour* set up in the last section of the exhibition. The *Grand Tour* succeeds *Overlapping Garden* as a further installation experiment, displaying 20 years-worth of Ogawa’s work dismantled and reconstructed by Ogawa himself. Hirayoshi noted the harmony between the softness shown in Ogawa’s collage works and the concept of installation, praising Ogawa’s ability at curation. One intriguing group of works are created by using postcards and milliorama cards to suggest Ogawa’s original idea of fragmentation and reconstruction of the world, and which are also a format befitting the theme of “Grand Tour”. Ogawa’s words “The artist repeats death at each exhibition” incite much anticipation among his public for his “rebirth” and for further developments in his artwork.

Lastly we heard comments from Okazaki Kazuo (1930–) whose solo exhibition “Similarity and Difference—Who’s Who by Kazuo Okazaki” was held simultaneously with the Ogawa Shinji Exhibition. As mentioned during the Discussion, there has been 20 years of exchange between Ogawa and Okazaki; in the past they have held a joint exhibition in a gallery in Nagoya, and Ogawa is an artist of special standing whom he greatly respects. Okazaki talked of a “restoration of pictorial art” in Ogawa’s work, and, although angles may differ, he indicated the many concepts in common with his own artwork. Okazaki went on to evaluate highly the originality of Ogawa’s work, and closed the Discussion expressing his gratitude to him.

(Translated by Barbara Cross)

オーバリン大学・アレンメモリアル美術館所蔵

メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵版画目録(調査報告)

※目録は横組のため、80頁から始まり28頁までに掲載

米国オハイオ州に所在するオーバリン大学(Oberlin College)のアレン・メモリアル美術館(Allen Memorial Art Museum)には、明治三十九年(一九〇六)に日本を旅行した米国人女性メアリー・エインズワース(Mary Ainsworth)の浮世絵版画コレクションが収蔵されている。一八三三年に創立されたオーバリン大学は、創立以来、性別や人種の差別なく学生を受け入れたことで知られる名門のリベラル・アーツ・カレッジで、エインズワースもこの大学の卒業生であった。

エインズワースの浮世絵収集は、来日以降継続的に続けられ、その数は約一五〇〇点余に及ぶ。初期の稀少作品から幕末の浮世絵まで、主要な絵師の作品が収集されているが、とりわけ葛飾北斎(一七六〇〜一八四九)、歌川広重(一七九七〜一八五八)、歌川国芳(一七九七〜一八六二)の作品は質量共に優れ、保存状態もよい。広重は特に愛好されたようであり、コレクションの過半数が



若き日のメアリー・エインズワース

広重の作品であることも特徴といえる。その主要部分は、ロジャー・キーズ氏の“The Ainsworth Collection Japanese Woodblock Prints”(オーバリン大学一九八四年)で紹介されているが、それ以来、アレン・メモリアル美術館での公開以外あまり取り上げられる機会がなく、これまで日本で紹介されたこともなかった。

このたびこの貴重な浮世絵コレクションを是非日本でも紹介したいと考え、二〇一九年に日本での展覧会巡回を目指して、現地での調査を行った。まずはできるだけ多くの作品を拝見することでコレクションの全体像を掴み、さらに展覧会実施のために二〇〇点余を選び出すということを念頭に置いた調査であった。参加したのは、巡回展が予定されている千葉市美術館、静岡市美術館、大阪市立美術館各館の学芸員である。

本稿は今回の調査の報告として、調査結果を踏まえてエインズワース・コレクションを日本語のリストとして公表するものである。ただし日程が限られていたため、調査期間中にコレクションすべてを確認することができず、一部はアレン・メモリアル美術館提供の資料、公開されている所蔵品データベースを参考に記載している。またリスト全般にわたって、前記の文献によるロジャー・キーズ氏による指摘を参考にさせていただいている。

なお調査にあたっては、アレン・メモリアル美術館館長アンドリア・ダースティン氏に日本での展覧会開催という企画について深くご理解をいただいた上

で、学芸員ケビン・グリーンウッド氏の親身なるご協力をいただいた。また現
地との最初の連絡にあたっては、クリーブランド美術館学芸員シネード・ヴィ
ルバー氏のご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

「メアリー・エインズワース浮世絵コレクション調査実施概要」

調査実施日 平成二八年一〇月一四日(金)～一九日(火)

参加学芸員 田辺昌子(千葉市美術館)

松岡まり江(千葉市美術館)

吉田恵理(静岡市美術館)

大石沙織(静岡市美術館)

秋田達也(大阪市立美術館)

ケビン・グリーンウッド(アレン・メモリアル美術館)

調査協力者 ヘレン・ナガタ(ノーザン・イリノイ大学)

曽根広美(マンゴステイン)

調査助成 本調査は、左記の助成を受けて実施した。

- 1、平成二八年度 文化庁 地域の核となる美術館・博物館支援
事業(オーバリン・プロジェクト実行委員会に対する助成)
- 2、公益財団法人 野村財団 二〇一六年度下期 芸術文化助成
(静岡市美術館 (指定管理者(公財)静岡市文化振興財団)に対する
助成)
- 3、公益財団法人 カメイ社会教育振興財団 平成二八年度助成
(静岡市美術館 吉田恵理に対する助成)

4、平成二八年度メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術
研究振興基金研究助成(千葉市美術館、松岡まり江に対する助成)

【メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵版画目録 凡例】

1、リストは、下記の項目順に記している。

①整理番号 ※エインズワース・コレクション以外に属する日本の版画を含め
たリストが別途アレン・メモリアル美術館から提供されている。便宜上のそ
の通し番号を残した。

②所蔵番号 ※エインズワース・コレクションの所蔵番号は、すべて Mary A.
Ainsworth Bequest, 1950. ではじまるが、紙面の関係から下3桁のみ記してい
る。例えば Mary A. Ainsworth Bequest, 1950.134 であれば134のみ記載した。

③調査 ※今回調査することができなかった作品については「未」と記した。

④絵師名 ※初代は絵師名のみ。二代目以降は代を入れている。

⑤作品名 ※画中に作品名の記載がある場合は「」を付けている。

⑥制作年代

⑦判型(または材質・形状)

⑧法量 (縦×横 単位はミリメートル) ※基本的にアレン・メモリアル美術
館より提供のデータを用いた。続絵の場合、つなげた状態で採寸している場
合がある。

⑨版元 ※版元印がない場合、版元が確認できない作品は「不詳」とし、他が
所蔵する作品で確認できる場合は()で版元を記載した。また、文献などで
推測される場合は「()か」、シリーズ中の一図で、他の図から版元が確実
な場合はその版元名を記し、推測される場合は「:...か」とした。なお整理番
号○○○○(木曾海道六拾九次)シリーズなど版權移譲等の理由により故意
に版元を削った場合、()で版元を記載せず、空欄とした。摺物について

は、版元が想定できないため、「」を入れている。

⑩署名

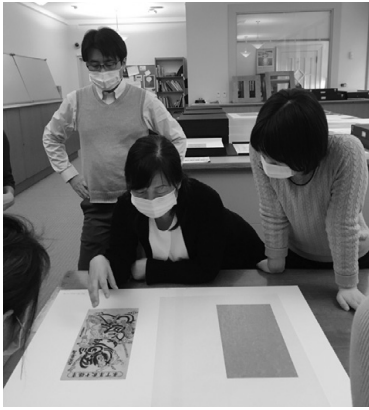
⑪改印 ※マージンが切断されている等により、改印が確認できない場合、他が所蔵する作品を参考に（ ）で改印を記載した。

⑫備考 ※作品の特定に関わる賛や詞書の一部など、特記事項。

2、基本的なリストの作成にあたっては、整理番号74～453および685～725を千葉市美術館、454～618および726～801を大阪市立美術館、619～684および802～1637を静岡市美術館で担当した。

3、旧字・異体字は、基本的に常用漢字に改めて記したが、一部慣用に従っている。

4、作品名、画中の賛や詞書等の翻刻について、現代語として理解しにくい部分は適宜濁点などを補った。



調査風景

5、未調査作品のデータはアレン・メモリアル美術館データベース、文献資料等により記している。データベースに画像がない作品については、提供された所蔵リストの英文タイトルより推定した。

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1633	1507		二代歌川広重	「諸国名所百景 相州七里か ⁵ 坂」	安政6(1859)年5月	大判錦絵	360×241	魚屋栄吉	広重画	「未五改」か	
1634	1508		二代歌川広重	「諸国名所百景 佐渡金山奥穴の 図」	安政6(1859)年11月	大判錦絵	346×242	魚屋栄吉	広重画	「未十一改」	
1635	1509	未	二代歌川広重	「江戸名所四十八景 十九 真乳山」	文久1(1861)年1月	中判錦絵	262×188	葛屋吉蔵	広重画	「西正改」	
1636	1509A	未	三代歌川広重	(「東京名所之内 赤坂仮皇居御出 門之図」)か	明治14(1881)年	3枚続の1 枚か	259×245	(平野伝吉)か	(応需広重)		
1637	1510	未	西村重長 (複製)	役者絵版木	近代	—	319×414	—			「日本画工 西村 重長筆(印)」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1602	1495.2	未	歌川広重 (復刻)	「五十三次余興 間之宿 鶴見」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1603	1495.3	未	歌川広重 (復刻)	「東海道之内 金沢路 杉田 梅盛」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画		版下絵をもとにした復刻
1604	1495.4	未	歌川広重 (復刻)	「東海道之内 金沢一覧山 八 景眺望」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1605	1495.5	未	歌川広重 (復刻)	「東海道之内 金沢路 能見堂 八景遠望」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1606	1495.6	未	歌川広重 (復刻)	「東海道之内 金沢雀が浦 旅 客近舟」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1607	1495.7	未	歌川広重 (復刻)	「五十三次余興 間之宿立場 境 木」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1608	1495.8	未	歌川広重 (復刻)	「東海道之内 相 州鎌倉 鶴ヶ岡」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1609	1495.9	未	歌川広重 (復刻)	「東海道脇路 鎌倉詣之内 由 比ヶ浜」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1610	1495.10	未	歌川広重 (復刻)	「東海道之内 相州江之島」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1611	1495.11	未	歌川広重 (復刻)	「五拾三次余興 間之宿立場 景 取」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1612	1495.12	未	歌川広重 (復刻)	「東海道脇路 大山詣之内 四 つ谷追分」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画		版下絵をもとにした復刻
1613	1495.13	未	歌川広重 (復刻)	「東海道脇路 大山詣之内 田 邑」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1614	1495.14	未	歌川広重 (復刻)	「五拾三次脇路 大山海道之内 子安」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1615	1495.15		歌川広重 (復刻)	「東海道脇路 大山大滝」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1616	1495.16		歌川広重 (復刻)	「五拾三次之内 脇路 大山寺」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1617	1495.17	未	歌川広重 (復刻)	「下総成田道中 之内 行徳」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1618	1495.18	未	歌川広重 (復刻)	「下総成田道中 之内 利根川ば らへ松」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1619	1495.19	未	歌川広重 (復刻)	「下総成田道中 之内 小金原」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1620	1495.20	未	歌川広重 (復刻)	「下総成田道中 之内 印場沼」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻
1621	1495.21	未	歌川広重 (復刻)	(不明)	大正8(1919)年	-	457×311× 35	(復刻)	-		サイズは両か
1622	1496	未	二代歌川広 重	「東海道五十三 次 四十四 四 日市」	安政1(1854)年2月	九ツ切判	112×171	山城屋甚兵衛	重宣画	「改」 「寅二」	
1623	1497	未	二代歌川広 重	「江戸名所 芝 神明」	安政5(1858)年10月	大判錦絵	257×374	山口屋藤兵衛か	重宣画	「午十」	
1624	1498	未	二代歌川広 重	(「相州江のしま 詣之図」)	安政1(1854)年10月	大判錦絵3 枚続の左	368×251	山城屋甚兵衛	一幽斎重宣 画	「改」 「寅十」	
1625	1499		三代歌川広 重	初代広重墓碑	明治15(1882)年	大判錦絵	381×252	不詳	立斎広重 歌白(印)、 応需綾岡か く(印)		詞書：綾岡輝松 (非売品か)
1626	1500	未	二代歌川広 重	「近江八景 堅 田落雁」	安政6(1859)年2月	?	251×276	藤岡屋慶次郎	二世広重画	「未二 改」	
1627	1501	未	二代歌川広 重	「東都名所 上 野清水堂満花」	文久2(1862)年2月	?	244×264	和泉屋市兵衛	広重画	「戌二 改」	
1628	1502	未	二代歌川広 重	「東都三十六景 今戸橋真乳山」	文久1(1861)年6月	大判錦絵	339×225	相卜	広重画	(「西六 改」)	マージン欠
1629	1503	未	二代歌川広 重	「東都三十六景 増上寺朝霧」	文久1(1861)年6月	大判錦絵	358×240	相卜	広重画	「西六 改」	
1630	1504	未	二代歌川広 重	「江戸名勝図会 鍬の渡」	文久3(1863)年8月	大判錦絵	378×252	藤岡屋慶次郎	広重画	「亥八 改」	
1631	1505	未	二代歌川広 重	「江戸名勝図会 洲崎」	文久3(1863)年6月	大判錦絵	363×246	藤岡屋慶次郎	広重画	「亥六 改」か	
1632	1506	未	二代歌川広 重	「諸国名所百景 加州金沢大乗 寺」	安政6(1859)年11月	大判錦絵	337×221	魚屋栄吉	広重画	(「未十 一改」)	マージン欠

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量 (mm)	版元	署名	改印	備考
1568	1462	未	歌川広重	「富士三十六景 東都佃沖」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	348×243	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1569	1463	未	歌川広重	「富士三十六景 東都御茶の水」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	364×246	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1570	1464	未	歌川広重	「富士三十六景 東都両ごく」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	348×232	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1571	1465	未	歌川広重	「富士三十六景 東都隅田堤」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	364×240	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1572	1466	未	歌川広重	「富士三十六景 東都飛鳥山」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	348×224	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1573	1467	未	歌川広重	「富士三十六景 雑司がや不二見 茶や」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	351×234	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1574	1468	未	歌川広重	「富士三十六景 東都目黒夕日が 岡」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	351×234	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1575	1469		歌川広重	「富士三十六景 鴻之台とぬ川」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	363×236	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	左マージン欠
1576	1470		歌川広重	「富士三十六景 武蔵小金井」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	348×234	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1577	1471	未	歌川広重	「富士三十六景 武蔵たま川」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	363×244	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1578	1472	未	歌川広重	「富士三十六景 武蔵越かや在」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×230	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1579	1473	未	歌川広重	「富士三十六景 武蔵野毛横はま」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×234	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1580	1474	未	歌川広重	「富士三十六景 武蔵本牧のはな」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×234	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1581	1475	未	歌川広重	「富士三十六景 相州三浦之海 上」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	363×244	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1582	1476	未	歌川広重	「富士三十六景 さがみ川」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	348×234	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	上左マージン欠
1583	1477	未	歌川広重	「富士三十六景 相模七里が浜」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×235	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	上マージン欠
1584	1478	未	歌川広重	「富士三十六景 相模江之島入 口」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×235	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1585	1479	未	歌川広重	「富士三十六景 はこねの湖すい」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	363×244	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1586	1480	未	歌川広重	「富士三十六景 伊豆の山中」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	372×254	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	下マージン欠
1587	1481		歌川広重	「富士三十六景 駿河薩た之海 上」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	362×244	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1588	1482	未	歌川広重	「富士三十六景 駿河三保之松 原」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×244	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1589	1483	未	歌川広重	「富士三十六景 東海堂左り不二」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×235	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1590	1484	未	歌川広重	「富士三十六景 駿遠大井川」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×235	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1591	1485	未	歌川広重	「富士三十六景 伊勢二見が浦」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	363×247	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1592	1486	未	歌川広重	「富士三十六景 信州諏訪之湖」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	363×246	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1593	1487	未	歌川広重	「富士三十六景 信濃塩尻峠」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	351×236	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1594	1488	未	歌川広重	「富士三十六景 甲斐御坂越」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	351×244	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1595	1489	未	歌川広重	「富士三十六景 甲斐大月の原」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	351×244	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1596	1490	未	歌川広重	「富士三十六景 甲斐犬目峠」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	378×254	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1597	1491	未	歌川広重	「富士三十六景 下総小金原」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	351×230	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1598	1492	未	歌川広重	「富士三十六景 上総黒戸の浦」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×238	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1599	1493	未	歌川広重	「富士三十六景 上総鹿楚山」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	351×235	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1600	1494	未	歌川広重	「富士三十六景 房州保田の海 岸」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	349×234	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1601	1495.1	未	歌川広重 (復刻)	「五十三次余興 間之宿 立場 高輪」	大正8(1919)年	大判錦絵	219×344	酒井好古堂	広重画(印)		版下絵をもとにした復刻

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1538	1432		歌川広重	「名所江戸百景 目黒爺・が茶屋」	安政4(1857)年4月	大判錦絵	372×251	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 四」	
1539	1433		歌川広重	「名所江戸百景 王子滝の川」	安政3(1856)年4月	大判錦絵	359×238	魚屋栄吉	広重画	「改」か 「辰四」 か	
1540	1434		歌川広重	「名所江戸百景 猿わか町よるの 景」	安政3(1856)年9月	大判錦絵	359×241	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰九」	
1541	1435		歌川広重	「名所江戸百景 請地秋葉の境 内」	安政4(1857)年8月	大判錦絵	359×258	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 八」	初摺
1542	1436		歌川広重	「名所江戸百景 木母寺内川御前 栽畑」	安政4(1857)年12月	大判錦絵	359×241	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十二」	
1543	1437		歌川広重	「名所江戸百景 にい宿のわたし」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	374×251	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 二」	
1544	1438		歌川広重	「名所江戸百景 鴻の台とね川風 景」	安政3(1856)年5月	大判錦絵	357×240	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰五」	初摺 所蔵印あり
1545	1439		歌川広重	「名所江戸百景 堀江ねこざね」	安政3(1856)年2月	大判錦絵	342×223	魚屋栄吉	広重画	(「改」 「辰 二」)	マージン欠
1546	1440		歌川広重	「名所江戸百景 小奈木川五本ま つ」	安政3(1856)年7月	大判錦絵	359×241	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰七」	
1547	1441		歌川広重	「名所江戸百景 両国花火」	安政5(1858)年8月	大判錦絵	374×256	魚屋栄吉	広重画	(「午 八」)	初摺。データベ ース画像はマージ ンなし。
1548	1442		歌川広重	「名所江戸百景 両国花火」	安政5(1858)年8月	大判錦絵	366×239	魚屋栄吉	広重画	「午八」	
1549	1443		歌川広重	「名所江戸百景 浅草金龍山」	安政3(1856)年7月	大判錦絵	342×251	魚屋栄吉	広重筆	(「改」 「辰 七」)	マージン欠
1550	1444		歌川広重	「名所江戸百景 よし原日本堤」	安政4(1857)年4月	大判錦絵	367×227	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 四」	
1551	1445		歌川広重	「名所江戸百景 浅草田甫西の町 詣」	安政4(1857)年11月	大判錦絵	374×259	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十一」	初摺
1552	1446		歌川広重	「名所江戸百景 蓑輪金杉三河じ ま」	安政4(1857)年間5月	大判錦絵	360×241	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十五」	所蔵印あり
1553	1447		歌川広重	「名所江戸百景 深川木場」	安政3(1856)年8月	大判錦絵	362×244	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰八」	所蔵印あり
1554	1448		歌川広重	「名所江戸百景 深川洲崎十万 坪」	安政4(1857)年間5月	大判錦絵	359×235	魚屋栄吉	広重画	「改」か 「巳壬 五」か	
1555	1449		歌川広重	「名所江戸百景 芝うらの風景」	安政3(1856)年2月	大判錦絵	374×254	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰二」	
1556	1450		歌川広重	「名所江戸百景 南品川鮫洲海 岸」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	356×248	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 二」	
1557	1451		歌川広重	「名所江戸百景 目黒太鼓橋夕日 の岡」	安政4(1857)年4月	大判錦絵	359×241	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 四」	
1558	1452		歌川広重	「名所江戸百景 愛宕下敷小路」	安政4(1857)年12月	大判錦絵	360×238	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十二」	
1559	1453		歌川広重	「名所江戸百景 虎の門外あふひ 坂」	安政4(1857)年11月	大判錦絵	359×241	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十一」	上弦の月
1560	1454		歌川広重	「名所江戸百景 びくにはし雪中」	安政5(1858)年10月	大判錦絵	370×254	魚屋栄吉	広重画	「午十」	
1561	1455		歌川広重	「名所江戸百景 高田の馬場」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	367×257	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 二」	
1562	1456		歌川広重	「名所江戸百景 湯しま天神坂上 眺望」	安政3(1856)年2月	大判錦絵	357×237	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰四」	
1563	1457		歌川広重	「名所江戸百景 王子装束糸の本 大晦日の狐火」	安政4(1857)年9月	大判錦絵	359×237	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 九」	初摺
1564	1458			「名所三十六景 (富士三十六景 目録)」	安政6(1859)年6月	大判錦絵	365×248	葛屋吉蔵		「未六 改」	序文：二代三亭 春馬初代立斎広 重翁記遺画(印)
1565	1459	未	歌川広重	「富士三十六景 東都一石ばし」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	348×233	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1566	1460	未	歌川広重	「富士三十六景 東都駿河町」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	348×233	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	
1567	1461	未	歌川広重	「富士三十六景 東都数寄屋河 岸」	安政5(1858)年4月	大判錦絵	376×257	葛屋吉蔵	広重画	「午四」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1507	1401		歌川広重	「名所江戸百景 廊中東雲」	安政4(1857)年4月	大判錦絵	356×242	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 四」	
1508	1402		歌川広重	「名所江戸百景 吾妻橋金龍山遠 望」	安政4(1857)年8月	大判錦絵	359×246	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 八」	初摺
1509	1403		歌川広重	「名所江戸百景 せき口上水端ば せを庵椿やま」	安政4(1857)年4月	大判錦絵	374×262	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 四」	初摺
1510	1404		歌川広重	「名所江戸百景 玉川堤の花」	安政3(1856)年2月	大判錦絵	354×249	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰二」	
1511	1405		歌川広重	「名所江戸百景 日本橋江戸ばし」	安政4(1857)年12月	大判錦絵	372×256	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十二」	初摺
1512	1406		歌川広重	「名所江戸百景 八つ見のはし」	安政3(1856)年8月	大判錦絵	372×257	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰八」	初摺
1513	1407		歌川広重	「名所江戸百景 昌平橋聖堂神田 川」	安政4(1857)年9月	大判錦絵	378×262	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 九」	初摺
1514	1408		歌川広重	「名所江戸百景 水道橋駿河台」	安政4(1857)年間5月	大判錦絵	361×243	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十五」	
1515	1409		歌川広重	「名所江戸百景 王子不動之滝」	安政4(1857)年9月	大判錦絵	329×214	魚屋栄吉	広重画	(「改」 「巳九」)	マージン欠
1516	1410		歌川広重	「名所江戸百景 角筈 熊野十二 社俗称十二そう」	安政3(1856)年7月	大判錦絵	378×259	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰七」	初摺
1517	1411		歌川広重	「名所江戸百景 糍町一丁目 山 王祭ねり込」	安政3(1856)年7月	大判錦絵	338×223	魚屋栄吉	広重画	(「改」 「辰 七」)	マージン欠
1518	1412		歌川広重	「名所江戸百景 赤坂桐畑」	安政3(1856)年4月	大判錦絵	374×254	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰四」	
1519	1413	二代歌川広 重		「名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕 けい」	安政6(1859)年4月	大判錦絵	374×257	魚屋栄吉	二世広重画	「未四 改」	初摺
1520	1414		歌川広重	「名所江戸百景 佃じま住吉の祭」	安政4(1857)年7月	大判錦絵	359×243	魚屋栄吉	広重筆	「改」「巳 七」	
1521	1415		歌川広重	「名所江戸百景 深川万年橋」	安政4(1857)年11月	大判錦絵	357×243	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十一」	
1522	1416		歌川広重	「名所江戸百景 みつまたわかれ の淵」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	373×252	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 二」	
1523	1417		歌川広重	「名所江戸百景 大はしあたけの夕 立」(異版)	安政4(1857)年9月	大判錦絵	363×249	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 九」	遠景に2隻の舟、 異版
1524	1418		歌川広重	「名所江戸百景 大はしあたけの夕 立」	安政4(1857)年9月	大判錦絵	360×243	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 九」	
1525	1419		歌川広重	「名所江戸百景 綾瀬川鐘が淵」	安政4(1857)年7月	大判錦絵	357×241	魚屋栄吉	広重筆	「改」「巳 七」か	
1526	1420		歌川広重	「名所江戸百景 堀切の花菖蒲」	安政4(1857)年間5月	大判錦絵	372×256	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十五」	初摺
1527	1421		歌川広重	「名所江戸百景 亀戸天神境内」	安政3(1856)年7月	大判錦絵	349×230	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰七」	
1528	1422		歌川広重	「名所江戸百景 逆井のわたし」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	367×257	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 二」	
1529	1423		歌川広重	「名所江戸百景 深川三十三間 堂」	安政4(1857)年8月	大判錦絵	359×235	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 八」か	
1530	1424		歌川広重	「名所江戸百景 利根川ばらへま つ」	安政3(1856)年8月	大判錦絵	359×238	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰八」	
1531	1425		歌川広重	「名所江戸百景 市中繁栄七夕 祭」	安政4(1857)年7月	大判錦絵	357×243	魚屋栄吉	広重筆	「改」「巳 七」	
1532	1426		歌川広重	「名所江戸百景 大伝馬町ごふく 店」	安政5(1858)年7月	大判錦絵	361×236	魚屋栄吉	広重画	「午七」	初摺
1533	1427		歌川広重	「名所江戸百景 神田紺屋町」	安政4(1857)年11月	大判錦絵	378×259	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十一」 か	
1534	1428		歌川広重	「名所江戸百景 鉄炮洲桶荷橋湊 神社」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	356×235	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 二」	
1535	1429		歌川広重	「名所江戸百景 芝神明増上寺」	安政5(1858)年7月	大判錦絵	357×235	魚屋栄吉	広重画	「午七」 か	
1536	1430		歌川広重	「名所江戸百景 月の碑」	安政4(1857)年8月	大判錦絵	376×256	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 八」	初摺
1537	1431		歌川広重	「名所江戸百景 品川すぎき」	安政3(1856)年4月	大判錦絵	354×246	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰四」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1480	1375	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 五十一 水口 名松平松 山の麓」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	373×248	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	堅絵東海道 マージン欠
1481	1376	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 五十二 石部 旅舎泊 客」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	357×227	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	堅絵東海道 マージン欠
1482	1377	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 五十三 草津 草津から 矢ばせは道の弓 とつる」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	372×238	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	堅絵東海道 マージン欠
1483	1378	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 五十四 大津 三井寺観 音堂より大津の 町湖水眺望」	安政2(1855)年8月	大判錦絵	357×227	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯八」	堅絵東海道 マージン欠
1484	1379	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 五十五 大尾 京 三条 大はし」	安政2(1855)年8月	大判錦絵	357×226	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯八」	堅絵東海道 マージン欠
1485	1380		歌川広重	「名所江戸百景 日本橋雪晴」	安政3(1856)年5月	大判錦絵	372×251	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰五」	
1486	1381		歌川広重	「名所江戸百景 永代橋佃じま」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	349×252	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 二」か	マージン欠
1487	1382		歌川広重	「名所江戸百景 馬喰町初音の馬 場」	安政4(1857)年9月	大判錦絵	348×234	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 九」か	所蔵印あり
1488	1383		歌川広重	「名所江戸百景 する賀てふ」	安政3(1856)年9月	大判錦絵	365×243	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰九」	
1489	1384		歌川広重	「名所江戸百景 神田明神曙之 景」	安政4(1857)年9月	大判錦絵	374×259	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 九」	初摺
1490	1385		歌川広重	「名所江戸百景 下谷広小路」	安政3(1856)年9月	大判錦絵	349×233	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰九」	
1491	1386		歌川広重	「名所江戸百景 日暮里寺院の林 泉」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	346×233	魚屋栄吉	広重画	「改」か 「巳二」 か	
1492	1387		歌川広重	「名所江戸百景 飛鳥山北の眺 望」	安政3(1856)年5月	大判錦絵	359×242	魚屋栄吉	広重画	「改」 「辰五」	
1493	1388		歌川広重	「名所江戸百景 王子音無川堰球 世俗大滝ト唱」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	356×242	魚屋栄吉	広重画	「改」か 「巳二」 か	
1494	1389		歌川広重	「名所江戸百景 芝愛宕山」	安政4(1857)年8月	大判錦絵	356×233	魚屋栄吉	正月三日/ 毘沙門使/ 広重画	「改」「巳 八」	
1495	1389A		歌川広重	「名所江戸百景 芝愛宕山」	安政4(1857)年8月	大判錦絵	354×231	魚屋栄吉	正月三日/ 毘沙門使/ 広重画	「改」「巳 八」	初摺
1496	1390		歌川広重	「名所江戸百景 広尾ふる川」	安政3(1856)年7月	大判錦絵	362×239	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰七」	
1497	1391		歌川広重	「名所江戸百景 目黒千代か池」	安政3(1856)年7月	大判錦絵	356×242	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰七」	
1498	1392		歌川広重	「名所江戸百景 目黒新富士」	安政4(1857)年4月	大判錦絵	356×242	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 四」	所蔵印あり
1499	1393		歌川広重	「名所江戸百景 目黒元不二」	安政4(1857)年4月	大判錦絵	345×232	魚屋栄吉	広重画	「改」 「巳四」	マージン欠 所蔵印あり
1500	1394		歌川広重	「名所江戸百景 蒲田の梅園」	安政4(1857)年2月	大判錦絵	357×232	魚屋栄吉	広重画	「改」 「巳二」	初摺。左マージ ン欠
1501	1395		歌川広重	「名所江戸百景 品川御殿やま」	安政3(1856)年4月	大判錦絵	357×242	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰四」	
1502	1396		歌川広重	「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」	安政4(1857)年11月	大判錦絵	349×236	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 十一」	
1503	1397		歌川広重	「名所江戸百景 真乳山山谷堀夜 景」	安政4(1857)年8月	大判錦絵	357×242	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 八」	
1504	1398		歌川広重	「名所江戸百景 隅田川水神の森 真崎」	安政3(1856)年8月	大判錦絵	356×236	魚屋栄吉	広重筆	「改」 「辰八」	
1505	1399		歌川広重	「名所江戸百景 真崎辺より水神 の森内川関屋の 里を見る図」	安政3(1856)年8月	大判錦絵	357×233	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 八」	
1506	1400		歌川広重	「名所江戸百景 墨田河橋島の渡 かわら竈」	安政4(1857)年4月	大判錦絵	368×251	魚屋栄吉	広重画	「改」「巳 四」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1460	1357	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅(三) 白須賀 汐見坂 風景」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	354×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 「三」虫欠 マージン欠
1461	1358	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅四 二 川 猿が馬場立 場」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	362×243	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1462	1358A	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅四 二 川 猿が馬場立 場」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	362×243	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1463	1359	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅五 吉 田 豊川大はし」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	360×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1464	1360	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅六 御 油 本野か原本 坂ごへ」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	372×248	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1465	1361	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅七 赤 坂 縄手道にて 弥二が北八を狐 とおもひてふち やくする」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	360×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1466	1362	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅八 藤 川 山中の里旧 名宮路山」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	373×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1467	1363	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅九 岡 崎 やはぎ川や はぎのはし」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	372×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1468	1363A	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅九 岡 崎 やはぎ川や はぎのはし」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	372×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1469	1364	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十 池 鯉鮒 八つ橋む ら杜若の古せき」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	351×351	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1470	1365	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十一 鳴海 名産有松 しほり店」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	372×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1471	1366	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十二 宮 熱田の駅 七里の渡口」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	373×254	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1472	1367	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十三 桑名 七里の渡 船」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	370×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1473	1368	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十四 四日市 なごのう ら三重川」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	373×254	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1474	1369	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十五 石薬師 義経ざ くら範頼の祠」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	354×227	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1475	1370	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十六 庄野 白鳥塚古 跡」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	359×249	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1476	1371	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十七 龜山 風雨雷 鳴」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	354×227	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1477	1372	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十八 関 参宮道追 分」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	354×227	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1478	1373	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四十九 坂の下 岩窟の 観音」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	354×227	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠
1479	1374	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 五十 土 山 鈴鹿之麓鈴 鹿川」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	354×227	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 マージン欠

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1440	1339	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十五 吉 原 不二の沼 浮島か原」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	342×224	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 左右マージン欠
1441	1340	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十六 蒲 原 岩渕の岡よ り不二河眺望」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	360×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 左右マージン欠
1442	1341	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十七 由 井 薩多嶺親し らず」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	367×246	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道
1443	1342	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十八 興 津 おきつ川さ つたの麓」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	372×249	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道
1444	1342A	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十八 興 津 おきつ川さ つたの麓」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	360×227	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 左右マージン欠
1445	1343	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十九 江 尻 田子の浦 三保の松原」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	359×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 左右マージン欠
1446	1344	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 二十 府 中 安部河みろ く武丁町」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	372×251	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道
1447	1345	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿一 鞠 子 駅中名物と ろろ汁をひさぐ」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	372×251	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道
1448	1345A	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿一 鞠 子 駅中名物と ろろ汁をひさぐ」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	258×227	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道
1449	1346	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿二 岡 部 宇津の山葛 の細道」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	357×225	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 左右マージン欠
1450	1347	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿三 藤 枝 瀬戸川かち 渡り」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	356×227	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 左右マージン欠
1451	1348	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿四 島 田 大井川駿岸」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	357×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 左右マージン欠
1452	1349	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿五 金 谷 坂道より大 井川眺望」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	347×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 左右マージン欠
1453	1350	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿六 日 坂 小夜の中山 無間山遠望」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	357×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 マージン欠
1454	1351	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿七 懸 懸川 秋葉道四 十八瀬ごへ」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	357×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 「七」虫欠 マージン欠
1455	1352	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿八 袋 井 名物遠州風」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	356×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 マージン欠
1456	1353	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 廿九 見 附 天竜川舟 渡し」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	357×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 「廿九」虫欠 マージン欠
1457	1354	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 三十 浜 松 名所ざん ざのまつ」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	362×254	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 マージン欠
1458	1355	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅(一) 舞 坂 今切海上 舟渡」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	359×252	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 「一」虫欠 マージン欠
1459	1356	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 卅二 あ ら井 渡舟着岸 御園所」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	354×354	葛屋吉藏	広重筆	「改」 「卯七」	脛絵東海道 マージン欠か

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1418	1319	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 肥後 五 かの庄」	安政3(1856)年3月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「辰三」	
1419	1320	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 日向 油 津の湊 飢肥大 島」	安政3(1856)年3月	大判錦絵	362×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「辰三」 か	左マージン欠。 「六間口」「大伏 山」
1420	1321	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 大隅 さ くらじま」	安政3(1856)年3月	大判錦絵	362×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「辰三」	
1421	1322	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 薩摩 坊 の浦 双剣石」	安政3(1856)年3月	大判錦絵	362×251	越村屋平助	広重筆	(「改」 「辰三」)	データベース画像 マージンなし。 「坊岬秋月洞」
1422	1323	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 志岐 志 作」	安政3(1856)年3月	大判錦絵	362×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「辰三」	
1423	1324	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 対馬 海 岸夕晴」	安政3(1856)年3月	大判錦絵	351×238	越村屋平助	広重筆	「改」 「辰三」	題箋ばかし。初 摺。
1424	1325	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 一 日本 橋 東雲の景」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	362×224	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1425	1326	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 二 品川 御殿山より駅中 を見る」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	362×237	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1426	1327	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 三 川崎 鶴見川生麦の 里」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	365×248	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1427	1328	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 四 神奈 川 台の茶屋海 上見はらし」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	364×227	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1428	1329	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 五 程ヶ 谷 境木立場鎌 倉山遠望」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	367×252	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1429	1330	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 六 戸塚 山道より不二眺 望」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	349×227	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1430	1330A	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 六 戸塚 山道より不二眺 望」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	361×227	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1431	1331	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 七 藤沢 南期(湖)の松原 左り不二」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	360×246	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1432	1332	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 八 平塚 馬入川舟渡し 大山遠望」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	360×246	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1433	1333	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 九 大磯 鴨立沢西行庵」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	360×246	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1434	1334	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十 小田 原 海岸漁舎」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	364×252	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1435	1335	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十一 は こね 山中夜行 の図」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	360×227	葛屋吉蔵	広重筆	(「改」 「卯七」)か	竪絵東海道
1436	1336	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十二 三 島 三島大明神 一の鳥居」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	345×224	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1437	1336A	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十二 三 島 三島大明神 一の鳥居」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	344×226	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道 左右マージン欠
1438	1337	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十三 沼 津 足柄山不二 雪晴」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	370×253	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道
1439	1338	未	歌川広重	「五十三次名所 図会 十四 原 あし鷹山不二眺 望」	安政2(1855)年7月	大判錦絵	365×246	葛屋吉蔵	広重筆	「改」 「卯七」	竪絵東海道

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1392	1293	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 丹後 天 の橋立」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	357×248	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1393	1294	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 但馬 岩 井谷窟観音」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	370×256	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1394	1295	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 因幡 加 路小山」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×243	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1395	1296	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 伯耆 大 野大山遠望」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×242	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1396	1297	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 出雲 ほ とへの図」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×242	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1397	1298	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 石見 高 津山汐浜」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×248	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1398	1299	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 隠岐 焚 火の社」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	354×248	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1399	1300	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 播磨 舞 子の浜」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×249	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1400	1301	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 美作 山 伏谷」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1401	1302	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 備前 田 の口海浜 瑤賀 山鳥居」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×241	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑十 二」 か	左マージン欠
1402	1303	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 備中 豪 溪」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	362×242	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1403	1304	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 備後 阿 武門 観音堂」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「改」 か 「丑十 二」 か	左マージン欠
1404	1305	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 安芸 厳 島 祭礼之図」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×243	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1405	1306	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 周防 岩 国 錦帯橋」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	357×242	越村屋平助	広重筆	「改」 「丑 十二」	
1406	1307	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 長門 下 の関」	安政3(1856)年3月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「辰三」	
1407	1308	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 紀伊 和 歌之浦」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	361×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1408	1309	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 淡路 五 色浜」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1409	1310	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 阿波 鳴 門の風波」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1410	1311	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 讃岐 象 頭山遠望」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	365×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1411	1312	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 伊予 西 条」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	362×238	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1412	1313	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 土佐 海 上松魚釣」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	364×243	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1413	1314	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 筑前 宮 崎海中の道」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	362×241	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1414	1315	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 筑後 築 瀬」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	354×242	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1415	1316	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 豊前 羅 漢寺下道」	安政1(1854)年11月	大判錦絵	364×242	越村屋平助	広重筆	「改」 「寅十 一」	左マージン欠
1416	1317	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 豊後 養 崎」	安政3(1856)年4月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「改」 「辰四」	
1417	1318	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 肥前 長 崎稲佐山」	安政3(1856)年5月	大判錦絵	362×242	越村屋平助	広重筆	「改」 「辰五」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1368	1270		歌川広重	「六十余州名所 図会 相模 江 之島岩屋の口」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×243	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1369	1271	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 武蔵 隅 田川雪の朝」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×243	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1370	1272	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 江戸 浅 草市」	嘉永6(1853)年10月	大判錦絵	349×238	越村屋平助	広重筆	「村松」 か「福」 か「丑 十」か	マージン欠
1371	1273		歌川広重	「六十余州名所 図会 安房 小 湊内浦」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×244	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1372	1274		歌川広重	「六十余州名所 図会 上総 矢 さしか浦通名九 十九里」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	351×238	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 か「村 田」か 「丑八」 か	上マージン欠
1373	1275		歌川広重	「六十余州名所 図会 下総 銚 子の浜 外浦」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×243	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1374	1276	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 常陸 鹿 島太神宮」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×244	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1375	1277		歌川広重	「六十余州名所 図会 近江 琵琶湖石山寺」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	356×244	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1376	1278	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 美濃 養 老の滝」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×246	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1377	1278A	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 美濃 養 老の滝」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	366×247	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1378	1279	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 飛騨 籠 わたし」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	370×256	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1379	1280		歌川広重	「六十余州名所 図会 信濃 更 科田毎月 鏡台 山」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×243	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」 か	
1380	1281	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 上野 榛 名山雪中」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×243	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1381	1282	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 下野 日 光山裏見の滝」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×233	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 か「村 田」か (「丑 八」)	左・上マージン欠。
1382	1283	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 陸奥 松 島風景富山眺望 之略図」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	365×245	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1383	1284	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 出羽 最 上川 月山遠望」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×244	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1384	1285	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 若狭 漁 船鱗網」	嘉永6(1853)年9月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「浜」 「馬込」 「丑九」	
1385	1286	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 越前 敦 賀気比の松原」	嘉永6(1853)年9月	大判錦絵	364×243	越村屋平助	広重筆	「浜」 「馬込」 「丑九」	
1386	1287	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 加賀 金 沢八勝之内蓮湖 之漁火」	安政2(1855)年9月	大判錦絵	364×243	越村屋平助	広重筆	「改」 「卯九」	
1387	1288	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 能登 滝 之浦」	嘉永6(1853)年9月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「浜」 「馬込」 「丑九」	
1388	1289	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 越中 富 山船橋」	嘉永6(1853)年9月	大判錦絵	364×242	越村屋平助	広重筆	「浜」 「馬込」 「丑九」	
1389	1290	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 越後 親 しらず」	嘉永6(1853)年9月	大判錦絵	364×244	越村屋平助	広重筆	「浜」 「馬込」 「丑九」	
1390	1291	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 佐渡 金 やま」	嘉永6(1853)年9月	大判錦絵	364×243	越村屋平助	広重筆	「浜」 「馬込」 「丑九」	
1391	1292	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 丹波 鐘 坂」	嘉永6(1853)年12月	大判錦絵	364×243	越村屋平助	広重筆	「改」「丑 十二」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1341	1243		歌川広重	鍋冠図	天保期(1830-44)期	貼交絵の 一部か	254×126	山本	広重筆		「手垣真春 夫の 数…」
1342	1244		歌川広重 (複製)	「山本勘介故居 御油旧跡」	近代	貼交絵の 一部	173×113	小林文七	広重(印)		葛と千鳥に「四」 マーク。「五十三 次貼交 九」の 複製の一部
1343	1245		歌川広重	朝妻舟	天保6-8(1835-37) 年頃	小短冊判 錦絵	330×78	不詳	広重画(印)		「名月の…」
1344	1246		歌川広重	「緑水 緑長仙」	天保3-5(1832-34) 年頃	小判錦絵	225×173	山崎屋清吉か	広重筆	「極」	
1345	1247		歌川広重	「江戸名所四季 の詠 隅田川雪 中の図」	弘化3-嘉永1(1846- 48)年	大判錦絵3 枚統のうち 右・中	各359×247	丸屋甚八	右:広重画、 中:広重画 (印)	「吉村」 「村松」	所蔵番号1252と 揃
1346	1248		歌川広重	「王子道 狐のよ め入 東都飛鳥 山の図」	天保(1830-44)中後 期-弘化(1844-47) 頃	大判錦絵3 枚統のうち 右・中	370×500	葛屋吉蔵	右・中:広 重戯筆		
1347	1249	未	歌川広重	「名所江戸八景 佃の帰帆」	弘化1-3(1844-46) 年	中判錦絵3 枚統	255×552	上州屋金蔵	広重画	「村松」	「追へに…」
1348	1250		歌川広重	「東都名所 霞ヶ 関全図」	天保(1830-44)後期	大判錦絵3 枚統	364×722	葛屋吉蔵	左:応需 一立斎広重 筆(印)	「極」	
1349	1251		歌川広重	「女行烈 大井 川の図」	天保3-5(1832-34) 年頃	大判錦絵3 枚統のうち 左	264×381	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	
1350	1252		歌川広重	「江戸名所四季 の詠 隅田川雪 中の図」	弘化3-嘉永1(1846- 48)年	大判錦絵3 枚統のうち 左	251×365	丸屋甚八	広重画	「吉村」 「村松」	所蔵番号1247と 揃
1351	1253		歌川広重	「大津画の盆踊」	嘉永2-5(1849-52) 年	大判錦絵	251×365	丸屋甚八	広重戯筆	「福」 「村松」	
1352	1254		歌川広重	富士川上流の雪 景	天保13(1842)年頃	大判2枚統	734×244	佐野屋喜兵衛	広重筆(印)		
1353	1255		梅素亭玄魚	「大日本六十余 州 名勝図会 (六十余州名所 図会目録)」	安政3(1856)年9月	大判錦絵	362×243	越村屋平助	玄魚画(印)	「改」 「辰九」	
1354	1256	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 山城 あ らし山渡月橋」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	364×243	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1355	1257	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 大和 立 田山竜田川」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	356×251	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1356	1258		歌川広重	「六十余州名所 図会 河内 牧 方男山」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	362×244	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1357	1259		歌川広重	「六十余州名所 図会 和泉 高 師のはま」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	356×241	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1358	1260		歌川広重	「六十余州名所 図会 摂津 住 よし出見のはま」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	362×243	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1359	1261	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 伊賀 上 野」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	356×249	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	題箋(ぼかし。初 摺。
1360	1262	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 伊勢 朝 熊山峠の茶屋」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	356×244	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1361	1263	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 志摩 日 和山鳥羽湊」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	362×244	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1362	1264	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 尾張 津 島天王祭り」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	362×243	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1363	1265	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 三河 鳳 来寺山巖」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	362×243	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1364	1266		歌川広重	「六十余州名所 図会 遠江 浜 名之湖 堀江館 山寺 引佐之細 江」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	362×243	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」	
1365	1267		歌川広重	「六十余州名所 図会 駿河 三 保のまつ原」	嘉永6(1853)年7月	大判錦絵	244×356	越村屋平助	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑七」	
1366	1268	未	歌川広重	「六十余州名所 図会 甲斐 さ るばし」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	351×238	越村屋平助	広重筆	(「衣笠」 「村田」 「丑 八」)	マージン欠
1367	1269		歌川広重	「六十余州名所 図会 伊豆 修 禪寺湯治場」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	356×243	越村屋平助	広重筆	「衣笠」 「村田」 「丑八」 か	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量 (mm)	版元	署名	改印	備考
1309	1212		歌川広重	「金沢八景 戸秋月」	瀬 天保(1830-44)末頃	四ツ切判 錦絵	121×179	不詳	広重画		「たとへても…」
1310	1213		歌川広重	「金沢八景 名晚鐘」	称 天保(1830-44)末頃	四ツ切判 錦絵	121×179	不詳	広重画		「もみぢせで…」
1311	1214		歌川広重	「金沢八景 崎晴嵐」	洲 天保(1830-44)末頃	四ツ切判 錦絵	121×179	不詳	広重画		「かもめなく…」
1312	1215		歌川広重	「金沢八景 泉夜雨」	小 天保(1830-44)末頃	四ツ切判 錦絵	121×179	不詳	広重画		「むらたてる…」
1313	1216	未	歌川広重	「金沢八景 鱸帰帆」	乙 天保(1830-44)末頃	四ツ切判 錦絵	121×179	不詳	広重画		「まほかほで…」
1314	1217		歌川広重	「金沢八景 川暮雪」	内 天保(1830-44)末頃	四ツ切判 錦絵	121×179	不詳	広重画		「うち川や…」
1315	1218		歌川広重	「江戸八景 野の暮雪」	上 弘化3(1846)年	九ツ切判 錦絵か	108×166	上州屋金蔵	広重	「村」	
1316	1219		歌川広重	「近江八景 井晩鐘」	三 弘化1-3(1844-46) 年	九ツ切判 錦絵か	113×173	佐野屋喜兵衛	広重画	「吉村」	
1317	1220	未	歌川広重	「山海見立相撲 越後亀割峠」	安政5(1857)年8月	大判錦絵	249×363	山田屋庄次郎	広重画		「午八」
1318	1221		歌川広重	「浪花名所図会 安立町難波屋の まつ」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	246×376	三田屋喜八	広重画	「極」	
1319	1222		歌川広重	「源氏物語五十 四帖 帚木」	嘉永5(1852)年間2月	大判錦絵	219×357	伊勢屋兼吉	広重画	「福」 「村松」 「子関」	「数ならぬ…」 上マージン欠
1320	1223		歌川広重	「源氏物語五十 四帖 若紫」	嘉永5(1852)年間2月	大判錦絵	249×357	伊勢屋兼吉	広重画	「村松」 「福」 「子関」	「手につみて…」
1321	1224		歌川広重	「曾我物語図会」	弘化1-3(1844-46) 年	大判錦絵	348×246	伊場屋仙三郎	広重画	「村松」	「箱王漸成人せし かばをや…」 上マージン欠
1322	1225		歌川広重	「江戸むらさき名 所源氏 見立浮 ふね 隅田川の 渡」	弘化1-3(1844-46) 年	大判錦絵	342×234	丸屋久四郎	広重画	「吉村」	「隅田川の渡…」
1323	1226		歌川広重	「近江八景 崎夜雨」	唐 天保2-3(1831-32) 年頃	四ツ切判 錦絵	116×171	清水	広重画(印)		「夜の雨に…」
1324	1227		歌川広重	「近江八景 津晴嵐」	栗 天保2-3(1831-32) 年頃	四ツ切判 錦絵	114×171	清水	広重画(印)	「極」	「雲はらふ…」
1325	1227A		歌川広重	「近江八景 田夕照」	瀬 天保2-3(1831-32) 年頃	四ツ切判 錦絵	116×172	清水	広重画		「露しぐれ…」
1326	1228		歌川広重	「近江八景 井晩鐘」	三 天保2-3(1831-32) 年頃	四ツ切判 錦絵	116×171	清水	広重画(印)		「思ふその…」
1327	1229		歌川広重	「近江八景 田落雁」	堅 天保2-3(1831-32) 年頃	四ツ切判 錦絵	114×173	清水	広重画(印)		「峰あまた…」
1328	1230		歌川広重	「近江八景 橋帰帆」	矢 天保2-3(1831-32) 年頃	四ツ切判 錦絵	116×170	清水	広重画(印)	「極」	「真帆がきて…」
1329	1231		歌川広重	「近江八景 山秋月」	石 天保2-3(1831-32) 年頃	四ツ切判 錦絵	116×171	清水	広重画(印)		「石山や…」
1330	1232		歌川広重	「近江八景 良暮雪」	比 天保2-3(1831-32) 年頃	四ツ切判 錦絵	116×171	清水	広重画(印)		「雪はるゝ…」
1331	1233		歌川広重	「豆相箱根山／ 相州江之島／駿 州薩岳嶺」	天保(1830-44)中期	大判錦絵 (裁断前)	264×375	不詳	(印)	「極」(中 央)	「以茲山地…／ 栗山美水情未休 …／山似屏風江 似簾…」
1332	1234		歌川広重	「諸国名所 宇 治川ほとたりの 図」	天保6-7(1835-36) 年頃	团扇絵	238×292	伊場仙三郎	広重画		
1333	1235		歌川広重	「牛若図会 五 条のはし千人ぎ り」	嘉永2-5(1849-52) 年	团扇絵	223×291	伊場仙三郎	広重画	「浜」 「馬込」	
1334	1236		歌川広重	かきぎいさきに萱	天保3-4(1832-33) 年	大判錦絵	249×362	西村屋与八	立斎広重画	「極」	魚つくし、 林忠正印。
1335	1237		歌川広重	ぼらにうど	天保3-4(1832-33) 年	大判錦絵	238×346	西村屋与八	一立斎広重 画	「極」	魚つくし、 林忠正印。
1336	1238		歌川広重	「今様子宝遊び」	文政(1818-1830)初 期	大判錦絵	363×251	岩戸屋喜三郎	広重画	「極」	文政期の広重最 初期作
1337	1239		歌川広重	「五月八日 土水 性の人うけに入 る」	安政5(1858)年2月	大判錦絵	372×253	山田屋庄次郎	広重筆	「午三」	「福介…」
1338	1240		歌川広重	鍾馗図	弘化4-嘉永3(1847- 50)年	大短冊判 錦絵	375×172	不詳	広重筆(印)	「米良」 「村田」	
1339	1241		歌川広重	貼交絵(嵐山、 女達磨、舌切り 雀、鮎、蛤)	安政5(1858)年7月	間判錦絵	227×338	森屋治兵衛	東海(印)、 一立斎筆 (印)、広重 (印)	「午七」	「京師嵐嶺」 舌切り雀、女達磨 「九年何苦界十ね ん」、鮎、桑名の 焼蛤か
1340	1242		歌川広重	貼交絵(富士、 煎茶、狸)	嘉永期(1848-52)頃	間判墨摺	343×232	不詳	一立斎 (印)、立斎 (印)、広重 (印)		狸腹鼓、煎茶道 具、富士山と三 保の松原 間判 石摺貼交絵か

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1273	1176	未	歌川広重	竹に錦鶏	天保(1830-44)後期	間短冊判 錦絵	340×114	川口屋正蔵	広重筆		「清風在竹林」
1274	1177	未	歌川広重	水仙に雀	天保(1830-44)末期	小短冊判 錦絵	338×76	若狭屋与市	広重画		
1275	1178	未	歌川広重	秋草に鶴	天保後期-嘉永頃 (1840年代)	小短冊判 錦絵	348×77	不詳	広重筆(印)		
1276	1179	未	歌川広重	月に落花のほととぎす	天保後期-嘉永頃 (1840年代)	小短冊判 錦絵	342×74	不詳	広重筆(印)		「二声は…」
1277	1180	未	歌川広重	枝垂桜に燕	天保後期-嘉永頃 (1840年代)	小短冊判 錦絵	314×92	不詳	広重筆(印)		
1278	1181		歌川広重	しめ縄に福寿草	嘉永期(1848-52)頃か	もと貼交 絵	343×79	不詳	一立斎(印)		ボストン美術館に 完品あり
1279	1182		歌川広重	海棠に小禽	天保3-6(1832-35) 年頃	小短冊判 錦絵	338×74	不詳	広重筆(印)		
1280	1183	未	歌川広重	芥子	天保3-6(1832-35) 年頃	小短冊判 錦絵	340×74	不詳	広重筆		「浜風に…」、「有」 「山」、版元有田 屋清右衛門か
1281	1184	未	歌川広重	藤に雀	天保3-6(1832-35) 年頃	小短冊判 錦絵	340×74	有田屋清右衛門	広重筆		
1282	1185	未	歌川広重	山吹に鶴	天保(1830-44)末期	中判錦絵	257×183	不詳	広重筆(印)		「鎌くらに…」
1283	1186	未	歌川広重	月に菖蒲、ほととぎす	弘化4-嘉永5(1847-52)年	小判錦絵	224×164	山城屋甚兵衛	広重画	「衣笠」 「村田」	「時鳥…」
1284	1187	未	歌川広重	薦に翁鶴	弘化4-嘉永5(1847-52)年	小判錦絵	233×168	山城屋甚兵衛	広重筆(花押?)	「衣笠」 「村田」	「風呂敷の…」
1285	1188	未	歌川広重	桔梗に小禽	天保3-6(1832-35) 年頃	小判錦絵	235×171	不詳	広重筆(印)		「朝露の…」
1286	1189	未	歌川広重	桃に小禽	天保3-6(1832-35) 年頃	四ツ切判 錦絵	123×184	不詳	広重筆(印)		「かりそめに…」
1287	1190	未	歌川広重	月に郭公	天保(1830-44)後期-嘉永期(1848-54)頃	九ツ切判 錦絵	110×164	不詳	広重筆(印)		「郭公…」
1288	1191	未	歌川広重	葦に鴛鴦	天保(1830-44)後期-嘉永期(1848-54)頃	九ツ切判 錦絵	111×164	不詳	広重筆		
1289	1192	未	歌川広重	萩、薄に翡翠	天保(1830-44)末期-弘化期(1844-48)頃	九ツ切判 錦絵	111×164	不詳	広重		
1290	1193	未	歌川広重	梅に鶯	天保(1830-44)末期-弘化期(1844-48)頃	九ツ切判 錦絵	110×164	不詳	広重(印)		
1291	1194	未	歌川広重	杜若に燕	天保(1830-44)末期-弘化期(1844-48)頃	九ツ切判 錦絵	110×164	不詳	広重		
1292	1195	未	歌川広重	海棠に燕	天保(1830-44)後期-嘉永期(1848-54)頃	九ツ切判 錦絵	162×111	山城屋甚兵衛	広重筆		「山の端に…」
1293	1196		歌川広重	月に蝙蝠	天保中期(1830-43)	大短冊判 錦絵	254×124	西村屋与八	広重筆(印)		「蝙蝠や…」
1294	1197		歌川広重	「月二拾八景之内 菜ごしの月」	天保3-4(1832-33) 年頃	大短冊判 錦絵	384×172	若狭屋与市	広重筆	「極」	「不堪紅葉青苔 地…」
1295	1198		歌川広重	雲龍	天保3(1832)年頃	大短冊判 錦絵	372×171	(若狭屋与市)	広重筆(印)	「極」	
1296	1199	未	歌川広重	月下の兎	天保(1830-44)後期	中短冊判 錦絵	378×125	藤岡屋彦三郎	広重画	「極」	「夜はいとし…」
1297	1200	未	歌川広重	小松に鹿	天保(1830-44)後期	中短冊判 錦絵	372×129	藤岡屋彦三郎	広重画		「こゝろをも…」
1298	1201	未	歌川広重	「不二三十六景 甲斐大月原」	嘉永5(1852)年頃	中判錦絵	181×253	佐野屋喜兵衛	広重(印)	「村松」 「福」	
1299	1202	未	歌川広重	「不二三十六景 東都駿河台」	嘉永5(1852)年12月	中判錦絵	179×253	佐野屋喜兵衛	広重画	「村田」 「衣笠」 「子十二」	
1300	1203	未	歌川広重	「不二三十六景 東都水道橋」	嘉永5(1852)年頃	中判錦絵	168×254	佐野屋喜兵衛	広重画	「米良」 「渡辺」	
1301	1204	未	歌川広重	「不二三十六景 甲斐夢山裏富士」	嘉永5(1852)年12月	中判錦絵	179×253	佐野屋喜兵衛	広重画	「衣笠」 「村田」 「子十二」	
1302	1205	未	歌川広重	「不二三十六景 箱根山中湖水」	嘉永5(1852)年頃	中判錦絵	158×251	佐野屋喜兵衛	広重(印)	(「福」 「村松」)	マージン欠
1303	1206	未	歌川広重	「不二三十六景 駿河薩岳嶺」	嘉永5(1852)年頃	中判錦絵	157×223	佐野屋喜兵衛	広重画	(「米良」 「渡辺」)	マージン欠
1304	1207	未	歌川広重	「不二三十六景 相模七里が浜風波」	嘉永5(1852)年頃	中判錦絵	175×259	佐野屋喜兵衛	広重(印)	「福」 「村松」	
1305	1208		歌川広重	「不二三十六景 相模川」	嘉永5(1852)年頃	中判錦絵	175×253	佐野屋喜兵衛	広重画	「米良」 「渡辺」	
1306	1209		歌川広重 (複製)	「相模川」(不二 三十六景 相模 川)	近代	校合摺	195×281	(複製)			複製のための校 合摺か。
1307	1210		歌川広重	「金沢八景 野 島夕照」	天保(1830-44)末期	四ツ切判 錦絵	119×179	不詳	広重画		「みるめさへ…」
1308	1211		歌川広重	「金沢八景 平 潟落雁」	天保(1830-44)末期	四ツ切判 錦絵	119×179	不詳	広重画		「ひらかたに…」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量 (mm)	版元	署名	改印	備考
1233	1136		歌川広重	八重桜に鶯	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	381×170	(若狭屋与市)か	広重筆(印)		「花下忘帰因美 景 樽前勸酔是 春風」
1234	1137		歌川広重	雪中小松に錦鶏	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	372×158	(若狭屋与市)	広重筆		
1235	1138		歌川広重	菊に雉子	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	373×167	佐野屋喜兵衛	広重筆		後版(初版は若狭 屋与市版)。「菊 の香や…」 林忠 正印
1236	1139		歌川広重	燕子花に白鷺	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	376×169	(若狭屋与市)か	広重筆(印)		「白鷺下田千点雪 …」
1237	1140		歌川広重	海棠に鸚哥	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	382×172	若狭屋与市	広重筆	「極」	
1238	1141		歌川広重	波上岩頭の鶴	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	389×178	若狭屋与市	広重筆	「極」	
1239	1142		歌川広重	椿に四十雀	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	372×178	若狭屋与市	広重筆(印)	「極」	「はき除届…」、 若井兼三郎印。
1240	1143	未	歌川広重	枇杷に翡翠	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	385×174	若狭屋与市	広重筆(印)	「極」	「緑鄂経春閑龍日 …」
1241	1144		歌川広重	躑躅に山鵲	天保(1830-44)前中 期頃	中短冊判 錦絵	374×130	藤岡屋彦三郎	広重筆		後版(初版は若狭 屋与市版)。「夕 山の…」
1242	1145		歌川広重	芥子に鶴	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	375×127	川口屋正蔵	広重筆(印)	「極」	「秋の夢…」
1243	1146	未	歌川広重	雪中老松に雉子	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	374×130	川口屋正蔵	広重筆(印)	「極」	「十八公栄霜後 露…」
1244	1147	未	歌川広重	雨中のほととぎす	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	370×127	川口屋正蔵	広重筆(印)	「極」	「二声は…」
1245	1148	未	歌川広重	蕨に錦鶏	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	374×129	(川口屋正蔵)か	広重筆(印)		「踏たかふ…」
1246	1149	未	歌川広重	紫陽花にひわ	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	374×129	川口屋正蔵	広重筆	「極」	「紫陽華や…」
1247	1150	未	歌川広重	菊に鶺鴒	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	374×127	川口屋正蔵	広重筆(印)		「寄鳥想…」
1248	1151		歌川広重	藤に四十雀	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	386×130	川口屋正蔵	広重筆	「極」	「紫を…」
1249	1152	未	歌川広重	芙蓉に高麗鶯	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	375×132	(川口屋正蔵)か	広重筆(印)		「有明の…」
1250	1153	未	歌川広重	枯葦に鴨	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	374×130	川口屋正蔵	広重筆(印)		「鴨鳴屋…」
1251	1154	未	歌川広重	竹に雀	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	375×126	川口屋正蔵	広重筆(印)	「極」	「唐人の…」
1252	1155	未	歌川広重	鉄線花に翡翠	天保(1830-44)後期	間短冊判 錦絵	348×116	川口屋正蔵	広重筆		「茎細鞠其助 故俗曰鉄線」
1253	1156	未	歌川広重	雪崖上の鶯鶯	天保(1830-44)後期	間短冊判 錦絵	343×114	不詳	広重筆		「おし鳥の…」
1254	1157	未	歌川広重	紫陽花に鶴	天保(1830-44)末頃	間短冊判 錦絵	343×114	川口屋正蔵	広重筆		「紫陽花や…」
1255	1158	未	歌川広重	薔薇に鶺鴒	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	384×114	川口屋正蔵	広重筆		「世の中は…」
1256	1159	未	歌川広重	燕子花(花菖蒲) に燕	天保(1830-44)後期	間短冊判 錦絵	343×111	川口屋正蔵	広重筆		「水につれて…」
1257	1160	未	歌川広重	山桜に四十雀	天保(1830-44)末頃	間短冊判 錦絵	333×109	不詳	広重筆(印)		「山ざぐら…」
1258	1161		歌川広重	小松に鶴	安政1(1854)年2月	間短冊判 錦絵	343×110	薦屋吉蔵	広重筆(印)	「改」 「寅二」	
1259	1162		歌川広重	芙蓉に錦鶏	嘉永6(1853)年3月	間短冊判 錦絵	337×111	(辻屋安兵衛)か	広重筆(印)	「米良」 「渡辺」 「丑三」	「吹船に…」
1260	1163		歌川広重	菊	弘化1-3(1844-46) 年	間短冊判 錦絵	325×106	不詳	広重筆	「米良」	後版(初版は大短 冊判)「勝菊と…」
1261	1164	未	歌川広重	芙蓉に小禽	天保14(1843)年	間短冊判 錦絵	344×112	佐野屋喜兵衛	広重筆(印)	「高」	「有明の…」
1262	1165	未	歌川広重	松蔭に鸚哥	天保(1830-44)末期	間短冊判 錦絵	337×112	不詳	広重筆		「含雨嶺松天更 …」
1263	1166	未	歌川広重	藤に燕	天保(1830-44)末期	間短冊判 錦絵	337×114	不詳	広重筆(印)		「世の中の…」
1264	1167	未	歌川広重	竹に雀	天保(1830-44)前中 期	中短冊判 錦絵	388×114	川口屋正蔵	広重筆	「極」	「雀子や…」
1265	1168	未	歌川広重	月下波に千鳥	天保14(1843)年	間短冊判 錦絵	343×111	佐野屋喜兵衛	広重筆(印)	「高」	「友千鳥…」
1266	1169		歌川広重	海棠に四十雀	弘化1-2(1843-44) 年	間短冊判 錦絵	334×114	不詳	広重筆(印)	「田中」	「海棠や…」
1267	1170	未	歌川広重	薔薇に高麗鶯	天保(1830-44)後- 末期	間短冊判 錦絵	344×114	不詳	広重筆		「何時見ても …」
1268	1171		歌川広重	菊に鶯鶯	嘉永6(1853)年3月	間短冊判 錦絵	343×114	(辻屋安兵衛)か	広重筆(印)	「米良」 「渡辺」 「丑三」	「野分した…」
1269	1172		歌川広重	海棠に四十雀	嘉永6(1853)年3月	間短冊判 錦絵	340×111	(辻屋安兵衛)か	広重筆	「米良」 「渡辺」 「丑三」	「ほの明や…」
1270	1173	未	歌川広重	芙蓉に尾長鳥	天保(1830-44)末期 頃	間短冊判 錦絵	330×114	不詳	広重筆(印)		「有明の…」
1271	1174	未	歌川広重	雪中椿に鶯鶯	天保14(1843)年	間短冊判 錦絵	340×114	佐野屋喜兵衛	広重筆(印)	「高」	「腹のたつ…」
1272	1175		歌川広重	雪中椿に雀	安政1(1854)年2月	間短冊判 錦絵	340×116	薦屋吉蔵	広重筆(印)	「改」 「寅二」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1200	1103		歌川広重	「東都名所 道 灌山虫聞之図」	天保10-13(1839- 42)年頃	大判錦絵	215×336	佐野屋喜兵衛	広重画(印)		マージン欠
1201	1104	未	歌川広重	「東都名所 浅 草金龍山年の 市」	天保10-13(1839- 42)年頃	大判錦絵	212×335	佐野屋喜兵衛	広重画	(「極」)	マージン欠
1202	1105	未	歌川広重	「東都名所 浅 草金龍山年の 市」	安政3(1856)年9月	大判錦絵	238×372	佐野屋喜兵衛	広重画	(「改」 「辰九」)	マージン欠
1203	1106		歌川広重	「東都名所 隅 田川華盛」	天保10-13(1839- 42)年頃	大判錦絵	256×378	川口屋正蔵	広重画(印)	「極」	
1204	1107		歌川広重	「東都名所坂つく し之内 吉原衣 紋阪之図」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	249×363	山田屋庄次郎	広重画		
1205	1108		歌川広重	「江都名所 両 国橋納涼」	天保3-5(1832-34) 年頃	大判錦絵	257×381	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱 色
1206	1109		歌川広重	「江都名所 王 子稲荷の社」	天保3-5(1832-34) 年頃	大判錦絵	249×370	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱 色
1207	1110		歌川広重	「江都名所 上 野不忍の池」	天保3-5(1832-34) 年頃	大判錦絵	257×376	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱 色
1208	1111		歌川広重	「江都名所 湯し ま天満宮」	天保3-5(1832-34) 年頃	大判錦絵	221×349	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	(「極」)	マージン欠
1209	1112		歌川広重	「江都名所 黒 不動詣」	天保3-5(1832-34) 年頃	大判錦絵	243×361	佐野屋喜兵衛か	広重画(印)		
1210	1113		歌川広重	「江都名所 洲 崎しほ干狩」	天保3-5(1832-34) 年頃	大判錦絵	251×376	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱 色
1211	1114		歌川広重	「江都名所 隅 田川はな盛」	天保3-5(1832-34) 年頃	大判錦絵	232×363	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱 色
1212	1115		歌川広重	「江戸名所 両 国大花火」	天保11-13(1840- 42)年	大判錦絵	216×337	有田屋清右衛門	広重画(印)		マージン欠
1213	1116		歌川広重	「江戸名所 亀 戸梅屋敷」	嘉永6(1853)年11月	大判錦絵	246×357	山田屋庄次郎	広重画	「米良」 「渡辺」 「牛十 一」	
1214	1117		歌川広重	「江戸名所之内 隅田川雨中の花」	天保14-弘化4 (1843-47)年	大判錦絵	222×345	丸屋甚八	広重画	「田中」	マージン欠
1215	1118	未	歌川広重	「江戸名所三つの ながめ 御殿山 花見」	天保(1830-44)末期	大判錦絵	253×373	丸屋甚八	広重画		
1216	1119		歌川広重	「東都名所 雪 之朝洲崎之日之 出」	弘化1-4(1844-46) 年	間判錦絵	195×318	(江崎屋辰蔵)か	広重画	(「浜」)	マージン欠
1217	1120		歌川広重	「江戸名所 飛 鳥山花見の図」	嘉永6(1853)年8月	大判錦絵	246×361	山田屋庄次郎	広重画	「村田」 「衣笠」 「丑八」	
1218	1121	未	歌川広重	「日本湊尽 東 都品川」	天保8-9(1837-38) 年頃	大判錦絵	270×367	丸屋清次郎	広重画		
1219	1122		歌川広重	「江都名所 両 国夜の景」	天保6-7(1835-36) 年頃	間判錦絵	214×346	(和泉屋市兵衛)か	広重画(印)		
1220	1123		歌川広重	「江都名所 亀 井戸之図」	天保6-7(1835-36) 年頃	間判錦絵	225×348	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1221	1124		歌川広重	「東都名所 浅 草金龍山下東橋 雨中望」	天保6-7(1835-36) 年頃	中短冊判 錦絵	374×132	藤岡屋彦太郎	広重画	「極」	
1222	1125		歌川広重	「東都名所 高 輪月夜之図」	天保10-13(1839- 42)年頃	細長短冊 判錦絵	368×97	山口屋藤兵衛	広重画(印)	「極」	
1223	1126	未	歌川広重	「四季江都名所 冬 隅田川之雪」	天保3-5(1832-34) 年頃	中短冊判 錦絵	256×119	川口屋正蔵	広重画	「極」	上部キレ。「すみ だ川…」
1224	1127		歌川広重	「東都名所 御 殿山花見」	天保10-13(1839- 42)年頃	間短冊判 錦絵	349×109	(川口屋正蔵)	広重画		
1225	1128		歌川広重	「東都名所 梅 屋敷満花之図」	天保6-7(1835-36) 年頃	中短冊判 錦絵	382×126	(藤岡屋彦太郎)か	広重画(印)	「極」	
1226	1129		歌川広重	「東都名所 洲 崎海浜汐干狩之 図」	天保6-7(1835-36) 年頃	中短冊判 錦絵	382×126	(藤岡屋彦太郎)	広重画(印)		
1227	1130	未	歌川広重	「東都名所之内 浅草金龍山雪中 之図」	天保10-13(1839- 42)年頃	間短冊判 錦絵	345×114	上州屋金蔵	広重画		
1228	1131		歌川広重	「東都名所 飛 鳥山下春之景」	天保6-7(1835-36) 年頃	中短冊判 錦絵	370×129	藤岡屋彦太郎	広重画(印)		
1229	1132	未	歌川広重	「六玉河之内 紀伊高野」	天保3-6(1832-35) 年頃	中短冊判 錦絵	378×129	川口屋正蔵か	広重画		「忘れても…」
1230	1133		歌川広重	牡丹に孔雀	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	382×178	若狭屋与市	広重筆(印)	「極」	「牡丹花富貴者 也 幽斎」
1231	1134		歌川広重	雪中椿に雀	天保3-6(1832-35) 年頃	大短冊判 錦絵	384×178	佐野屋喜兵衛	広重筆(印)		「鳥鶯争食雀争 巢 独立池辺風 雪多」
1232	1135		歌川広重 (複製)	月下桃花に燕	近代	大短冊判 錦絵	370×171	(複製)	広重筆(印)		複製「春来漏足 桃花水 不弁仙 源何処尋」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1166	1070	未	歌川広重	「忠臣蔵 四段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	230×357	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1167	1071	未	歌川広重	「忠臣蔵 五段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	232×353	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1168	1072	未	歌川広重	「忠臣蔵 六段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	230×357	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1169	1073	未	歌川広重	「忠臣蔵 七段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	235×353	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1170	1074	未	歌川広重	「忠臣蔵 八段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	230×356	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1171	1075	未	歌川広重	「忠臣蔵 九段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	230×356	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1172	1076	未	歌川広重	「忠臣蔵 十段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	228×354	和泉屋市兵衛	広重画		
1173	1077	未	歌川広重	「忠臣蔵 十一段目一夜打押寄」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	237×362	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1174	1078	未	歌川広重	「忠臣蔵 夜打二乱入」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	235×354	和泉屋市兵衛	広重画		
1175	1079	未	歌川広重	「忠臣蔵 夜打三本望」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	234×359	和泉屋市兵衛	広重画		
1176	1080	未	歌川広重	「忠臣蔵 夜打四引取」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	237×359	和泉屋市兵衛	広重画		
1177	1081	未	歌川広重	「忠臣蔵 夜打四両国引取」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	237×359	和泉屋市兵衛	広重画		
1178	1082	未	歌川広重	「忠臣蔵 夜打六焼香場」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	237×359	和泉屋市兵衛	広重画		
1179	1083	未	歌川広重	「忠臣蔵 大序」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×367	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1180	1084	未	歌川広重	「忠臣蔵 二段目」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	249×367	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1181	1085	未	歌川広重	「忠臣蔵 敵討引取」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×367	有田屋清右衛門	広重画	「村」	「大星が遠計にて師直の首を天河屋大鷲寺園の三人が命じて舟にて高輪へまいりしあいつをもってこぎよせ一同にぼたひ寺至る図」
1182	1086	未	歌川広重	「忠臣蔵 三段目」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×367	有田屋清右衛門	広重画		
1183	1087	未	歌川広重	「忠臣蔵 四段目」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	249×367	有田屋清右衛門	広重画		
1184	1087A	未	歌川広重	「忠臣蔵 四段目」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	246×367	有田屋清右衛門	広重画		人物の顔に痛み
1185	1088	未	歌川広重	「忠臣蔵 五段め」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	249×364	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1186	1089	未	歌川広重	「忠臣蔵 六段め」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×367	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1187	1090	未	歌川広重	「忠臣蔵 七段目」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×367	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1188	1091	未	歌川広重	「忠臣蔵 八段目」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×365	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1189	1092	未	歌川広重	「忠臣蔵 九段目」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×365	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1190	1093	未	歌川広重	「忠臣蔵 十段目」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×367	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1191	1094	未	歌川広重	「忠臣蔵 夜討」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	248×367	有田屋清右衛門	広重画	「村」	
1192	1095		歌川広重	「東都名所 日本橋之白雨」	天保3-8(1832-37)年頃	大判錦絵	238×378	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱色
1193	1096		歌川広重	「東都名所 亀戸梅屋舗の図」	天保3-8(1832-37)年頃	大判錦絵	243×370	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱色
1194	1097	未	歌川広重	「東都名所 亀戸天満宮境内雪」	天保3-8(1832-37)年頃	大判錦絵	289×425	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	(「極」)	マージン欠
1195	1098		歌川広重	「東都名所 永田馬場山王宮」	天保3-8(1832-37)年頃	大判錦絵	253×376	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱色
1196	1099		歌川広重	「東都名所 上野東叡山の図」	天保3-8(1832-37)年頃	大判錦絵	243×374	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱色
1197	1100		歌川広重	「東都名所 真崎雪晴之図」	天保3-8(1832-37)年頃	大判錦絵	219×335	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	(「極」)	マージン欠
1198	1101	未	歌川広重	「東都名所 浅草金龍山年之市群集」	天保3-8(1832-37)年頃	大判錦絵	251×376	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	(「極」)	マージン欠
1199	1102		歌川広重	「東都名所 芝愛宕山山上之図」	天保3-8(1832-37)年頃	大判錦絵	270×372	佐野屋喜兵衛	広重画(印)	「極」	版元・改印は朱色

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1135	1039		歌川広重	「江戸近郊八景之内 小金井橋夕照」	天保7-8(1836-37)年頃	大判錦絵	253×372	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	後版。「さび貼の…」
1136	1040		歌川広重	「京都名所之内 金閣寺」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	262×362	三田屋喜八	広重画	「極」	
1137	1041		歌川広重	「京都名所之内 通天橋の紅楓」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	257×362	川口屋宇兵衛	広重画	(「極」)	右マージン欠
1138	1042		歌川広重	「京都名所之内 あらし山満花」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	214×346	川口屋宇兵衛	広重画	(「極」)	マージン欠
1139	1043		歌川広重	「京都名所之内 八瀬之里」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	244×373	川口屋宇兵衛	広重画	「極」	
1140	1044		歌川広重	「京都名所之内 淀川」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	253×368	三田屋喜八	広重画(印)	「極」	
1141	1045		歌川広重	「京都名所之内 祇園社雪中」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	251×368		広重画(印)		
1142	1046		歌川広重	「京都名所之内 島原出口之柳」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	245×368	川口屋宇兵衛	広重画		
1143	1047		歌川広重	「京都名所之内 糺川原之夕立」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	254×381	三田屋喜八	広重画	「極」	
1144	1048		歌川広重	「京都名所之内 清水」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	246×376	三田屋喜八	広重画(印)	「極」	か
1145	1049		歌川広重	「京都名所之内 四条河原夕涼」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	246×379	川口屋正蔵	広重画	「極」	
1146	1050		歌川広重	「諸国六玉河 拙津 袴衣之玉川」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	249×373	蔦屋重三郎	広重画(印)	「極」	初版。「松風の…」
1147	1051		歌川広重	「諸国六玉河 近江 野路之玉川」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	249×372	蔦屋重三郎	広重画(印)	「極」	初版。「翌日もこむ…」
1148	1052		歌川広重	「諸国六玉河 山城 井出之玉川」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	247×374	蔦屋重三郎	広重画(印)	「極」	初版。「駒とめて…」
1149	1053		歌川広重	「諸国六玉河 武蔵 調布之玉川」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	249×373	蔦屋重三郎	広重画(印)	「極」	初版。「調布や…」
1150	1054		歌川広重	「諸国六玉河 紀伊 高野之玉河」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	251×372	蔦屋重三郎	広重画(印)	「極」	初版。「わすれても…」
1151	1055		歌川広重	「諸国六玉河 陸奥 野田之玉川」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	247×373	蔦屋重三郎	広重画(印)	「極」	初版。「夕されば…」
1152	1056		歌川広重	「近江八景之内 比良暮雪」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	230×354	山本平吉	広重画	(「極」)	初版。マージン欠。「雪はるゝ…」所蔵印あり。
1153	1057		歌川広重	「近江八景之内 唐崎夜雨」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	244×369	山本平吉	広重画		初版。「夜の雨に…」
1154	1058		歌川広重	「近江八景之内 石山秋月」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	243×367	竹内孫八	広重画	「極」	初版。「石山や…」
1155	1059		歌川広重	「近江八景之内 三井晩鐘」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	249×372	竹内孫八	広重画	「極」	初版。「思ふその…」
1156	1060		歌川広重	「近江八景之内 矢橋帰帆」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	249×374	山本平吉	広重画	「極」	初版。「真帆かけて…」
1157	1061		歌川広重	「近江八景之内 粟津晴嵐」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	251×374	竹内孫八	広重画	「極」	初版。「雲はらふ…」
1158	1062		歌川広重	「金沢八景 内 川暮雪」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	255×378	越村屋平助	広重画(印)	「極」	初版。「木陰なく…」
1159	1063		歌川広重	「金沢八景 野島夕照」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	255×257	越村屋平助	広重画(印)	(「極」)	初版。マージン欠。「夕日さす…」
1160	1064		歌川広重	「義経一代図会 発端 三子を伴て常盤御ぜん漂ろうす」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	262×342	鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	マージン欠
1161	1065		歌川広重	「義経一代記之内 六回 伊勢の三郎が隠家にやどりて牛若丸主従の契約す」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	255×351	鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	マージン欠
1162	1066		歌川広重	「義経一代記之内 七回 牛若丸尙に鬼一法眼が秘書を見る」	天保4-5(1833-34)年頃	大判錦絵	243×361	鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	
1163	1067	未	歌川広重	「忠臣蔵 大序」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	234×357	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1164	1068	未	歌川広重	「忠臣蔵 二段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	234×356	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	
1165	1069	未	歌川広重	「忠臣蔵 三段目」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	232×356	和泉屋市兵衛	広重画	「極」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1109	1030.35	未	歌川広重	「東海道 卅七 五十三次之内 藤川」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1110	1030.36	未	歌川広重	「東海道 卅八 五十三次之内 岡崎」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1111	1030.37	未	歌川広重	「東海道 卅九 五十三次之内 池鯉鮒」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1112	1030.38	未	歌川広重	「東海道 四十 五十三次之内 鳴海」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1113	1030.39	未	歌川広重	「東海道 四十 一 五十三次之 内 宮」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1114	1030.40	未	歌川広重	「東海道 四十 二 五十三次之 内 桑名」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1115	1030.41	未	歌川広重	「東海道 四十 三 五十三次之 内 四日市」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1116	1030.42	未	歌川広重	「東海道 四十 四 五十三次之 内 石薬師」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1117	1030.43	未	歌川広重	「東海道 四十 五 五十三次之 内 庄野」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1118	1030.44	未	歌川広重	「東海道 四十 六 五十三次之 内 亀山」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1119	1030.45	未	歌川広重	「東海道 四十 七 五十三次之 内 関」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1120	1030.46	未	歌川広重	「東海道 四十 八 五十三次之 内 坂の下」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1121	1030.47	未	歌川広重	「東海道 四十 九 五十三次之 内 土山」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1122	1030.48	未	歌川広重	「東海道 五十 五十三次之内 水口」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1123	1030.49	未	歌川広重	「東海道 五十 一 五十三次之 内 石部」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1124	1030.50	未	歌川広重	「東海道 五十 二 五十三次之 内 草津」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1125	1030.51	未	歌川広重	「東海道 五十 三 五十三次之 内 大津」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1126	1030.52	未	歌川広重	「東海道 五十 四 五十三次大 尾 京都」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1127	1031	未	歌川広重	「東海道五拾三 次之内 藤川 山中宿商家」	天保9(1838)年頃	間判錦絵	227×344	江崎屋辰蔵・江崎 屋吉兵衛	広重画	「浜」	行書東海道
1128	1032	未	歌川広重	「東海道五拾三 次之内 蒲原 岩淵よりふじ川を 見る図」	天保9(1838)年頃	間判錦絵	225×345	江崎屋辰蔵・江崎 屋吉兵衛	広重画	「浜」	行書東海道
1129	1033	未	歌川広重	「東海道五拾三 次之内 鞍子」	天保9(1838)年頃	間判錦絵	225×344	江崎屋辰蔵・江崎 屋吉兵衛	広重画		行書東海道
1130	1034	未	歌川広重	「五十三次 亀 山」	嘉永5(1852)年間2月	中判錦絵	253×175	村田屋市五郎	広重画	(「浜」 「馬込」 「子関」) か	人物東海道
1131	1035		歌川広重	「江戸近郊八景 之内 飛鳥山暮 雪」	天保7-8(1836-37) 年頃	大判錦絵	257×378	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	後版。「あすかや ま…」
1132	1036		歌川広重	「江戸近郊八景 之内 吾嬬杜夜 雨」	天保7-8(1836-37) 年頃	大判錦絵	221×349	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	後版。「柳島…」 マージン欠。
1133	1037	未	歌川広重	「江戸近郊八景 之内 池上晩 鐘」	天保7-8(1836-37) 年頃	大判錦絵	235×362	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	後版。「八軸の …」若井兼三郎 印
1134	1038		歌川広重	「江戸近郊八景 之内 芝浦晴 嵐」	天保7-8(1836-37) 年頃	大判錦絵	246×362	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	後版。「雲払ふ …」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1083	1030.10	未	歌川広重	「東海道 十一 五十三次之内 箱根」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1084	1030.11	未	歌川広重	「東海道 十二 五十三次之内 三島」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1085	1030.12	未	歌川広重	「東海道 十三 五十三次之内 沼津」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1086	1030.13	未	歌川広重	「東海道 十五 五十三次之内 吉原」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1087	1030.14	未	歌川広重	「東海道 十六 五十三次之内 蒲原」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1088	1030.15	未	歌川広重	「東海道 十七 五十三次之内 由井」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1089	1030.16	未	歌川広重	「東海道 十八 五十三次之内 興津」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1090	1030.17	未	歌川広重	「東海道 十九 五十三次之内 江尻」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1091	1030.18	未	歌川広重	「東海道 二十 五十三次之内 府中」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1092	1030.19	未	歌川広重	「東海道 廿一 五十三次之内 鞠子」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1093	1030.20	未	歌川広重	「東海道 廿二 五十三次之内 岡部」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1094	1030.21	未	歌川広重	「東海道 廿三 五十三次之内 藤枝」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1095	1030.22	未	歌川広重	「東海道 廿四 五十三次之内 島田 金谷」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1096	1030.23	未	歌川広重	「東海道 廿五 五十三次之内 日坂」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1097	1030.24	未	歌川広重	「東海道 廿六 五十三次之内 掛川」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1098	1030.25	未	歌川広重	「東海道 廿七 五十三次之内 袋井」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1099	1030.26	未	歌川広重	「東海道 廿八 五十三次之内 見附」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1100	1030.27	未	歌川広重	「東海道 廿九 五十三次之内 浜松」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1101	1030.27 A	未	歌川広重	「東海道 廿九 五十三次之内 浜松」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1102	1030.28	未	歌川広重	「東海道 三十 五十三次之内 舞坂」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「浜」 「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1103	1030.29	未	歌川広重	「東海道 卅一 五十三次之内 荒井」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1104	1030.30	未	歌川広重	「東海道 卅二 五十三次之内 白須賀」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1105	1030.31	未	歌川広重	「東海道 卅三 五十三次之内 二川」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1106	1030.32	未	歌川広重	「東海道 卅四 五十三次之内 吉田」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1107	1030.33	未	歌川広重	「東海道 卅五 五十三次之内 御油」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1108	1030.34	未	歌川広重	「東海道 卅六 五十三次之内 赤坂」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉藏	広重画	(「米良」 「村田」)	葛屋版東海道 画帖のうち

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量 (mm)	版元	署名	改印	備考
1051	1007	未	歌川広重	「東海道五拾三次 二川」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	163×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「女夫石…」
1052	1008	未	歌川広重	「東海道五拾三次 吉田」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×227	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「もてなしは…」
1053	1009	未	歌川広重	「東海道五拾三次 御油」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×231	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「此ゆふべ…」
1054	1010	未	歌川広重	「東海道五拾三次 赤坂」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	167×233	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「双六と…」
1055	1011	未	歌川広重	「東海道五拾三次 藤川」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	163×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「行過る…」
1056	1012	未	歌川広重	「東海道五拾三次 岡崎」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	163×221	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「宿毎に…」 「矢はぎのはし」
1057	1013	未	歌川広重	「東海道五拾三次 池鯉鮒」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×227	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「春風に…」
1058	1014	未	歌川広重	「東海道五拾三次 鳴海」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	165×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「たかぬひし…」
1059	1015	未	歌川広重	「東海道五拾三次 宮」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	163×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「わだつみを…」
1060	1016	未	歌川広重	「東海道五拾三次 桑名」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	167×231	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「乗り合のちいが …」「富田立場之 図」
1061	1017	未	歌川広重	「東海道五拾三次 四日市」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×231	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「梅が香に…」
1062	1018	未	歌川広重	「東海道五拾三次 石薬師」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	165×221	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「石薬師…」 「問屋場の図」
1063	1019	未	歌川広重	「東海道五拾三次 庄野」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	165×223	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「宿人に…」
1064	1020	未	歌川広重	「東海道五拾三次 亀山」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「さえぎて…」
1065	1021	未	歌川広重	「東海道五拾三次 関」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「くづつめに…」
1066	1022	未	歌川広重	「東海道五拾三次 阪之下」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「すゝか山…」 「筆捨山之図」
1067	1023	未	歌川広重	「東海道五拾三次 土山」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「柴の門…」 「鈴鹿山之図」
1068	1024	未	歌川広重	「東海道五拾三次 水口」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「四つ五つ…」
1069	1025	未	歌川広重	「東海道五拾三次 石部」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	163×223	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「都女の…」
1070	1026	未	歌川広重	「東海道五拾三次 草津」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「たのしみの…」
1071	1027	未	歌川広重	「東海道五拾三次 大津」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	167×232	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「君が代の…」
1072	1028	未	歌川広重	「東海道五拾三次 京」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×223	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「鳴神の…」 「三条大橋の図」
1073	1029	未	歌川広重	「東海道 大尾京 内裏」	天保8-9(1837-38) 年頃	中判錦絵	168×227	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道 「おもひ立…」
1074	1030.1	未	歌川広重	「東海道 一五十三次之内 日本橋曙之図」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1075	1030.2	未	歌川広重	「東海道 二五十三次之内 品川」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1076	1030.3	未	歌川広重	「東海道 三五十三次之内 川崎」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1077	1030.4	未	歌川広重	「東海道 四五十三次之内 神名川」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1078	1030.5	未	歌川広重	「東海道 五十三次之内 程ヶ谷」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1079	1030.6	未	歌川広重	「東海道 六十三次之内 戸塚」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×229	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1080	1030.7	未	歌川広重	「東海道 七十三次之内 藤沢」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×229	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1081	1030.8	未	歌川広重	「東海道 八十三次之内 平塚」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×229	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち
1082	1030.9	未	歌川広重	「東海道 九十三次之内 大磯」	嘉永期(1848-54)	中判錦絵	165×228	葛屋吉蔵	広重画	(「浜」「衣笠」)	葛屋版東海道 画帖のうち

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
1017	973	未	歌川広重	「東海道 五十五次 大尾 京」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	248×372	丸屋清次郎	広重画	「米良」「渡辺」	録書東海道、「三条大はし」マージン欠か。
1018	974	未	歌川広重	「東海道五拾三次 日本橋」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	163×217	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「日本橋…」
1019	975	未	歌川広重	「東海道五拾三次 品川」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	168×232	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「送り来る…」
1020	976	未	歌川広重	「東海道五拾三次 川崎」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×227	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「春霞…」
1021	977	未	歌川広重	「東海道五拾三次 かな川」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	163×216	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「双六の…」
1022	978	未	歌川広重	「東海道五拾三次 保土ヶ谷」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	162×223	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「諺の…」 「境木立場」
1023	979	未	歌川広重	「東海道五拾三次 戸塚」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	165×221	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「霞日を…」
1024	980	未	歌川広重	「東海道五拾三次 藤沢」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	165×221	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「うかすお…」
1025	981	未	歌川広重	「東海道五拾三次 平塚」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	163×216	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「大磯へ…」 「馬入川渡舟」
1026	982	未	歌川広重	「東海道五拾三次 大磯」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×221	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「うかれ女の…」
1027	983	未	歌川広重	「東海道五拾三次 小田原」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	162×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「小田原の…」
1028	984	未	歌川広重	「東海道五拾三次 箱根」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	168×231	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「ことわざに…」
1029	985	未	歌川広重	「東海道五拾三次 三島」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	168×232	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「今は簞…」
1030	986	未	歌川広重	「東海道五拾三次 沼津」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×223	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「名にしおふ…」
1031	987	未	歌川広重	「東海道五拾三次 原」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	162×219	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「けふいくか…」
1032	988	未	歌川広重	「東海道五拾三次 吉原」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	165×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「行来する…」 「左り富士の縄手」
1033	989	未	歌川広重	「東海道五拾三次 蒲原」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	168×227	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「春風に…」
1034	990	未	歌川広重	「東海道五拾三次 由井」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「ふみ込は…」 「由井川」
1035	991	未	歌川広重	「東海道五拾三次 興津」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×221	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「風ふけば…」 「興津川」
1036	992	未	歌川広重	「東海道五拾三次 江尻」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×221	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「花の旅駕を…」
1037	993	未	歌川広重	「東海道五拾三次 府中」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	168×232	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「たび人も…」 「二丁町廓之図」
1038	994	未	歌川広重	「東海道五拾三次 岡部」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	165×221	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「草臥て…」 「宇津の山の図」
1039	995	未	歌川広重	「東海道五拾三次 鞠子」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「通りぬけするかごも…」
1040	996	未	歌川広重	「東海道五拾三次 藤枝」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	168×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「口なしの…」
1041	997	未	歌川広重	「東海道五拾三次 島田」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×225	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「大井川…」
1042	998	未	歌川広重	「東海道五拾三次 金谷」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	168×232	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「大井川…」
1043	999	未	歌川広重	「東海道五拾三次 日阪」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	165×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「あたらしく…」
1044	1000	未	歌川広重	「東海道五拾三次 掛川」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	163×219	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」か	狂歌入東海道「秋葉てふ…」
1045	1001	未	歌川広重	「東海道五拾三次 袋井」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×223	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「せんべいの…」
1046	1002	未	歌川広重	「東海道五拾三次 見附」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×227	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「むかしたり…」 「天龍川舟渡し」
1047	1003	未	歌川広重	「東海道五拾三次 浜松」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	167×219	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「春の日の…」
1048	1004	未	歌川広重	「東海道五拾三次 舞坂」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	165×223	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「揚雲雀…」 「今切舟渡」
1049	1005	未	歌川広重	「東海道五拾三次 荒井」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	165×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「見渡せば…」
1050	1006	未	歌川広重	「東海道五拾三次 白須賀」	天保8-9(1837-38)年頃	中判錦絵	168×224	佐野屋喜兵衛	広重画	「極」	狂歌入東海道「人真似に…」 「汐見坂の図」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
991	947	未	歌川広重	「東海道 五十三次 廿九 見附」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	247×372	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「天竜川渡舟」 マージン欠か。
992	948	未	歌川広重	「東海道 五十三次 松」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	246×372	丸屋清次郎	広重画(印)	「米良」 「渡辺」	隷書東海道
993	949	未	歌川広重	「東海道 五十三次 舞 板」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	242×365	丸屋清次郎	広重画	「渡辺」 「米良」	隷書東海道、 マージン欠か。
994	950	未	歌川広重	「東海道 五十三次 井」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	242×368	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
995	951	未	歌川広重	「東海道 五十三次 白須賀」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	242×368	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「汐見坂」 マージン欠か。
996	952	未	歌川広重	「東海道 五十三次 廿四 二川」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	249×368	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「猿が馬場」 マージン欠か。
997	953	未	歌川広重	「東海道 五十三次 廿五 吉田」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	249×372	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「六月十五日」 「天王祭」 マージン欠か。
998	954	未	歌川広重	「東海道 五十三次 御油」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	232×354	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「古街道本野が原」 マージン欠か。
999	955	未	歌川広重	「東海道 五十三次 赤坂」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	249×372	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道
1000	956	未	歌川広重	「東海道 五十三次 藤川」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	248×370	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1001	957	未	歌川広重	「東海道 五十三次 岡崎」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	242×368	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「矢はぎ川」 マージン欠か。
1002	958	未	歌川広重	「東海道 五十三次 池鯉鮒」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	249×372	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1003	959	未	歌川広重	「東海道 四十一 五十三次 鳴海」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	249×368	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「名産紋」店」 マージン欠か。
1004	960	未	歌川広重	「東海道 四十二 五十三次 宮」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	241×370	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道 「七里の渡し」 「熱田島居」 「寝覚の里」 マージン欠か。
1005	961	未	歌川広重	「東海道 四十三 五十三次 桑名」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	246×367	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「七里の渡舟」 マージン欠か。
1006	962	未	歌川広重	「東海道 四十四 五十三次 四日市」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	241×367	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1007	963	未	歌川広重	「東海道 四十五 五十三次 石薬師」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	248×370	丸屋清次郎	広重画	印なし	隷書東海道、 マージン欠か。
1008	964	未	歌川広重	「東海道 四十六 五十三次 庄野」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	233×354	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1009	965	未	歌川広重	「東海道 四十七 五十三次 龜山」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	254×384	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1010	966	未	歌川広重	「東海道 四十八 五十三次 関」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	246×372	丸屋清次郎	広重画(印)	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1011	967	未	歌川広重	「東海道 四十九 五十三次 坂の下」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	233×358	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1012	968	未	歌川広重	「東海道 五十三次 土山」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	249×370	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1013	969	未	歌川広重	「東海道 五十一 五十三次 水口」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	241×368	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「平松山美松」 マージン欠か。
1014	970	未	歌川広重	「東海道 五十二 五十三次 石部」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	249×370	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。
1015	971	未	歌川広重	「東海道 五十三 五十三次 草津」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	246×372	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 「矢ばせの渡口」 「琵琶湖風景」 マージン欠か。
1016	972	未	歌川広重	「東海道 五十四 五十三次 大津」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	248×368	丸屋清次郎	広重画	「米良」 「渡辺」	隷書東海道、 マージン欠か。

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
961	918	未	歌川広重	「木曾海道六拾 九次之内 草津 追分 六拾八 (九)」	天保8-9(1837-38) 年頃	大判錦絵	242×365	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	左下所蔵印か
962	919	未	歌川広重	「木曾海道六拾 九次之内 大津 七拾」	天保8-9(1837-38) 年頃	大判錦絵	256×372	伊勢屋利兵衛	広重画	「極」	
963	919A	未	歌川広重	「木曾海道六拾 九次之内 大津 七拾」	天保8-9(1837-38) 年頃	大判錦絵	256×372	伊勢屋利兵衛	広重画	「極」	
964	920		歌川広重	「東海道 一 五十三次 日本 橋」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	239×367	丸屋清次郎	広重画	「村松 「福」	録書東海道
965	921		歌川広重	「東海道 二 五十三次 品川」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	247×372	丸屋清次郎	広重画	「村松 「福」	録書東海道 「鮎洲の茶や」
966	922		歌川広重	「東海道 三 五十三次 川崎」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	234×361	丸屋清次郎	広重画	「福」 「村松」	録書東海道 「六ごうのわたし」
967	923		歌川広重	「東海道 四 五十三次 かな 川」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	214×349	丸屋清次郎	広重画	「村松 「福」	録書東海道、 マージン欠。 「台の茶や」
968	924		歌川広重	「東海道 五 五十三次 程が 谷」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	242×370	丸屋清次郎	広重画	「福」 「村松」	録書東海道 「かたびら橋」 「かたびら川」
969	925		歌川広重	「東海道 六 五十三次 戸 塚」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	239×357	丸屋清次郎	広重画	「村松 「福」	録書東海道
970	926		歌川広重	「東海道 五 十三次 藤沢」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	246×372	丸屋清次郎	広重画	「村松 「福」	録書東海道
971	927	未	歌川広重	「東海道 八 五十三次 平 塚」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	227×356	丸屋清次郎	広重画	「村松 「福」	録書東海道
972	928	未	歌川広重	「東海道 九 五十三次 大 磯」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	241×368	丸屋清次郎	広重画	「村松 「福」	録書東海道 「鴨立沢西行庵」
973	929	未	歌川広重	「東海道 十 五十三次 小田 原」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	225×354	丸屋清次郎	広重画	「村松 「福」	録書東海道、 「酒匂川」 マージン欠
974	930	未	歌川広重	「東海道 十一 五十三次 箱根」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	248×373	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」 か」	録書東海道 「夜中松明登り」
975	931	未	歌川広重	「東海道 十二 五十三次 三 島」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	260×381	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道 マージン欠
976	932	未	歌川広重	「東海道 十三 五十三次 沼 津」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	211×337	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道
977	933	未	歌川広重	「東海道 十四 五十三次 原」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	224×349	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道 マージン欠
978	934	未	歌川広重	「東海道 十五 五十三次 吉原」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	241×368	丸屋清次郎	広重画(印)	「米良 「渡辺」	録書東海道 「名所左り不二」
979	935	未	歌川広重	「東海道 十六 五十三次 蒲原」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	244×367	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道 「富士川渡舟」
980	936	未	歌川広重	「東海道 十七 五十三次 由井」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	241×362	丸屋清次郎	広重画	印なし	録書東海道
981	937	未	歌川広重	「東海道 十八 五十三次 興津」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	239×370	丸屋清次郎	広重画(印)	「米良 「渡辺」	録書東海道 「清見がせき」 「清見寺」
982	938	未	歌川広重	「東海道 二十 五十三次 府中」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	246×373	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道
983	939	未	歌川広重	「東海道 廿一 五十三次 鞠子」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	262×382	丸屋清次郎	広重画(印)	「米良 「渡辺」	録書東海道
984	940	未	歌川広重	「東海道 廿二 五十三次 岡部」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	248×367	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道 「宇津の山」
985	941	未	歌川広重	「東海道 廿三 五十三次 藤枝」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	246×373	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道
986	942	未	歌川広重	「東海道 廿四 五十三次 島田」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	224×373	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道、 「大井川」 マージン欠か。
987	943	未	歌川広重	「東海道 廿五 五十三次 金谷」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	237×367	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道 「金谷坂」「大井川」 「かなや駅」
988	944	未	歌川広重	「東海道 廿六 五十三次 日阪」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	247×368	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道 「夜啼石」「無間 山」「小夜の中山」
989	945	未	歌川広重	「東海道 廿七 五十三次 懸川」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	221×349	丸屋清次郎	広重画	「米良 「渡辺」	録書東海道、 「秋葉山別道」 マージン欠か。
990	946	未	歌川広重	「東海道 廿八 五十三次 袋井」	嘉永4(1851)年頃	大判錦絵	241×368	丸屋清次郎	広重画(印)	「米良 「渡辺」	録書東海道 「名物遠州だこ」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
936	895	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 中津川 四拾六」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	251×365	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		異版(暗れ)。
937	896	未	歌川広重	「四拾七 木曾海道六拾九次之内 大井」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	248×358	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		胡粉の雪なし。左右マージン欠。
938	897	未	歌川広重	「四拾八 木曾海道六拾九次之内 大久手」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	249×379	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		マージンは後付けか。
939	898	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 細久手 四拾九」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	248×368	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		
940	899	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 御嶽五拾」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	249×373	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		
941	900	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 伏見五十巻」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	246×362	伊勢屋利兵衛	広重画	「極」	
942	901	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 太田五拾二」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	242×368	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		
943	902	未	溪斎英泉	「五十三 木曾街道 鶴沼の駅より大山遠望」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	239×376	竹内孫八	溪斎画	(「極」)	初版。左マージン欠。
944	903	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 加納五拾四」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	256×378	伊勢屋利兵衛	広重画	「極」	
945	904	未	溪斎英泉(無款)	「五十五 岐路の駅 河渡長柄川鶴飼船」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	246×379				後版。「保永堂」印なし。
946	905	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 みゑじ 五拾六」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	251×373	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
947	906	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 赤坂五拾七」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	246×379	伊勢屋利兵衛	広重画		
948	907	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 垂井五拾八」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	256×376	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
949	908	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 関が原 五拾九」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	239×370	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
950	909	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 今須六拾」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	251×374	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	所蔵印あり
951	909A	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 今須六拾」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	281×365	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
952	910	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 柏原六拾壹」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	248×308	伊勢屋利兵衛	広重画	「極」	
953	911	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 酔が井 六拾二」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	228×353	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		
954	912	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 番場六拾三」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	254×374	伊勢屋利兵衛	広重画		
955	913	未	歌川広重	「六拾三(四) 木曾海道六拾九次之内 鳥居本」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	234×361	竹内孫八・伊勢屋利兵衛	広重画(印)		後版。瓢印(「極」・「竹」)なし。
956	913A	未	歌川広重	「六拾三(四) 木曾海道六拾九次之内 鳥居本」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	356×373	竹内孫八・伊勢屋利兵衛	広重画		後版。瓢印(「極」・「竹」)なし。
957	914	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 高宮六拾五」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	234×368	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
958	915	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 恵智川 六拾六」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	256×370	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
959	916	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 武佐六拾六(七)」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	252×379	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
960	917	未	歌川広重	「木曾海道六拾九次之内 守山六拾八」	天保8-9(1837-38)年頃	大判錦絵	233×362	伊勢屋利兵衛	広重画	「極」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
911	875	未	歌川広重	「二拾七 木曾 海道六拾九次之内 あし田」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	254×376	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
912	876	未	歌川広重	「二十八 木曾 海道六拾九次之内 長久保」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	252×378	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
913	877	未	歌川広重	「二拾九 木曾 海道六拾九次之内 和田」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	254×374	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	「林」印なし
914	878	未	歌川広重	「三拾 木曾海 道六拾九次之内 下諏訪」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	247×371	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	後版。天ぼかし なし
915	879		溪斎英泉	「三十一 木曾 街道 塩尻嶺諏 訪の湖水眺望」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	251×371	竹内孫八	英泉画	「極」	初版。
916	880		歌川広重	「三拾式 木曾 海道六拾九次之内 洗馬」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	244×363	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		
917	881	未	歌川広重	「三十三 木曾 海道六拾九次之内 本山」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	234×354	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
918	882	未	歌川広重	「木曾海道六拾 九次之内 費川」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	256×378	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	馬に「三十四」
919	882A	未	歌川広重	「木曾海道六拾 九次之内 費川」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	246×370	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	馬に「三十四」
920	883	未	溪斎英泉 (無款)	「三十五 岐阻 街道 奈良井宿 名産店之図」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	242×368	竹内孫八		「極」	後版。瓢印の下 側、「竹」印削 る。
921	883A		溪斎英泉	「三十五 岐阻 街道 奈良井宿 名産店之図」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	364	竹内孫八	英泉画	「極」	初版。
922	884		溪斎英泉 (無款)	「三十六 木曾 街道 葦原 鳥 居峠硯清水」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	228×358	竹内孫八		「極」	後版。石碑の芭 魚の句彫る。
923	885		歌川広重	「三十七 木曾 海道六十九次之内 宮の越」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	251×358	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	中景のシルエット は薄墨色
924	886		歌川広重	「三拾八 木曾 海道六拾九次之内 福しま」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	251×368	竹内孫八・伊勢屋 利兵衛	広重画(印)	「極」	
925	886A		歌川広重	「三拾八 木曾 海道六拾九次之内 福しま」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	249×362	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		瓢印(「極」・「竹」) なしか
926	887		歌川広重	「三拾九 木曾 海道六拾九次之内 上ヶ松」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	248×363	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
927	888		歌川広重	「四拾 木曾海 道六拾九次之内 須原」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	248×365	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	雨は胡粉→墨に 変更。
928	889		溪斎英泉 (無款)	「四十一 木曾 路駅 野尻 伊 奈川橋遠景」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	240×365	竹内孫八		「極」	後版。左遠景藍 の山あり、薄墨 の山なし。橋の奥 藍の山と鳥なし、 瓢印の下側、「 竹」印削る。
929	889A		溪斎英泉	「四十一 木曾 路駅 野尻 伊 奈川橋遠景」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	242×379	竹内孫八	溪斎画	「極」	初版
930	890		溪斎英泉 (無款)	「四十一 木曾 路駅 野尻 伊 奈川橋遠景」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	246×367	竹内孫八		「極」	後版。左遠景藍 の山なし。薄墨 の山残る。橋の 奥藍の山と鳥な し。瓢印の下側、 「竹」印削る。
931	891	未	歌川広重	「四十式 木曾 海道六拾九次之内 三渡野」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	248×368	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		
932	892	未	歌川広重	「四拾三 木曾 海道六拾九次之内 妻籠」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	222×337	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		マージン欠
933	893	未	溪斎英泉 (無款)	「四十四 木曾 街道 馬籠駅 峠より遠望之図」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	227×354	竹内孫八			後版。中央山あり。 所蔵印あり。
934	893A	未	溪斎英泉 (無款)	「四十四 木曾 街道 馬籠駅 峠より遠望之図」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	240×370	竹内孫八			後版。中央山あり。
935	894	未	歌川広重	「木曾海道六拾 九次之内 落合 四拾五」	天保8-9(1837-38) 年頃	大判錦絵	247×365		広重画(印)		後版。左下 「林」印なし。

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
886	854A	未	溪斎英泉	「第六 木曾街道 上尾宿 加茂之社」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	255×377	竹内孫八	溪斎画	「極」	初版。
887	855	未	溪斎英泉 (無款)	「第七 岐阻街道 桶川宿 畠原之景」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	244×368	竹内孫八			後版
888	856	未	溪斎英泉 (無款)	「第八 岐阻街道 鴻巣 吹上富士遠望」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	244×373	竹内孫八			後版。「竹内」印なし。
889	856A	未	溪斎英泉	「第八 岐阻街道 鴻巣 吹上富士遠望」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	218×339	竹内孫八	溪斎画		初版。マージン欠。
890	857	未	溪斎英泉	「第九 岐阻道中 熊谷宿 八丁堤の景」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	246×367	竹内孫八	英泉画		初版
891	858	未	溪斎英泉 (無款)	「第十 岐阻深谷之駅」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	239×367	竹内孫八			後版。「竹内」印なし。右遠景の家の輪郭線なし。座頭横に犬。提灯がシルエット。左右マージン欠。
892	859	未	溪斎英泉 (無款)	「十壱 支蘇路の駅 本庄宿 神流川渡場」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	247×367				後版。「版元 保永堂 竹内」印なし。
893	860	未	歌川広重	「拾貳 木曾海道六拾九次之内 新町」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	256×381	伊勢屋利兵衛	広重画	「極」	後版。左上雲あり、右遠景雲なし、署名下の「式立斎」印なし。
894	861	未	溪斎英泉 (無款)	「十三 木曾街道 倉賀野宿 烏川之図」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	236×349	竹内孫八			後版。
895	861A	未	溪斎英泉	「十三 木曾街道 倉賀野宿 烏川之図」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	253×381	竹内孫八	英泉画		初版。
896	861B	未	溪斎英泉 (無款)	「十三 木曾街道 倉賀野宿 烏川之図」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	233×361				後版。「竹内」・「保永堂」印なし。
897	862	未	歌川広重	「拾四 木曾海道六拾九次之内 高崎」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	256×372	竹内孫八	広重画(印)		
898	863	未	溪斎英泉 (無款)	「十五 木曾海道六拾九次之内 板鼻」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	247×373	伊勢屋利兵衛			後版。瓢印(「極」・「竹」)なし。「伊世利」印・「十五」にかわる。
899	864	未	歌川広重	「拾六 木曾海道六拾九次之内 案中」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	244×365	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
900	865	未	歌川広重	「拾七 木曾海道六拾九次之内 松井田」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	254×382	伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」	
901	866	未	溪斎英泉 (無款)	「十八 木曾海道六拾九次之内 坂本」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	246×343	伊勢屋利兵衛			マージン欠。
902	867	未	歌川広重	「拾九 木曾海道六拾九次之内 軽井沢」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	277×368	竹内孫八・伊勢屋利兵衛	広重画(印)	「極」か	煙にぼかしあり。「竹内」印あり。
903	868	未	溪斎英泉 (無款)	「二十 木曾街道 杵掛の駅 平塚原雨中之景」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	257×376	竹内孫八			やや後版。「保永堂」印、「保永堂板」なくなる。
904	869		溪斎英泉	「廿貳(一) 木曾街道 追分宿 浅間山眺望」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	219×332	竹内孫八	溪斎画	「極」	初版。マージン欠。浅間山の煙は墨で後入れ。
905	869A	未	溪斎英泉 (無款)	「廿貳(一) 木曾街道 追分宿 浅間山眺望」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	231×354	竹内孫八・伊勢屋利兵衛			瓢印(「極」・「竹」)なし。馬の腹に「林」。
906	870	未	歌川広重	「二拾貳 木曾海道六拾九次之内 小田井」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	236×332	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		左右マージン欠
907	871	未	溪斎英泉 (無款)	「二十三 木曾道中 岩村田」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	239×368	竹内孫八		「極」	後版。瓢印の下側、「竹」印削る。
908	872	未	歌川広重	「二拾四 木曾海道六拾九次之内 塩なだ」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	227×378	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		マージン欠
909	873	未	歌川広重	「二拾五 木曾海道六拾九次之内 八幡」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	256×378	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		
910	874	未	歌川広重	「二拾六 木曾海道六拾九次之内 望月」	天保6-7(1835-36)年頃	大判錦絵	252×376	伊勢屋利兵衛	広重画(印)		「林」印なし

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
861	832		歌川広重	「東海道五拾三次之内 宮 熱田神事」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	236×367	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
862	833		歌川広重	「東海道五拾三次之内 桑名七里渡口」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×363	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
863	834		歌川広重	「東海道五拾三次之内 四日市三重川」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×363	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
864	835		歌川広重	「東海道五拾三次之内 石薬師石薬師寺」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×361	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
865	836		歌川広重	「東海道五拾三次之内 庄野白雨」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
866	837		歌川広重	「東海道五拾三次之内 庄野白雨」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	232×363	竹内孫八	広重画	(「極」)	保永堂版東海道、マージン欠。
867	838		歌川広重	「東海道五拾三次之内 龜山雪晴」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
868	839		歌川広重	「東海道五拾三次之内 関 本陣早立」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
869	840		歌川広重	「東海道五拾三次之内 阪之下筆捨嶺」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
870	840A		歌川広重	「東海道五拾三次之内 阪之下筆捨嶺」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	252×376	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
871	841		歌川広重	「東海道五拾三次之内 土山春之雨」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
872	842		歌川広重	「東海道五拾三次之内 水口名物干瓢」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	246×361	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
873	843		歌川広重	「東海道五拾三次之内 石部目川の里」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
874	844		歌川広重	「東海道五拾三次之内 草津名物立場」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	256×362	竹内孫八	広重画	(「極」)	保永堂版東海道、マージン欠。
875	844A		歌川広重	「東海道五拾三次之内 草津名物立場」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	246×362	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
876	845		歌川広重	「東海道五拾三次之内 大津走井茶店」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	236×362	竹内孫八	広重画	(「極」)	保永堂版東海道、マージン欠。
877	846		歌川広重	「東海道五拾三次之内 大津走井茶店」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	241×346	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
878	847		歌川広重	「東海道五拾三次之大尾 京師三条大橋」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道、マージン欠。
879	848		歌川広重	「東海道之内 江之島路 片瀬白七面山見海辺」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	251×381	竹内孫八	広重画	「極」	所蔵印あり
880	849	未	溪斎英泉	「第壹 木曾街道続の壺 日本橋雪之曙」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	257×386	竹内孫八	英泉画	「極」	初版
881	850	未	溪斎英泉 (無款)	「第二 木曾街道 板橋之駅」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	227×349	竹内孫八・伊勢屋利兵衛			後版。「竹内」・瓢印(「極」・「竹」)なし。 保永堂印上は所蔵印か。 馬の腹に「林」。 マージン欠。
882	851	未	溪斎英泉 (無款)	「第三 木曾街道 蔵之駅 戸田川渡」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	225×344	竹内孫八			後版。作品名の「場」、「竹内」印なし。雲あり。
883	852	未	溪斎英泉 (無款)	「第四 支蘇路の駅 浦和宿 浅間山遠望」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	244×367	伊勢屋利兵衛			後版。馬の腹に「林」。「竹内」・「版元保永堂」印なし
884	853	未	溪斎英泉 (無款)	「第五 木曾街道 大宮宿 富士遠景」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	244×361	竹内孫八			後版。「竹内」・瓢印(「極」・「竹」)なし。
885	854	未	溪斎英泉 (無款)	「第六 木曾街道 上尾宿 加茂之社」	天保6(1835)年頃	大判錦絵	242×367	竹内孫八・伊勢屋利兵衛		「極」	後版。遠景の山あり、幟に「いせり」。

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
835	811		歌川広重	「東海道五拾三次之内 鞠子名物茶店」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」か	保永堂版東海道
836	812		歌川広重	「東海道五拾三次之内 岡部宇津之山」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	253×347	鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	保永堂版東海道
837	813		歌川広重	「東海道五拾三次之内 藤枝人馬継立」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	249×378	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	保永堂版東海道
838	813A		歌川広重	「東海道五拾三次之内 藤枝人馬継立」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	245×363	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」か	保永堂版東海道
839	814		歌川広重	「東海道五拾三次之内 島田大井川駿岸」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	254×376	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
840	814A		歌川広重	「東海道五拾三次之内 島田大井川駿岸」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	243×373	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
841	815		歌川広重	「東海道五拾三次之内 金谷大井川遠岸」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	252×378	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
842	816		歌川広重	「東海道五拾三次之内 日坂佐夜の中山」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	252×378	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	保永堂版東海道
843	817		歌川広重	「東海道五拾三次之内 掛川秋葉山遠望」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	254×382	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
844	818		歌川広重	「東海道五拾三次之内 袋井出茶屋の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	252×379	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	保永堂版東海道
845	819		歌川広重	「東海道五拾三次之内 見附天竜川図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	252×384	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
846	820		歌川広重	「東海道五拾三次之内 浜松冬枯の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	241×367	竹内孫八	広重画	「極」	初摺。保永堂版東海道
847	821		歌川広重	「東海道五拾三次之内 舞坂今切真景」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×337	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
848	822		歌川広重	「東海道五拾三次之内 荒井渡舟の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	224×362	竹内孫八	広重画	(「極」)	保永堂版東海道、マージン欠
849	822A		歌川広重	「東海道五拾三次之内 荒井渡舟の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	233×360	竹内孫八	広重画	(「極」)	保永堂版東海道、マージン欠
850	823		歌川広重	「東海道五拾三次之内 白須賀汐見阪図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×337	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
851	824		歌川広重	「東海道五拾三次之内 二川猿ヶ馬場」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
852	825		歌川広重	「東海道五拾三次之内 吉田豊川橋」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×337	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
853	826		歌川広重	「東海道五拾三次之内 御油旅人留女」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	249×337	竹内孫八	広重画		保永堂版東海道
854	827		歌川広重	「東海道五拾三次之内 赤阪旅舎招婦の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	252×367	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
855	827A		歌川広重	「東海道五拾三次之内 赤阪旅舎招婦の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×363	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
856	827B		歌川広重	「東海道五拾三次之内 赤阪旅舎招婦の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	245×363	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
857	828		歌川広重	「東海道五拾三次之内 藤川棒鼻の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	236×365	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
858	829		歌川広重	「東海道五拾三次之内 岡崎矢矧之橋」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	246×363	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
859	830		歌川広重	「東海道五拾三次之内 池鯉鮒首夏馬市」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×361	竹内孫八	広重画	「極」か	保永堂版東海道
860	831		歌川広重	「東海道五拾三次之内 鳴海名物有松紋」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	241×363	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
809	786	未	歌川広重	「本朝名所 駿 州富士川渡船之 図」	天保3(1832)年頃	大判錦絵	209×341	藤岡屋彦三郎	一立斎広重 画		マージン欠
810	787	未	歌川広重	「本朝名所 薩 多富士」	天保8(1837)年頃	大判錦絵	242×370	藤岡屋彦三郎	広重画	「極」	
811	788		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 日本橋 朝之景」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	か 初版。保永堂版 東海道
812	788A		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 日本橋 朝之景」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	225×356	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	後版、雲なし。 保永堂版東海道
813	789		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 日本橋 行列振出」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	251×359	竹内孫八	広重画	「極」	異版。保永堂版 東海道
814	790		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 品川 日之出」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×359	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	か 保永堂版東海道
815	791		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 川崎 六郷渡舟」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×359	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	(「極」)	保永堂版東海道、 マージン欠。
816	792		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 川崎 六郷渡舟」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	254×371	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	保永堂版東海道
817	793		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 神奈川 台之景」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×365	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
818	794		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 保土ヶ 谷 新町橋」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	256×382	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	保永堂版東海道
819	795		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 戸塚 元町別道」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	217×341	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	異版。保永堂版 東海道
820	796		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 戸塚 元町別道」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×365	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	か 初摺。保永堂版 東海道
821	797		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 藤沢 遊行寺」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×363	竹内孫八	広重画	「極」	か 保永堂版東海道
822	798		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 平塚 縄手道」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画	「極」	か 保永堂版東海道
823	799		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 大磯 虎ヶ雨」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」	か 保永堂版東海道
824	800		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 小田原 酒匂川」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×361	竹内孫八	広重画	(「極」)	保永堂版東海道、 マージン欠。
825	801		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 箱根 湖水図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×365	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
826	802		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 三島 朝霧」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」	か 初摺。保永堂版 東海道
827	803		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 沼津 黄昏図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	247×379	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道 所蔵印あり
828	804		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 原 朝 之富士」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×362	竹内孫八	広重画	「極」	か 初摺。保永堂版 東海道
829	805		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 吉原 左富士」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	252×374	竹内孫八	広重画	「極」	か 保永堂版東海道
830	806		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 蒲原 夜之雪」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	242×365	竹内孫八	広重画	「極」	か 保永堂版東海道
831	807		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 由井 薩埵嶺」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	253×371	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道
832	808		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 興津 興津川」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	248×362	竹内孫八 鶴屋喜右衛門	広重画		保永堂版東海道
833	809		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 江尻 三保遠望」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	246×362	竹内孫八	広重画	「極」	か 保永堂版東海道、 マージン欠
834	810		歌川広重	「東海道五拾三 次之内 府中 安部川」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	244×365	竹内孫八	広重画	「極」	保永堂版東海道

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
775	752		葛飾北斎	「琉球八景 糸 村竹籬」	天保3(1832)年頃	大判錦絵	254×373	森屋治兵衛	前北斎為一 筆		
776	753		葛飾北斎	「諸国瀧廻り 相 州大山ろうべん の瀧」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	376×258	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
777	754		葛飾北斎	「百人一首うはか るとき 藤原義 孝」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	249×365	伊勢屋三次郎	前北斎卽!	「極」	
778	755		葛飾北斎	「百人一首うはか るとき 天智天 皇」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	238×372	西村屋与八	前北斎卽!	「極」	
779	756		葛飾北斎	「百人一首うはか るとき 安倍仲 麿」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	247×372	伊勢屋三次郎	前北斎	「極」	
780	757		葛飾北斎	「百人一首うはか 縁説 清原深養 父」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	260×374	伊勢屋三次郎	前北斎卽!		
781	758		葛飾北斎	「百人一首姥かゑ とき 菅家」	天保6-7(1835-36) 年頃	大判錦絵	253×373	伊勢屋三次郎	前北斎卽!	「極」	
782	759		葛飾北斎	小禽に虻	天保2(1831)年頃	中判錦絵	241×185	森屋治兵衛	前北斎筆 (印)	「極」	
783	760		葛飾北斎	「文鳥 辛夷花」	天保5(1834)年頃	中判錦絵	254×179	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
784	761		葛飾北斎	「黄鳥 長春」	天保5(1834)年頃	中判錦絵	251×172	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
785	762		柳々居辰斎	孟宗か	享和-文化(1801- 18)頃	小判錦絵	227×168	不詳	辰斎		
786	763		葛飾北斎	「百物語 笑ひは んにや」	天保2-3(1831-32) 年頃	中判錦絵	263×184	鶴屋喜右衛門	前北斎筆		
787	764		葛飾北斎	菊に虻	天保4-5(1833-34) 年頃	大判錦絵	255×373	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
788	765		葛飾北斎	雪松に鶴	天保5(1834)年頃	長大判錦 絵	507×230	森屋治兵衛	前北斎為一 筆	「極」	
789	766		葛飾北斎	稲刈り	寛政11(1799)年頃	長判摺物	192×502	—	宗理改北斎 画		
790	767		葛飾北斎	鳳揚げ	享和(1801-04)頃	長判摺物	197×540	—	西狂人北斎 画		
791	768		葛飾北斎	「小野小町」	文化7(1810)年頃	大判錦絵	379×252	江崎屋吉兵衛	かつしか北 斎画		
792	769		葛飾北斎	「小野小町」	文化7(1810)年頃	大判錦絵	379×252	江崎屋吉兵衛	かつしか北 斎画		
793	770		葛飾北斎	「僧正遍昭」	文化7(1810)年頃	大判錦絵	372×252	江崎屋吉兵衛	かつしか北 斎画		
794	771		葛飾北斎	「大伴黒主」	文化7(1810)年頃	大判錦絵	379×252	江崎屋吉兵衛	かつしか北 斎画		
795	772		葛飾北斎	「喜撰法師」	文化7(1810)年頃	大判錦絵	379×252	江崎屋吉兵衛	かつしか北 斎画		
796	773		葛飾北斎	「文屋康秀」	文化7(1810)年頃	大判錦絵	379×252	江崎屋吉兵衛	かつしか北 斎画		
797	774		葛飾北斎	「在原業平」	文化7(1810)年頃	大判錦絵	379×252	江崎屋吉兵衛	かつしか北 斎画		
798	775		二代葛飾戴 斗	猿橋夜景	天保(1830-44)頃	大判錦絵	384×257	越後屋長八	葛飾戴斗 (印)	「極」	
799	776		二代葛飾戴 斗	鯉	天保(1830-44)頃	大判錦絵	372×257	越後屋長八	葛飾戴斗 (印)	「極」	
800	777		二代葛飾戴 斗	「古今書画鑑」 桜に小禽	天保(1830-44)頃	もと大判 錦絵貼交 絵	345×86	(和泉屋市兵衛)	葛飾戴斗 (印)		
801	778		二代葛飾戴 斗	一弦琴を弾く布 袋	天保(1830-44)頃	もと大判 錦絵貼交 絵か	363×87	不詳	葛飾戴斗 (印)		
802	779		三代歌川豊 国	広重死絵	安政5(1858)年9月	大判錦絵	352×242	魚屋栄吉	豊国画(印)	「午九」	
803	780	未	東洲勝月	広重肖像	明治20(1888-96)年 代※鈴木重三氏の説 は明治14年	大判錦絵	372×235	不詳	応雷 (印)	勝月	
804	781		歌川広重	「東都名所 両 国之宵月」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	251×382		一幽斎広重 画		一幽斎がき東都 名所、匡郭に録 取りは基準作と違 う版。版元名なし。
805	782		歌川広重	「東都名所 佃 島初郭公」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	257×382	川口屋正蔵	一幽斎広重 画	「極」	一幽斎がき東都 名所、匡郭に録 取りあり。
806	783		歌川広重	「東都名所 洲 崎雪之初日」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	230×375	川口屋正蔵	一幽斎広重 画	「極」	一幽斎がき東都 名所、匡郭に録 取りなし。
807	784		歌川広重	「東都名所 隅 田川葉桜之景」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	252×385	川口屋正蔵	一幽斎広重 画	「極」	一幽斎がき東都 名所、匡郭に録 取りあり。若井兼 三郎印。
808	785	未	歌川広重	「本朝名所 相 州七里ヶ浜」	天保3(1832)年頃	大判錦絵	233×367	藤岡屋彦三郎	一立斎広重 画		

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
741	719		葛飾北斎	「富嶽三十六景 下目黒」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	255×379	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
742	720		葛飾北斎	「富嶽三十六景 常州牛堀」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	247×364	西村屋与八	前北斎為一 筆		
743	721		葛飾北斎	「富嶽三十六景 東都駿台」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	260×364	西村屋与八	北斎改為一 筆		
744	722		葛飾北斎	「富嶽三十六景 相州仲原」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	259×381	西村屋与八	前北斎為一 筆		
745	723		葛飾北斎	「富嶽三十六景 東都浅草本願 寺」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	247×374	西村屋与八	前北斎為一 筆		輪郭線墨摺
746	724		葛飾北斎	「富嶽三十六景 上総ノ海路」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	255×382	西村屋与八	前北斎為一 筆		
747	725		葛飾北斎	「富嶽三十六景 深川万年橋下」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	257×378	西村屋与八	北斎改為一 筆		
748	726		葛飾北斎	「富嶽三十六景 相州梅沢左」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	261×387	西村屋与八	前北斎為一 筆		
749	727		葛飾北斎	「富嶽三十六景 甲州三鳥越」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	260×378	西村屋与八	前北斎為一 筆		
750	728		葛飾北斎	「富嶽三十六景 尾州不二見原」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	257×370	西村屋与八	北斎改為一 筆		
751	729		葛飾北斎	「富嶽三十六景 隅田川関屋の里」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	254×384	西村屋与八	前北斎為一 筆		
752	730		葛飾北斎	「富嶽三十六景 東海道金谷ノ不 二」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	257×378	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
753	730A		葛飾北斎	「富嶽三十六景 東海道金谷ノ不 二」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	261×378	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
754	731		葛飾北斎	「富嶽三十六景 相州江の島」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	260×386	西村屋与八	前北斎為一 筆		輪郭線墨摺
755	732		葛飾北斎	「富嶽三十六景 信州諏訪湖」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	262×387	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
756	733		葛飾北斎	「雪月花 隅田」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	255×379	西村屋与八	前北斎為一 筆		
757	734		葛飾北斎	「雪月花 淀川」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	255×384	西村屋与八	前北斎為一 筆		
758	735		葛飾北斎	「雪月花 吉野」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	255×382	西村屋与八	前北斎為一 筆		
759	736		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 春道のつらき」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	513×227	森屋治兵衛	前北斎為一 筆	「極」	
760	737		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 安倍の仲鷹」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	513×227	森屋治兵衛	前北斎為一 筆	「極」	
761	738		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 在原業平」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	517×228	森屋治兵衛	前北斎為一 筆		
762	739		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 融大臣」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	513×230	森屋治兵衛	前北斎為一 筆	「極」	
763	740		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 少年行」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	502×227	森屋治兵衛	前北斎為一 筆	「極」	
764	741		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 伯耆天」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	506×221	森屋治兵衛	前北斎為一 筆	「極」	
765	742		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 李白」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	508×233	森屋治兵衛	前北斎為一 筆		
766	743		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 清少納言」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	520×221	森屋治兵衛	前北斎為一 筆	「極」	
767	744		葛飾北斎	「詩哥写真鏡 東坡騎驢」	天保4-5(1833-34) 年頃	長大判錦 絵	512×227	森屋治兵衛	前北斎為一 筆		
768	745		葛飾北斎	「諸国名橋奇覧 かうつけ佐野ふ なはしの古づ」	天保4-5(1833-34) 年頃	大判錦絵	253×378	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
769	746		葛飾北斎	「諸国名橋奇覧 摂州阿治川口天 保山」	天保4-5(1833-34) 年頃	大判錦絵	254×374	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
770	747		葛飾北斎	「諸国名橋奇覧 三河の八つ橋の 古図」	天保4-5(1833-34) 年頃	大判錦絵	267×381	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
771	748		葛飾北斎	「諸国名橋奇覧 かめみど天神たい こばし」	天保4-5(1833-34) 年頃	大判錦絵	254×378	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
772	749		葛飾北斎	「諸国名橋奇覧 足利行道山くも のかけはし」	天保4-5(1833-34) 年頃	大判錦絵	262×386	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
773	750		葛飾北斎	「諸国名橋奇覧 飛越の堺つりは し」	天保4-5(1833-34) 年頃	大判錦絵	255×382	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
774	751		葛飾北斎	「琉球八景 長 虹秋霽」	天保3(1832)年頃	大判錦絵	255×382	森屋治兵衛	前北斎為一 筆		

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
706	683B.11	未	山本昇雲	四季のながめ 花嫁	明治39(1906)年	多色摺木版	240×354	松本平吉			
707	683B.12	未	山本昇雲	四季のながめ ゆきの波	明治39(1906)年	多色摺木版	240×354	松本平吉			
708	684		水野年方	「三十六佳撰 虫の音」	明治26(1893)年か	大判錦絵	368×249	松本平吉	年方		
709	685	未	水野年方	今様美人 月見	明治32(1899)年か	大判錦絵	248×368	秋山武右衛門	應需年方繪		
710	686	未	小林清親	今戸橋茶亭の月 夜	明治10(1877)年頃	大判錦絵	223×335	松本平吉			
711	687	未	川瀬巴水	「松島かつら浜」	大正8(1919)年	多色摺木版	258×390	渡邊庄三郎	大正八夏 巴水、(印)		
712	688	未	川瀬巴水	「塩原あら湯路」	大正8(1919)年	多色摺木版	186×476	渡邊庄三郎	大正八 巴 (印)		
713	689	未	川瀬巴水	「塩原しほがま」	大正7(1918)年	多色摺木版	476×176	渡邊庄三郎	大正七秋 巴水、(印)		
714	690	未	川瀬巴水	「東京十二題 こ まかた河岸」	大正8(1919)年	多色摺木版	262×384	渡邊庄三郎	大正八初夏 巴水、(印)		
715	691	未	橋口五葉	紅筆を持てる女	大正9(1920)年	多色摺木版	413×282	私家版	大正九年二 月 五葉画		
716	692	未	橋口五葉	髪梳ける女	大正9(1920)年	多色摺木版	444×348	私家版	大正九年三 月 五葉画		
717	693	未	橋口五葉	長襦袢を着たる 女	大正9(1920)年	多色摺木版	455×147	私家版	大正九年二 月 五葉画		
718	694	未	橋口五葉	神戸の宵月	大正9(1920)年	多色摺木版	305×476	私家版	大正九年一 月 五葉画		
718.5	695	未	フリッツ・カ ペラリー	松島(帆船)	大正4(1915)年	多色摺木版	252×374	渡邊庄三郎			
719	696		文清	山水図	19世紀か	大判錦絵	254×376	不詳	文清、(印) 「文清」		
720	697		葛飾北為	日蓮上人御一代 記 七面大明神 ゆらい	嘉永3(1850)年頃	大判錦絵	244×354	版元印あり	白山人 北 為筆	「渡辺」 「衣笠」	
721	698	未	旦霞	隅田川東岸之図	嘉永3(1850)年頃	团扇絵判 錦絵	219×292	遠州屋又兵衛	旦霞写、 (印)「旦霞」	「米良」 「村田」	
722	699A		不詳	花鳥図	明和後-安永頃 (1770-81)か	幅広柱絵 手彩色	712×298	不詳			
723	700		中村芳中	松梅図	文化後-文政初 (1810-20)年頃	長判摺物	216×456	—	芳中写之		
724	701		長山孔寅	群鶴図	文政8(1825)年	大広奉書 全紙判摺 物	446×572	—			1950.702と続
725	702		長山孔寅	仙人図	文政8(1825)年	大広奉書 全紙判摺 物	444×572	—	孔寅、(印) 「長山」		1950.701と続
725.5	703	未	ヘレン・ハイド	母と子	明治34(1901)年	多色摺木版	330×367		Helen Hyde		
726	704		葛飾北斎	「けいせいあけま き 岩井半四郎」	寛政3(1791)年	細判錦絵	253×140	不詳	春朗画		
727	705		葛飾北斎	「風流四季の月 なつ」	寛政前期(1789- 1794)頃	小判錦絵	217×155	不詳	春朗画		
728	706		葛飾北斎	「風流見立狂言 三本柱」	寛政2(1790)年頃	小判錦絵	213×151	葛屋重三郎	春朗画か		
729	707		葛飾北斎	唐子遊び	寛政2(1790)年頃	大判錦絵 (2枚統の 右)	380×249	西村屋与八	春朗画		
730	708		葛飾北斎	「富嶽三十六景 甲州伊沢暁」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	248×368	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
731	709		葛飾北斎	「富嶽三十六景 甲州犬目峠」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	260×374	西村屋与八	北斎改為一 筆		
732	710		葛飾北斎	「富嶽三十六景 駿州大野新田」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	260×381	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	
733	711		葛飾北斎	「富嶽三十六景 凱風快晴」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	244×371	西村屋与八	北斎改為一 筆		
734	712		葛飾北斎	「富嶽三十六景 山下白雨」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	234×370	西村屋与八	北斎改為一 筆		
735	713		葛飾北斎	「富嶽三十六景 東海道程ヶ谷」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	260×387	西村屋与八	前北斎為一 筆		
736	714		葛飾北斎	「富嶽三十六景 東海道程ヶ谷」 (校合摺)	天保2(1831)年頃	大判錦絵	278×395	西村屋与八	前北斎為一 筆		後版
737	715		葛飾北斎	「富嶽三十六景 甲州三板水面」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	244×365	西村屋与八	前北斎為一 筆		
738	716		葛飾北斎	「富嶽三十六景 御厩川岸より両 国橋夕陽見」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	254×374	西村屋与八	前北斎為一 筆	「極」	輪郭線墨摺
739	717		葛飾北斎	「富嶽三十六景 武州千住」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	255×374	西村屋与八	北斎改為一 筆		
740	718		葛飾北斎	「富嶽三十六景 江都駿河町三井 見世略図」	天保2(1831)年頃	大判錦絵	260×386	西村屋与八	前北斎為一 筆		

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
670	673.52	未	豊原国周	「東海道之内 池鯉鮒 有松之 景」	文久3(1863)年4月か	大判錦絵	330×220	鍵屋庄兵衛	国周画	(「亥四 改」)か	御上洛東海道 画帖のうち
671	673.53	未	二代歌川国 綱	「東海道 鳴海」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	相ト	国綱画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
672	673.54	未	歌川芳虎	「東海道 宮」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	小林鉄次(治)郎	芳虎画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
673	673.55	未	河鍋曉斎	「東海道名所之内 桑名蟹気楼」	文久3(1863)年5月	大判錦絵	330×220	小林鉄次(治)郎	応需周磨	(「亥五 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
674	673.56	未	歌川芳艶	「東海道 四日 市 四日市の駅 風景」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	辻岡屋文助	一英斎芳艶 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
675	673.57	未	河鍋曉斎	「東海道 土山 鈴ヶ山坂の下」	文久3(1863)年5月	大判錦絵	330×220	大黒(国)屋金之 助・金次郎	応需惺々周 磨	(「亥五 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
676	673.58	未	豊原国周	「東海道 水口」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	越嘉	一鶯国周画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
677	673.59	未	二代歌川広 重	「東海道 石薬 師」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	糸屋庄兵衛	広重画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
678	673.60	未	二代歌川国 綱	「東海道 庄野」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	菊屋市兵衛	国綱画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
679	673.61	未	二代歌川国 貞	「東海道 亀山」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	海老屋林之助	国貞画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
680	673.62	未	二代歌川国 貞	「東海道之内 関」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	近江屋久助・久次 郎	国貞画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
681	673.63	未	歌川芳虎	「東海道 坂の 下」	文久3(1863)年5月	大判錦絵	330×220	佐野屋富五郎	芳虎画	(「亥五 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
682	673.64	未	歌川芳艶	「東海道 土山」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	正文堂政吉	一英斎芳艶 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
683	673.65	未	月岡芳年	「東海道 石部」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	角本屋金次郎	一魁斎芳年 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
684	673.66		歌川国芳	「日本名産尽 肥前の国五島平 戸或は紀州又は 諸の浦にて鯨をと る図」	天保(1830-44) 後-末頃	大判錦絵 (3枚統の うち左)	330×220	総州屋与兵衛	一勇斎国芳 画	「極」	作品名は別本右 図にあり。
685	674	未	伊藤若冲 (複製)	花鳥版画(椿に白 頭図)	近代	多色摺木 版	319×263	不詳	(藤印)		
686	675	未	伊藤若冲 (複製)	花鳥版画(青桐 に砂糖鳥図)	近代	多色摺木 版	318×265	不詳	(汝鈞印) (字景印)		
687	676	未	伊藤若冲 (複製)	花鳥版画(鸚鵡 図)	近代	多色摺木 版	279×368	不詳	(汝鈞印) (若冲居士 印)		「伊藤若冲真筆 画六枚之内四」 とマージンに印字
688	677	未	伊藤若冲 (複製)	花鳥版画(薔薇 に鸚哥図)	近代	多色摺木 版	279×374	不詳	(汝印) (鈞印)		
689	678	未	伊藤若冲 (複製)	花鳥版画(樺に 鸚哥図)	近代	多色摺木 版	274×592	不詳	(汝鈞之印) (景和印)		
690	679	未	伊藤若冲 (複製)	花鳥版画(雪竹 に錦鶏図)	近代	多色摺木 版	278×394	不詳	(若冲印) (明和辛卯 印)		
691	680	未	河鍋曉斎	枝にとまる鳥	明治13(1880)年頃	大判錦絵	362×249	不詳	猩々曉斎画 (印)		
692	681	未	河鍋曉斎	「雪中鳥」	明治13(1880)年頃	大判錦絵	384×262	不詳	猩々曉斎 (印)		
693	682	未	河鍋曉斎	梅枝の鳥	明治13(1880)年頃	幅広柱絵 判錦絵	733×252	不詳	如空曉斎図 (印)		
694	683	未	揚州周延	江戸錦 読書	明治35(1902)年	大判錦絵	254×368	不詳	揚州周延		
695	683B	未	山本昇雲	四季のながめ(不 明、目次か)	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
696	683B.1	未	山本昇雲	四季のながめ 門の賑ひ	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
697	683B.2	未	山本昇雲	四季のながめ うみべ	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
698	683B.3	未	山本昇雲	四季のながめ おひな様	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
699	683B.4	未	山本昇雲	四季のながめ ふみよみ	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
700	683B.5	未	山本昇雲	四季のながめ 春かすみ	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
701	683B.6	未	山本昇雲	四季のながめ 虫の声	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
702	683B.7	未	山本昇雲	四季のながめ おあがり	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
703	683B.8	未	山本昇雲	四季のながめ 夕すず	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
704	683B.9	未	山本昇雲	四季のながめ おはなし	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			
705	683B. 10	未	山本昇雲	四季のながめ 月夜さし	明治39(1906)年	多色摺木 版	240×354	松木平吉			

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量 (mm)	版元	署名	改印	備考
632	673.14	未	歌川芳虎	「東海道 川」	神奈 文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	佐野屋富五郎	芳虎画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
633	673.15	未	歌川芳艶	「東海道 谷」	程ヶ 文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	上州屋重蔵・重七	一英斎芳艶 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
634	673.16	未	歌川芳艶	「東海道 其二」	程ヶ谷 文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	上州屋重蔵・重七	一英斎芳艶 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
635	673.17	未	二代歌川国 貞	「東海道 戸塚」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	相ト	国貞画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
636	673.18	未	歌川芳形	「東海道 藤沢」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	越村屋平助	芳形毫	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
637	673.19	未	二代歌川広 重	「東海道 平塚」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	魚屋栄吉	広重画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
638	673.20	未	二代歌川国 綱	「東海道 原」	小田 文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	菊屋市兵衛	国綱画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
639	673.21	未	二代歌川広 重	「東海道 原」	小田 文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	糸屋庄兵衛	広重画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
640	673.22	未	歌川芳盛	「東海道 箱根」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	太田屋多吉	一光斎芳盛 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
641	673.23	未	河鍋晩斎	「東海道名所之 内 箱根山中猪 狩」	文久3(1863)年5月	大判錦絵	330×220	小林鉄次(治)郎	応需狂悷々 周磨	(「亥五 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
642	673.24	未	三代歌川豊 国	「東海道 三島」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	相ト	応需七十八 歳豊国筆	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
643	673.25	未	三代歌川豊 国	「東海道 沼津」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	伊勢屋兼吉	応需七十八 歳豊国筆	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
644	673.26	未	三代歌川豊 国	「東海道 原」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	大黒(国)屋金之 助・金次郎	応需七十八 歳豊国筆	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
645	673.27	未	歌川芳艶	「東海道 吉原 吉原の駅風景」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	辻岡屋文助	一英斎芳艶 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
646	673.28	未	二代歌川広 重	「東海道 蒲原」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	丸屋甚八	広重画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
647	673.29	未	二代歌川広 重	「東海道 由井」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	上州屋重蔵・重七	広重画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
648	673.30	未	河鍋晩斎	「東海道 興津」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	福忠	応需悷々周 磨	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
649	673.31	未	二代歌川国 綱	「東海道 江尻」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	菊屋市兵衛	国綱画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
650	673.32	未	歌川芳盛	「東海道 府中」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	小林鉄次(治)郎	芳盛画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
651	673.33	未	二代歌川広 重	「東海道 鞠子」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	遠州屋彦兵衛	広重画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
652	673.34	未	歌川芳盛	「東海道之内 岡部」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	近江屋久助・久次 郎	芳盛画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
653	673.35	未	歌川芳虎	「東海道 藤枝」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	遠州屋彦兵衛	芳虎画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
654	673.36	未	二代歌川国 綱	「東海道 島田」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	丸屋甚八	国綱画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
655	673.37	未	歌川芳盛	「東海道 金谷」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	福忠	芳盛画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
656	673.38	未	三代歌川豊 国	「東海道 日坂」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	太田屋多吉	応需七十八 歳豊国筆	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
657	673.39	未	三代歌川豊 国	「東海道 掛川」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	伊勢屋兼吉	応需七十八 歳豊国筆	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
658	673.40	未	二代歌川国 綱	「東海道 袋井」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×200	越村屋平助	国綱画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
659	673.41	未	歌川芳盛	「東海道 浜松」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	近江屋久助・久次 郎	芳盛画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
660	673.42	未	月岡芳年	「東海道 舞坂」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	角本屋金次郎	一魁斎芳年 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
661	673.43	未	三代歌川豊 国	「東海道 荒井」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	伊勢屋兼吉	応需七十八 歳豊国筆	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
662	673.44	未	二代歌川国 綱	「東海道 白須 賀」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	越嘉	一蘭斎国綱 画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
663	673.45	未	豊原国周	「東海道之内 双川」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	伊勢庄	一鶯国周画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
664	673.46	未	二代歌川広 重	「東海道 吉田」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	伊勢屋兼吉	広重画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
665	673.47	未	三代歌川豊 国	「東海道 其二」	吉田 文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	大黒(国)屋金之 助・金次郎	応需七十八 歳豊国筆	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
666	673.48	未	二代歌川国 綱	「東海道 御油」	文久3(1863)年5月	大判錦絵	330×220	相ト	一蘭斎国綱 画	(「亥五 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
667	673.49	未	歌川芳虎	「東海道 藤川」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	佐野屋富五郎	芳虎画	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
668	673.50	未	河鍋晩斎	「東海道 岡崎」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	福忠	応需悷々狂 斎	(「亥四 改」)	御上洛東海道 画帖のうち
669	673.51	未	二代歌川広 重	「東海道名所之 内 鳴海有松紋」	文久3(1863)年6月	大判錦絵	330×220	海老屋林之助	広重画	(「亥六 改」)	御上洛東海道 画帖のうち

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
599	653	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 草津冠者義高」	嘉永6(1853)年	大判錦絵	360×246	湊屋小兵衛	一勇斎国芳画(印)	「馬込」 「浜」 「丑正」	
600	654	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 京都鶴 大尾」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	357×244	湊屋小兵衛	一勇斎国芳画(印)	「福」 「村松」 「子十」	
601	655		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 香掛黄石公 張良」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	伊勢屋兼吉	一勇斎国芳画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
602	656		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 長窪お七 吉三」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×246	辻屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「浜」 「馬込」 「子九」	
603	657		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 鴻巣武蔵守師直」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×243	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「馬込」 「浜」 「子五」	
604	658	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 赤坂光明皇后」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	362×244	伊勢屋兼吉	一勇斎国芳画(印)	「米良」 「渡辺」 「子七」	
605	659	未	歌川国芳	「唐土二十四孝 曾参」	嘉永1-3(1848-50)年頃	中判錦絵	246×169	不詳			
606	660	未	歌川国芳	「唐土二十四孝 仲由」	嘉永1-3(1848-50)年頃	中判錦絵	251×267	不詳			
607	661		歌川国芳	「忠孝名誉奇人伝 其角」	弘化2(1845)年頃	大判錦絵	349×227	遠州屋又兵衛	一勇斎国芳画(印)	「村松」	
608	662	未	歌川国芳	「新吉原京町一丁目大文字屋内本津枝」	天保期(1830-44)	大判錦絵	366×244	川口屋長蔵	一勇斎国芳画	「極」	
609	663	未	歌川国芳	「心学稚画得 鬼の念仏」	天保末(1841-43)頃	中短冊判錦絵	376×130	若狭屋与一か	一勇斎国芳画		
610	664	未	歌川国芳	鍾馗	天保14-弘化4(1843-47)年	大判錦絵	364×249	藤岡屋彦太郎	一勇斎国芳画(印)	「村松」	
611	665		歌川国芳	大物浦平家の亡霊	嘉永2-4(1849-51)年頃	大判錦絵3枚統	368×740	遠州屋彦兵衛	一勇斎国芳画(印)	「福」 「村松」	
612	666		歌川国芳	豊前国与次兵衛灘	嘉永3(1850)年	大判錦絵3枚統	375×251	三河屋鉄五郎	一勇斎国芳画(印)	「村松」 「福」	
613	667		歌川国芳	「勇国芳桐対模様」	嘉永1(1848)年頃	大判錦絵3枚統	375×259	人形屋多吉	一勇斎国芳画(印)	「衣笠」 「浜」	
614	668		歌川国芳	虎	天保13(1842)年頃	掛物絵	725×256	丸屋清次郎	一勇斎国芳画		
615	669	未	歌川国貞	「明石ノ浦の図」	天保4(1833)年頃	大判錦絵	253×362	山口屋藤兵衛	香蝶楼国貞画(印)	「極」	
616	670		二代歌川国貞	「紫しきぶ源氏かるた 四十一まほろし」	安政4(1857)年	大判錦絵	356×249	葛屋吉蔵	梅蝶楼国貞画	「改」 「巳十一」	
617	671	未	歌川国直	「新板浮絵忠臣蔵五段目之図」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	251×375	丸屋文右衛門	独酔舎歌川国直筆		
618	672		歌川国長	「新板阿蘭陀浮画 廻日多国尖形高台」	文化期(1804-18)	大判錦絵	258×379	和泉屋市兵衛	国長画		
619	673.1		三代歌川豊国	「東海道 日本橋」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	越嘉	応需七十八歳豊国筆	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち
620	673.2		歌川芳艶	「東海道之内 江戸芝新橋」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	上州屋重蔵・重七画	一英斎芳艶画	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち
621	673.3		二代歌川広重	「東海道名所之内 芝増上寺」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	(小林鉄次(治)郎)	広重筆	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち マージン欠。
622	673.4	未	歌川芳宗	「東海道 本芝札の辻」	文久3(1863)年4月か	大判錦絵	330×220	上州屋重蔵・重七画	一松斎芳宗画	「亥四改」か	御上洛東海道画帖のうち
623	673.5	未	二代歌川広重	「東海道名所之内 高輪大木戸」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	遠州屋彦兵衛	広重画	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち
624	673.6	未	河鍋曉斎	「東海道 高縄牛ご屋」	文久3(1863)年5月	大判錦絵	330×220	大黒(国)屋金之助・金次郎	応需惺々周磨	「亥五改」	御上洛東海道画帖のうち
625	673.7	未	三代歌川豊国	「東海道 品川」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	遠州屋彦兵衛	応需七十八歳豊国筆	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち
626	673.8	未	三代歌川豊国	「東海道名所之内 品川八つ山下」	文久3(1863)年5月	大判錦絵	330×220	鍵屋庄兵衛	応需七十八才豊国筆	「亥五改」	御上洛東海道画帖のうち
627	673.9	未	二代歌川広重	「東海道名所 大森」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	大黒(国)屋金之助・金次郎	広重画	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち
628	673.10	未	二代歌川広重	「東海道 鈴ヶ森」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	大黒(国)屋金之助・金次郎	広重画	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち
629	673.11	未	二代歌川広重	「東海道 川崎」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	小林鉄次(治)郎	広重画	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち
630	673.12	未	二代歌川広重	「東海道 大師河原」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	大黒(国)屋金之助・金次郎	広重画	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち
631	673.13	未	三代歌川豊国	「東海道 神名川」	文久3(1863)年4月	大判錦絵	330×220	伊勢屋兼吉	応需七十八歳豊国筆	「亥四改」	御上洛東海道画帖のうち

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量 (mm)	版元	署名	改印	備考
575	629	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 馬籠竹林定七」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×246	住吉屋政五郎	一勇斎国芳画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
576	630	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 中津川 堀部の妻同娘」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×246	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「渡辺」 「米良」 「子八」	
577	631	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 大井斧定九郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
578	632	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 武佐宮本無三四」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	住吉屋政五郎	一勇斎国芳画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
579	633	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 大久手一つ家 老婆」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
580	634		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 細久手 堀越大領」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
581	635	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 御嶽悪七兵衛景清」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	住吉屋政五郎	一勇斎国芳画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
582	636	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 伏見常磐御前」	嘉永6(1853)年	大判錦絵	360×245	林屋庄五郎	一勇斎国芳画(印)	「福」 「村松」 「丑二」	
583	637	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 太田敷医了竹 天川屋義平」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	小林泰治郎	一勇斎国芳画(印)	「衣笠」 「村田」 「子八」	
584	638	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 鶴沼与右工門 女房累」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	上総屋岩藏	一勇斎国芳画	「米良」 「渡辺」 「子七」	
585	639	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 加納坊太郎 乳母」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「米良」 「渡辺」 「子七」	
586	640	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 河渡旅座頭」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×246	上総屋岩藏	一勇斎国芳画(印)	「米良」 「渡辺」 「子七」	
587	641	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 美江寺 紅葉狩」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×246	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
588	642	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 垂井猿之助」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×246	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
589	643	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 関ヶ原 放駒蝶吉 濡髪蝶五郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	井筒屋庄吉	一勇斎国芳画(印)	「浜」 「馬込」 「子九」	
590	644	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 今須曾我兄弟」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	辻岡屋文助	一勇斎国芳画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
591	645	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 柏原笠屋三勝」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×246	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳画(印)	「村田」 「衣笠」 「子八」	
592	646	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 醒ヶ井 金井谷五郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	辻岡屋文助	一勇斎国芳画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
593	647	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 番場歌之助 吃又平」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	362×244	伊勢屋兼吉	一勇斎国芳画(印)	「浜」 「馬込」 「子九」	
594	648	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 鳥居本 平忠盛 油坊主」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	高田屋竹藏	一勇斎国芳画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
595	649	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 高宮神谷伊右工門」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	356×244	小林泰治郎	一勇斎国芳画(印)	「村田」 「衣笠」 「子八」	
596	650	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 越川鷺地平九郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	上総屋岩藏	一勇斎国芳画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
597	651	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 守山達磨大師」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	高田屋竹藏	一勇斎国芳画(印)	「米良」 「渡辺」 「子七」	
598	652		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 和田和田兵衛」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	住吉屋政五郎	一勇斎国芳画(印)	「浜」 「馬込」 「子九」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
552	606		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 追分 おいほ 宅悦」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	高田屋竹藏	一勇斎国芳 画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
553	607		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 小田 井 寺西閑心」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	伊勢屋兼吉	一勇斎国芳 画(印)	「米良」 「渡辺」 「子七」	
554	608		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 岩村 田 大井子田畑 を潤す」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
555	609		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 塩名 田 鳥井又介」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
556	610		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 八幡 近江小藤太 八幡 三郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	林屋庄五郎	一勇斎国芳 画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
557	611		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 望月 怪童丸」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	林屋庄五郎	一勇斎国芳 画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
558	612		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 芦田 あらゐ丸 女月 尼」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	住吉屋政五郎	一勇斎国芳 画(印)	「衣笠」 「村田」 「子八」	
559	613		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 榎井 沢 鎌田又八」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	高田屋竹藏	一勇斎国芳 画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
560	614		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 福島 浦島太郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	井筒屋庄吉	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
561	615		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 下諏 訪 八重垣姫」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「米良」 「渡辺」 「子八」	
562	616		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 下駄 尻 高木虎之介」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	井筒屋庄吉	一勇斎国芳 画(印)	「衣笠」 「村田」 「子八」	
563	617		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 洗馬 武蔵坊弁慶 土 佐坊昌俊」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「村田」 「衣笠」 「子八」	
564	618		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 本山 山姥」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
565	619	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 熱川 武内宿称 弟甘 美内宿称」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「福」 「村松」 「子五」	
566	620	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 奈良 井 おろく 善 吉」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「馬込」 「浜」 「子五」	
567	621	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 敷原 陶春賢」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	住吉屋政五郎	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
568	622	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 宮の 越 大塔宮」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×243	住吉屋政五郎	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
569	623	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 上松 江田源三」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
570	624	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 須原 業平 二條后」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	上総屋岩藏	一勇斎国芳 画(印)	「渡辺」 「米良」 「子七」	
571	625	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 野尻 平井安昌 袴垂 保輔」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	井筒屋庄吉	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
572	626	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 三戸 野 美止野 小 太郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
573	627	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 妻籠 安倍保名 葉 狐」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×246	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
574	628	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 落合 久米仙人 晒 女」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	林屋庄五郎	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子六」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
526	580	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 関羽 未」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	365×121	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
527	581	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 曾我五良 午」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	365×124	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
528	582	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 雄略天皇 亥」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	364×122	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
529	583	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 仁田四良 巳」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	365×119	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
530	584	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 孫悟空 申」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	365×126	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
531	585	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 頼豪 子」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	365×117	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
532	586	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 膳臣巴提便寅」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	365×121	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
533	587	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 素盞雄尊辰」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	365×126	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
534	588	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 怪童丸 酉」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	367×121	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
535	589	未	歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 日本橋 足利頼兼鳴神勝之助 浮世渡平」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×243	辻岡屋文助	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
536	590		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 板橋犬塚信乃 疊六佐母二郎 土太郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	住吉屋政五郎	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
537	591		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 蔵犬山道節」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	357×244	井筒屋庄吉	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
538	592		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 浦和魚屋団七」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	357×243	住吉屋政五郎	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
539	593		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 大宮安倍宗任」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	357×244	高田屋竹藏	一勇斎国芳 画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
540	594		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 上尾三浦の高雄」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	357×243	林屋庄五郎	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
541	595		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 桶川玉屋新兵エ 小女郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	360×244	住吉屋政五郎	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
542	596		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 熊ヶ谷小次郎直家」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	257×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「馬込」 「浜」 「子五」	
543	597		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 深谷百合若大臣」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
544	598		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 本庄白井權八」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	357×244	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「馬込」 「浜」 「子五」	
545	599		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 新町獄門庄兵衛 黒船忠右エ門」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×243	伊勢屋兼吉	一勇斎国芳 画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
546	600		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 倉加野 自雷也」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×243	住吉屋政五郎	一勇斎国芳 画(印)	「浜」 「馬込」 「子五」	
547	601		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 高崎此村大炊之介」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「福」 「村松」 「子五」	
548	602		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 板鼻御曹子牛若丸」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	357×244	林屋庄五郎	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子五」	
549	603		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 安中清玄」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×243	加賀屋安兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「村松」 「福」 「子六」	
550	604		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 松井田 山姥 松井民次郎」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×243	辻岡屋文助	一勇斎国芳 画(印)	「福」 「村松」 「子六」	
551	605		歌川国芳	「木曾街道六十九次之内 坂本五条坂」	嘉永5(1852)年	大判錦絵	359×244	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)	「馬込」 「浜」 「子九」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
497	552		歌川国芳	「東海道五拾三 駅四宿名所 宮・桑名・四日 市・石やくし」	天保(1830~44)前期	大判錦絵	249×368	鶴屋喜右衛門・蔦 屋吉蔵	一勇斎国芳 縮図		
498	553		歌川国芳	「東海道五拾三 駅五宿名所 由 井・興津・江尻・ 府中・鞠子」	天保(1830~44)前期	大判錦絵	250×379	鶴屋喜右衛門・蔦 屋吉蔵	一勇斎国芳 縮図	「極」	
499	554		歌川国芳	「東海道五拾三 駅五宿名所 庄 野・亀山・関・ 坂の下・土山」	天保(1830~44)前期	大判錦絵	223×344	鶴屋喜右衛門・蔦 屋吉蔵	(一勇斎国芳 縮図)	(「極」)	
500	555		歌川国芳	「東海道五拾三 駅五宿名所 水 口・石部・草津・ 大津・京都」	天保(1830~44)前期	大判錦絵	247×370	鶴屋喜右衛門・蔦 屋吉蔵	一勇斎国芳 縮図	「極」	
501	556		歌川国芳	「東海道五拾三 駅四宿名所 岡 部・藤枝・島田・ 金谷」	天保(1830~44)前期	大判錦絵	251×368	鶴屋喜右衛門・蔦 屋吉蔵	一勇斎国芳 縮図		
502	557		歌川国芳	「東海道五拾三 駅三宿名所 原・ 吉原・蒲原」	天保(1830~44)前期	大判錦絵	247×370	鶴屋喜右衛門・蔦 屋吉蔵	一勇斎国芳 縮図		
503	558		歌川国芳	「東海道五拾三 駅五宿名所 大 磯・小田原・箱 根・三島・沼津」	天保(1830~44)前期	大判錦絵	253×374	鶴屋喜右衛門・蔦 屋吉蔵	一勇斎国芳 縮図	「極」	
504	559		歌川国芳	「東海道五拾三 駅五宿名所 日 坂・掛川・袋井・ 見付・浜松」	天保(1830~44)前期	大判錦絵	261×380	鶴屋喜右衛門・蔦 屋吉蔵	一勇斎国芳 縮図		
505	560		歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 王褒」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	254×365	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
506	561	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 楊香」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	254×368	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
507	562	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 曾参」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	251×365	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
508	563	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 郭巨」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	253×368	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
509	564	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 王祥」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	249×365	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
510	565	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 陸績」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	249×368	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
511	566	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 吳猛」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	211×346	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
512	566A	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 吳猛」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	247×362	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
513	567	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 孟宗」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	244×368	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
514	568	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 姜詩」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	254×370	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
515	569	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 大舜」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	251×373	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
516	570	未	歌川国芳	「二十四孝童子 鑑 閔子騫」	天保14~弘化1 (1843~44)年	大判錦絵	255×368	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
517	571	未	歌川国芳	「東都富士見三 十六景 新大は し橋下の眺望」	天保14(1843)年頃	大判錦絵	244×359	村田	一勇斎国芳 画(印)	(「村」)	
518	572	未	歌川国芳	「日光裏見瀧」	天保期(1830~44)頃	大判錦絵	241×360	不詳	一勇斎国芳 画(印)		
519	573		歌川国芳	「大山石尊大瀧 之図」	天保13(1842)年頃	大判錦絵	253×365	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
520	574		歌川国芳	「相州大山人道田 村渡の景」	天保13(1842)年頃	大判錦絵	261×371	若狭屋与市	一勇斎国芳 画		
521	575	未	歌川国芳	「浅草金龍山弁 天山雪中之図」	嘉永6(1853)年	大判錦絵	246×365	丸屋清次郎	国芳画	「丑二」 「村松」 「福」	
522	576	未	歌川国芳	「芝居町繁栄之 図」	嘉永6(1853)年	大判錦絵	251×365	丸屋清次郎	国芳画	「丑二」 「村松」 「福」	
523	577	未	歌川国芳	「かなで本忠臣蔵 八段目」	安政1(1854)年	大判錦絵	248×367	佐野屋喜兵衛	一勇斎国芳 画	「改」 「寅十 一」	
524	578	未	歌川国芳	「武勇見立十二 支 畑六良左エ 門 戌」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	365×122	湊屋小兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
525	579	未	歌川国芳	「武勇見立十二支 鬼童丸 丑」	天保12(1841)年頃	中短冊判 錦絵	364×126	湊屋小兵衛	朝桜楼国芳 画(印)		

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
469	524	未	歌川国芳	「百人一首之内 柿本人丸」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	374×255	エヒ子	一勇斎国芳 画(印)		
470	525	未	歌川国芳	「百人一首之内 参議簗」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	340×227	エヒ子	一勇斎国芳 画(印)		
471	526	未	歌川国芳	「百人一首之内 大江千里」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	354×234	エヒ子	一勇斎国芳 画(印)		
472	527	未	歌川国芳	「百人一首之内 天智天皇」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	365×244	エヒ子	一勇斎国芳 画(印)		
473	528	未	歌川国芳	「百人一首之内 源兼昌」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	373×253	エヒ子	朝桜楼国芳 画(印)		
474	529		歌川国芳	「東都名所 両 国柳ばし」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	251×357	加賀屋吉右衛門 (吉兵衛)	一勇斎国芳 「極」 画		
475	530		歌川国芳	「東都名所 洲 崎初日出の図」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	233×330	加賀屋吉右衛門 (吉兵衛)	一勇斎国芳 「極」 画		
476	531		歌川国芳	「東都名所 佃 嶋」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	247×374	加賀屋吉右衛門 (吉兵衛)	一勇斎国芳 「極」 画		
477	532		歌川国芳	「東都名所 する がだひ」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	258×379	加賀屋吉右衛門 (吉兵衛)	一勇斎国芳 「極」 画		
478	533		歌川国芳	「東都名所 大 森」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	240×339	加賀屋吉右衛門 (吉兵衛)	一勇斎国芳 「極」 画		
479	534		歌川国芳	「東都名所 かす みが関」	天保3-4(1832-33) 年頃	大判錦絵	241×361	加賀屋吉右衛門 (吉兵衛)	一勇斎国芳 「極」 画		
480	535		歌川国芳	「高祖御一代略 図 甲斐国石和 川鶴飼亡魂化 導」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	263×383	伊勢屋利兵衛	一勇斎国芳 「極」 筆(印)		
481	536		歌川国芳	「高祖御一代略 図 九月十三夜 依智星降」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	257×382	伊勢屋利兵衛	朝桜楼国芳 「極」 筆(印)		
482	537		歌川国芳	「高祖御一代略 図 文永元十一 月十一日東條小 松原」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	259×378	伊勢屋利兵衛	朝桜楼国芳 「極」 画		
483	538		歌川国芳	「高祖御一代略 図 相州竜之口 御難」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	260×381	伊勢屋利兵衛	一勇斎国芳 「極」 筆(印)		
484	539		歌川国芳	「高祖御一代略 図 佐州流刑角 田波題目」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	259×382	伊勢屋利兵衛	一勇斎国芳 「極」 画(印)		
485	540		歌川国芳	「高祖御一代略 図 文永八鎌倉 霊山ヶ崎雨祈」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	259×382	伊勢屋利兵衛	一勇斎国芳 画		
486	541		歌川国芳	「高祖御一代略 図 文永十一五 月廿八日小室山 法論石」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	253×367	伊勢屋利兵衛	一勇斎国芳 「極」 画		
487	542		歌川国芳	「高祖御一代略 図 建治三年九 月身延山七面神 示現」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	230×359	伊勢屋利兵衛	朝桜楼国芳 (「極」) 画(印)		
488	543		歌川国芳	「高祖御一代略 図 弘安四年上 人利益濠鏡軍敗 北」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	261×382	伊勢屋利兵衛	一勇斎国芳 「極」 画		
489	544	未	歌川国芳	「高祖御一代略 図 佐州塚原雪 中」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	262×381	伊勢屋利兵衛	一勇斎国芳 (「極」) 筆(印)		
490	545		歌川国芳	「忠臣蔵十一段 目夜討之図」	天保2-3(1831-32) 年頃	大判錦絵	254×382	山口屋藤兵衛	一勇斎国芳 画		
491	546		歌川国芳	「東都首尾の松 之図」	天保2-3(1831-32) 年頃	大判錦絵	256×380	山口屋藤兵衛	一勇斎国芳 「極」 画(印)		
492	547		歌川国芳	「東都御厩川岸 之図」	天保2-3(1831-32) 年頃	大判錦絵	261×376	山口屋藤兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
493	548		歌川国芳	「白井峠より浅間 を見る図」	天保2-3(1831-32) 年頃	大判錦絵	261×376	山口屋藤兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
494	549		歌川国芳	「東都橋場之図」	天保2-3(1831-32) 年頃	大判錦絵	265×374	山口屋藤兵衛	一勇斎国芳 画(印)		
495	550		歌川国芳	「東海道五拾三 駅四宿名所 程 が谷・戸塚・藤 沢・平つか」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	262×379	鶴屋喜右衛門・葛 屋吉蔵	一勇斎国芳 「極」 縮図		
496	551		歌川国芳	「東海道五拾三 駅五宿名所 赤 坂・藤川・岡崎・ 池鯉鮒・鳴海」	天保(1830-44)前期	大判錦絵	246×368	鶴屋喜右衛門・葛 屋吉蔵	一勇斎国芳 縮図		

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
432	487		岳亭春信	「葛飾連額面婦人合 兵庫」	文政(1818-30)前期	色紙判摺物	209×183	—	岳亭		「大門に立て…」
433	488		岳亭春信	林和靖	文政(1818-30)中期	摺物	211×189	—	岳亭(印) (印)		「若水を…」
434	489		柳々居辰斎	「近江八景 矢橋帰帆」	文化期(1804-18)	大判錦絵	243×364	不詳	柳々居辰斎 写		
435	490		柳々居辰斎	「近江八景 矢橋帰帆」	文化期(1804-18)	大判錦絵	262×386	不詳	柳々居辰斎 写		
436	491		柳々居辰斎	正月の景	文化5(1808)年	九つ切判 摺物	135×187	—	辰斎画		「あらたに建し…」
437	492		柳々居辰斎	「歌仙合 白貝」	文化6(1809)年	九つ切判 摺物	134×186	—	辰斎画		「江の嶋を…」
438	493		龍斎重春	玉卮彈琴図	天保(1830-44)中期	大判摺物	356×251	—			
439	494		柳々居辰斎	髪結い	文化(1804-18)中期	色紙判摺物	215×188	—	辰斎		「春雨のをと…」
440	495		昇亭北寿	「東都浅草川山谷堀入口向牛島之景」	文化期(1804-18)頃	大判錦絵	263×372	不詳	昇亭北寿画		
441	496		春好斎北洲	「金輪五郎今国中村歌右衛門おみわ 嵐小六」	文政4(1821)年	大判錦絵	388×254	不詳	春好斎北洲 画		
442	497		歌川広景	「江戸名所戯画十六 王子狐火」	安政6(1859)年	大判錦絵	336×218	辻岡屋文助	広景画	(「未六改」)	マージン欠
443	498	未	溪斎英泉	「撫し子に蝶」	文政期(1818-30)頃	小判錦絵	223×168	不詳	溪斎		
444	499	未	溪斎英泉	梅に鶴	天保期(1830-44)	大判錦絵	376×257	総州屋与兵衛	英泉画		
445	500	未	溪斎英泉	藤に燕	文政期(1818-30)頃	小判錦絵	222×167	不詳	溪斎画		「極」
446	501	未	溪斎英泉	「熱海温泉之図」	天保(1830-44)前期	色紙判摺物	211×184	—	溪斎画		「子持すちひける…」
447	502	未	溪斎英泉	「浮絵安芸嚴島弁天之社之図」	天保期(1830-44)	大判錦絵	256×370	総州屋与兵衛	英泉写		「極」
448	503	未	溪斎英泉	「日光山名所之内華嚴之滝 三滝之其一景」	天保14-弘化3 (1843-46)年	大判錦絵	365×249	山本屋平吉	溪斎英泉写 (印)		
449	504		溪斎英泉	「矢口之渡合戦」	天保期(1830-44)	大判錦絵3枚続のうち の2枚	368×502	太田屋佐吉	英泉画		「極」
450	505		溪斎英泉	鯉の滝登り	天保期(1830-44)	堅大判錦絵2枚続	727×248	和泉屋市兵衛	溪斎筆(印)		
451	506	未	歌川国貞	「忠雄義田録第五」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	250×365	山本屋平吉	国貞含豊国筆		
452	507		二代歌川豊国	「名所八景 大山夜雨 従前不動頂上之図」	天保(1830-44)初期	大判錦絵	249×363	伊勢屋利兵衛	豊国筆(印)		
453	508		歌川豊国 歌川国長	娘道成寺	文化(1804-18)後期	長判摺物	192×527	—	豊国画・門人国長写之		
454	509	未	歌川国芳	「百人一首之内山辺赤人」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	365×240	エヒ子	一勇斎国芳画(印)		
455	510	未	歌川国芳	「百人一首之内小式部内侍」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	374×255	エヒ子	一勇斎国芳画		
456	511	未	歌川国芳	「百人一首之内菅家」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	371×254	エヒ子	一勇斎国芳画		
457	512	未	歌川国芳	「百人一首之内権中納言定家」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	374×254	エヒ子	一勇斎国芳画		
458	513	未	歌川国芳	「百人一首之内清原元輔」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	376×254	エヒ子	一勇斎国芳画		
459	514	未	歌川国芳	「百人一首之内文屋康秀」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	370×247	エヒ子	一勇斎国芳画		
460	515	未	歌川国芳	「百人一首之内陽成院」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	378×255	エヒ子	一勇斎国芳画(印)		
461	516	未	歌川国芳	「百人一首之内藤原興風」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	381×263	エヒ子	一勇斎国芳画(印)		
462	517	未	歌川国芳	「百人一首之内安倍仲麻呂」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	370×254	エヒ子	一勇斎国芳画(印)		
463	518	未	歌川国芳	「百人一首之内権中納言定頼」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	361×246	エヒ子	一勇斎国芳画(印)		
464	519	未	歌川国芳	「百人一首之内在原業平朝臣」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	372×253	エヒ子	朝桜楼国芳画(印)		
465	520	未	歌川国芳	「百人一首之内中納言行平」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	367×238	エヒ子	一勇斎国芳画(印)		
466	521	未	歌川国芳	「百人一首之内皇太后宮大夫俊成」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	359×245	エヒ子	朝桜楼国芳画		
467	522	未	歌川国芳	「百人一首之内寂蓮法師」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	355×233	エヒ子	一勇斎国芳画(印)		
468	523	未	歌川国芳	「百人一首之内大中臣能宣朝臣」	天保(1830-44)後期	大判錦絵	375×263	エヒ子	一勇斎国芳画		

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
398	453		鳥文斎栄之	「風流やつし源氏朝顔」	寛政3-4(1791-92)年頃	大判錦絵3枚続	右386×252 中387×267 左391×264	和泉屋市兵衛	栄之画		紅嫌い作品
399	454		鳥文斎栄之	花下御所車	寛政(1789-1801)前期	大判錦絵3枚続	383×740	和泉屋市兵衛	栄之図	「極」	
400	455		鳥文斎栄之	難波屋おきた	寛政4-5(1792-93)年頃	柱絵判錦絵	645×119	西村屋与八	栄之画		暖簾に「なにはや」
401	456		鳥高斎栄昌	茶屋二階の二美人	寛政(1789-1801)中期	中判錦絵	249×182	不詳	栄昌画		
402	457		鳥高斎栄昌	「風俗十二月」	寛政(1789-1801)中期	小判錦絵	233×176	榎本屋吉兵衛	栄昌画		
403	458		鳥高斎栄昌	「郭中美人競松葉屋内染之助」	寛政(1789-1801)中期	大判錦絵	383×254	山口屋忠助	栄昌画		
404	459		勝川春亭	「大判司清澄市川団蔵 後家さだか 小佐川常世」	寛政10(1798)年	大判錦絵	375×248	鶴屋喜右衛門	春亭画		9月森田座「妹青山婦女庭訓」
405	460		菊川英山	「風流酒戯三美人」	文化11(1814)年	大判錦絵3枚続のうち左図	391×267	山本	菊川英山筆	「極」 「戌八」	
406	461		北尾政美	「近江八景 比良暮雪」	安永(1772-81)後期頃	中判錦絵	257×191	不詳	北尾政美		
407	462		北尾重政	紅葉狩行幸	文化(1804-18)前期頃	長大判摺物	121×572	—	北尾紅翠斎画		
408	463		北尾政美	「黄鸝」	寛政1(1789)年	もと彩色摺絵入本1帖のうち	251×373	(松本善兵衛)	恵斎写(印)		もと「来禽図彙」の二図。後摺で落款は後入れ。
409	464		歌川豊広	花鳥図	文化期(1804-18)頃	短冊判墨摺絵	335×71	不詳	豊広画		
410	465		歌川豊広	落雁図	文政期(1818-30)頃	小判藍摺絵	229×173	不詳	豊広画		天保期頃の藍摺再版か
411	466		歌川豊広	「げいこの夜雨」	寛政(1789-1801)末期頃	九つ切判錦絵	191×129	不詳	豊広画		
412	467		歌川豊広	「御座敷人形忠臣蔵 十一段目」	寛政(1789-1801)末期頃	小判錦絵	218×161	山田	豊広画		
413	468		一楽亭栄水	「美人五節句松葉屋うち染之助」	寛政2-享和1(1790-1801)年	大判錦絵	391×256	丸屋文右衛門	一楽亭栄水画	「極」	
414	469		鳥居清峰(清満)	酒宴三美人	文化(1804-18)末期頃	大判錦絵3枚続	343×722	西村屋与八	清満画	「極」	
415	470	未	鳥居清峰	初代市川団十郎と山中平九郎の象引き	文化9(1812)年	大々判丹絵	498×231	村田屋治郎兵衛	元祖鳥居清信図 求伝五代目 清峯画(印)	「極」 「伊金」 「森治」	「此図は江見屋…」
416	471		文浪	大黒と福助	文化期(1804-18)頃	大判錦絵	368×245	江崎屋吉兵衛	文浪画		「百万の…」
417	472		窓川春政	「梅川忠兵衛」	寛政(1789-1801)末期頃	柱絵判錦絵	632×116	遠州屋彦兵衛か	晩器筆		
418	473		歌川国政	「岩井久米三郎」	寛政8(1796)年	大判錦絵	351×245	上村与兵衛	国政画	「極」	4月桐座 中村仲蔵七回忌追善「辰駕龍法志賀山」
419	474		歌川国貞	首尾の松の屋根船の芸者	文政期(1818-30)	色紙判摺物	187×191	—	(国貞印)		上部に賛が入る予定だったものか。
420	475		相覧	宝船	文化14(1817)年	色紙判摺物	214×189	—	(相覧印)		「ととのえし…」
421	476		魚屋北溪	「唐詩画譜之内渡黄河」	天保(1830-44)前期	中判摺物	255×179	—	北溪		「孟津城北河開…」
422	477	未	魚屋北溪	常盤の滝のうち四方川、たけもちたけ	天保(1830-44)前期	大判摺物	252×348	—	北溪		
423	478		魚屋北溪	月宮殿	天保2(1831)年	長短冊判摺物	427×183	—	北溪		「夫婦共むつまじ…」
424	479		魚屋北溪	浮舟	文政9(1826)年	色紙判摺物	210×184	—	北溪		「赤羽連」「いぬ年の春…」
425	480		魚屋北溪	「江島紀行 龍洞 十六番続」	天保(1830-44)前期	色紙判摺物	211×180	—	北溪		「社」「うぐいすの…」
426	481		魚屋北溪	「江島紀行 六郷」	天保(1830-44)前期	色紙判摺物	210×170	—	北溪		「社」「川端にたちて…」
427	482		魚屋北溪	「(牛)ヶ測」	文政12(1829)年	色紙判摺物	196×172	—	北溪		「初日の出…」
428	483		岳亭春信	「大阪安治川新山石橋」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	254×378	〇に「高」印	五岳(印)		
429	484		岳亭春信	「大阪安治川新山雨やどり」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	256×380	〇に「高」印	五岳(印)		
430	485		岳亭春信	「大阪天保山夕立の景」	天保5(1834)年頃	大判錦絵	260×382	〇に「高」印	五岳(印)		
431	486		岳亭春信	「一陽連江戸名所見立十二支巳 池の端」	文政(1818-30)前期	色紙判摺物	212×187	—	岳亭		「一陽連」「かつしか」「はつ音をも…」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
362	421A		喜多川歌麿	正月朔日 屠蘇	享和期(1801-04)頃	大判錦絵 (5枚統)	390×255	和泉屋市兵衛	歌麿筆		「正月朔日は…」
363	421B		喜多川歌麿	三月三日 桃の 節句	享和期(1801-04)頃	大判錦絵 (5枚統)	390×255	和泉屋市兵衛	歌麿筆		「三月節供昔は…」
364	421C		喜多川歌麿	五月五日 端午 の節句	享和期(1801-04)頃	大判錦絵 (5枚統)	390×255	和泉屋市兵衛	歌麿筆		「五月五日端午…」
365	421D		喜多川歌麿	七月七日 七夕	享和期(1801-04)頃	大判錦絵 (5枚統)	390×255	和泉屋市兵衛	歌麿筆		「七月七日を…」
366	421E		喜多川歌麿	五節句 重陽	享和期(1801-04)頃	大判錦絵 (5枚統)	390×255	和泉屋市兵衛	歌麿筆		「九月九日を重陽と…」
367	422A-G		喜多川歌麿	見立唐人行列	寛政9-10(1797-98) 年頃	大判錦絵7 枚統	370×1752	山口屋忠助	歌麿筆	「極」	
368	423		喜多川歌麿	蹴鞠	享和期(1801-04)頃	柱絵判錦 絵	595×121	松安	歌麿筆		
369	424		岳亭春信か	「五岳ノ内 南岳 衡山」	文化3(1806)年か	四ツ切判 摺物	136×194	—			「寅はつ春」
370	425		喜多川歌麿	東下りの衡立	寛政11-享和1 (1799-1801)年頃	長判摺物	192×247	—	歌麻呂画		
371	426		喜多川歌麿	羽根突き	寛政11(1799)年	長大判摺 物	172×661	—	歌麿画		「さいの神まつる…」
372	427		二代喜多川 歌麿	立花	文化(1804-18)前期	長大判摺 物	195×533	—	歌麿筆		「大海屋一貞」朱 文印あり。
373	428		栄松斎長喜	(「景色七小町」) 清水寺	文化(1804-18)前期 頃	もと中判錦 絵	165(径)	不詳	長喜画		7枚揃の内。円形 に切られている。 周囲に空摺残る。
374	429	未	栄松斎長喜	「浅草千本桜 一」	寛政(1789-1801)中 期	間判錦絵	315×209	鶴屋喜右衛門	長喜画	「極」	
375	430	未	栄松斎長喜	「中万字屋内 名にし尾」	寛政(1789-1801)中 期	大判錦絵	378×248	葛屋重三郎	長喜画		背景雲母摺
376	431		栄松斎長喜	四季の美人 月 見	寛政(1789-1801)中 期	大判錦絵	376×248	葛屋重三郎	長喜画	「極」	
377	432		栄松斎長喜	「青楼俄全盛遊 寿都乃錦 か つこり てつ ほうろくり 左 之介」	寛政(1789-1801)中 期	大判錦絵	381×250	鶴屋喜右衛門	長喜画		二代目富本豊前 太夫の似顔あり。
378	433		栄松斎長喜	高島おひさ	寛政(1789-1801)中 期	柱絵判錦 絵	614×110	村田屋治郎兵衛	長喜画	「極」	
379	434		玉川舟調	「絵合八景 新 口村の暮雪 梅 川忠兵衛」	享和期(1801-04)頃	大判錦絵	362×240	江崎屋吉兵衛	舟調画		
380	435		窪俊満か	「江都十所絶景」	寛政(1789-1801)中 期	中判錦絵	248×183	榎本屋吉兵衛			「百拾番」 勝川春潮説あり。
381	436		東洲斎写楽	二代目小佐川常 世の一平姉おさ ん	寛政6(1794)年	大判錦絵	365×251	(葛屋重三郎)	東洲斎写楽 画	「極」	背景雲母摺。 5月河原崎座「恋 女房染分手綱」
382	437		東洲斎写楽 (複製)	八代目森田勘弥 の駕かき次郎作	近代	大判錦絵	365×251	(葛屋重三郎)	東洲斎写楽 画	「極」	
383	438		勝川春英	二代目市川門之 助の助六	寛政3(1791)年	細判錦絵	338×146	不詳	東洲斎写楽 画	「極」	落款は後入れ。 4月市村座「助六 花街二葉鍾」
384	439		北尾政演	唐来参和と芸者	寛政(1789-1801)前 期	細判錦絵	311×143	不詳	政演画		「題一富士二鷹 …」
385	440		北尾政演	「角田川八景 し ほ入りの夕照」	安永(1772-81)後期	中判錦絵	257×187	不詳	北尾政演画		
386	441		北尾政演	二人の芸者	安永(1772-81)中期	大判錦絵	379×252	不詳	北尾政演画		落款は後入れか
387	442		歌川豊春	浮絵(一の谷合 戦)	安永期(1772-81)	大判錦絵	233×333	不詳			マージン欠
388	443		歌川豊春	「浮画雪見酒宴 之図」	安永(1772-81)前期	大判錦絵	244×376	西村屋与八	歌川豊春画		
389	444		歌川豊春	「浮絵義仲栗津 合戦図」	安永(1772-81)前期	大判錦絵	263×387	西村屋与八	歌川豊春画		
390	445		烏文斎栄之 篤	「諸鳥十二禽」 鴛	寛政(1789-1801)前 期	中判錦絵	256×192	西村屋与八	栄之画	「極」	
391	446		烏文斎栄之	「都北東之錦」	天明(1781-89)末期	中判錦絵	264×194	不詳	栄之画		
392	447	未	烏文斎栄之	「浮世十二月 大 呂」	寛政(1789-1801)中 期	小判錦絵	233×175	西村屋与八	栄之図		
393	448	未	烏文斎栄之	「略花六撰 黒 主」	寛政(1789-1801)中 期	大判錦絵	372×245	西村屋与八	栄之図	「極」	
394	449		烏文斎栄之	「略花六撰 喜 撰法師」	寛政(1789-1801)中 期	大判錦絵	387×259	西村屋与八	栄之図	「極」	
395	450	未	烏文斎栄之 (複製)	「青楼美人合 初賀座敷之図 扇屋 瀧川」	近代	大判錦絵	376×248	不詳	栄之戯画		
396	451		烏文斎栄之	御殿山の花見	寛政(1789-1801)初 期	大判錦絵 統絵のうち の2枚	386×524	不詳	栄之画		
397	452		烏文斎栄之	遊興図	寛政(1789-1801)前 期	大判錦絵3 枚統	390×779	岩戸屋喜三郎	栄之図	「極」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
334	394		歌川豊国	「役者舞台之姿 繪きのくにや」 三代目沢村宗十郎	寛政6(1794)年	大判錦絵	383×256	和泉屋市兵衛	豊国画	「極」	7月都座「傾城三本傘」
335	395		歌川豊国	仮宅の遊女	寛政(1789-1801)中期	大判錦絵	386×259	若狭屋与一	豊国画		
336	396		歌川豊国	洗い張り	寛政(1789-1801)後期	大判錦絵3枚統	362×749	葛屋重三郎	豊国画	「極」	
337	397		歌川豊国	掃衣美人	寛政(1789-1801)後期	大判錦絵3枚統	372×767	和泉屋市兵衛	豊国画	「極」	
338	398		流光斎如圭	「大森彦七 叶 雛助 栗生左エ門 市川団蔵」	寛政4(1792)年	細判錦絵	313×149	本庄板か	流光斎 (花押)	「極」	11月浅尾座(角)顔見世「人心叶戯場」。林忠正印。
339	399	未	喜多川歌麿	『狂月坊』山野の月	寛政1(1789)年	もと彩色 摺絵入狂歌本	256×387	葛屋重三郎			
340	399A	未	喜多川歌麿	『狂月坊』月宮殿	寛政1(1789)年	もと彩色 摺絵入狂歌本	353×381	葛屋重三郎			
341	400	未	喜多川歌麿	『潮干のつと』 すだれ貝、むめのはな貝、さくら貝、むらさき貝、なでしこ貝、きぬた貝	寛政1(1789)年	彩色摺絵入狂歌本	270×386	葛屋重三郎			背景緑色退色
342	401	未	喜多川歌麿	『潮干のつと』 あし貝、蛤、小貝、すずめ貝、あこや貝、かたし貝	寛政1(1789)年	もと彩色 摺絵入狂歌本	270×386	葛屋重三郎			背景緑色退色
343	402	未	喜多川歌麿	『潮干のつと』 しろ貝、なみまがしわ、枕貝、色貝、あざ貝、さだへ貝	寛政1(1789)年	もと彩色 摺絵入狂歌本	270×386	葛屋重三郎			背景緑色退色
344	403	未	喜多川歌麿	『潮干のつと』 みなし貝、しほ貝、かたつ貝、みそ貝、しじみ貝、千草貝	寛政1(1789)年	もと彩色 摺絵入狂歌本	270×386	葛屋重三郎			背景緑色退色
345	404	未	喜多川歌麿	『潮干のつと』 紅貝、ほら貝、うらうつ貝、わすれ貝、千代の花貝、ますほ貝	寛政1(1789)年	もと彩色 摺絵入狂歌本	270×386	葛屋重三郎			背景緑色退色
346	405		二代喜多川歌麿	芍薬と蝶	文化2(1805)年頃	短冊判錦絵	353×84	不詳	歌麿筆		
347	406		二代喜多川歌麿か	寒山拾得	文化2(1805)年頃	細判墨摺絵	340×150	不詳	歌麿筆		「遅日園林悲…」
348	407		喜多川歌麿	「青楼仁和菰全盛遊 二の替り」	寛政11(1799)年	間判錦絵	329×229	葛屋重三郎	歌麿筆		「唐人 秀太夫 七平 志名太夫」
349	408		喜多川歌麿	お半長衛門	寛政(1789-1801)末期頃	もと大判錦絵	233×214	不詳	歌麿筆		上半分欠
350	409		喜多川歌麿	「千代鶴」	寛政(1789-1801)中期	大判錦絵	372×251	山口屋忠助	歌麿筆		
351	410		喜多川歌麿	「風俗浮世八景屋敷の夕照」	寛政(1789-1801)中期	間判錦絵	330×233	葛屋重三郎	歌麿筆	「極」	
352	411		喜多川歌麿	「教訓 親の目鑑正直者」	享和2(1802)年頃	大判錦絵	379×252	鶴屋金助	歌麿筆		「種々さまへ…」
353	412		喜多川歌麿	胤の前の山姥と金太郎	寛政12-享和3(1800-03)年頃	大判錦絵	375×259	鶴屋金助	歌麿筆		
354	413		喜多川歌麿	「浮世七ツ目合」	寛政(1789-1801)末期頃	大判錦絵	364×240	秩父屋庄左衛門	歌麿筆		
355	414	未	喜多川歌麿	「婦人相学十鉢面白き相 相見」	寛政4-5(1792-93)年頃	大判錦絵	364×245	葛屋重三郎	歌麿画	「極」	
356	415	未	喜多川歌麿	「当時遊君生写松葉屋 染之助」	寛政(1789-1801)末期頃	大判錦絵	388×260	丸屋甚八	歌麿筆		
357	416		喜多川歌麿	「遊君七小町 丁子屋唐琴」	享和期(1801-04)頃	大判錦絵	390×264	和泉屋市兵衛	歌麿筆		「色見へて…」
358	417	未	喜多川歌麿	笠森おせんと高嶋おひさ	寛政6(1794)年頃	大判錦絵	381×251	鶴屋金助	歌麿筆	「極」	
359	418		喜多川歌麿	「美人気量鏡五明楼 花扇」	寛政6-7(1794-95)年頃	大判錦絵	371×251	高須惣七	歌麿筆	「極」	黒雲母摺
360	419		喜多川歌麿(複製)	「実競色乃美名家見 八百屋半兵衛 女房お千代」	近代	大判錦絵	373×248	不詳	歌麿筆	「極」	
361	420		喜多川歌麿	柿もぎ	享和3-文化1(1803-04)年頃	大判錦絵3枚統	右394×257 中389×257 左394×257	若狭屋与一	歌麿筆	「極」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
302	362		鳥居清長	大川楼上の月見	天明7(1787)年頃	大判錦絵 (3枚統の うち右)	391×252	不詳	清長画		
303	363		鳥居清長	風俗東之錦 萩 見	天明(1781-89)前期	大判錦絵 (2枚統の うち左)	356×248	不詳	清長画		
304	364		鳥居清長	風俗東之錦 萩 見	天明(1781-89)前期	大判錦絵 (2枚統の うち右)	381×252	不詳	清長画		
305	365		鳥居清長	飛鳥山の花見	天明7(1787)年頃	大判錦絵 (3枚統の うち右)	378×248	不詳	清長画		
306	366		鳥居清長	飛鳥山の花見	天明7(1787)年頃	大判錦絵 (3枚統の うち中)	364×248	不詳	清長画		
307	367		鳥居清長	飛鳥山の花見	天明7(1787)年頃	大判錦絵 (3枚統の うち左)	394×265	不詳	清長画		
308	368		鳥居清長	庭に立つ遊女	天明3(1783)年頃	柱絵判錦 絵	686×113	不詳	清長画		
309	369		鳥居清長	傘をさす芸者(葛 紋)	天明4(1784)年	柱絵判錦 絵	700×118	西村屋与八	清長画		
310	370		鳥居清長	梅川忠兵衛	天明(1781-89)初期	柱絵判錦 絵	641×118	西村屋与八	清長画		
311	371		鳥居清長	藤下風に悩む美 人	安永(1772-81)末期	柱絵判錦 絵	622×110	不詳	清長画		
312	372		鳥居清長	眉を装う芸者	天明(1781-89)初期	柱絵判錦 絵	803×121	不詳	清長画		
313	373		鳥居清長	花下の芸者二人	天明(1781-89)初期	柱絵判錦 絵	702×124	西村屋与八	清長画		
314	374		鳥居清長	「美南見十二候」 四月 品川沖の 汐干	天明4(1784)年頃	大判錦絵2 枚統	右371×240 左370×254	不詳	清長画		
315	375		鳥居清長	「美南見十二候」 三月 御殿山の 花見	天明4(1784)年頃	大判錦絵2 枚統	368×695	不詳	清長画		
316	376		鳥居清長	洗濯と張り物	天明(1781-89)後期	大判錦絵3 枚統	右384×248 中383×260 左385×253	鳥屋重三郎	清長画		
317	377		春光	傘をさす芸者	天明期(1781-89)	柱絵判錦 絵	665×121	不詳	春光画		
318	378		勝川春潮	格子前の尾上松 之助	寛政6(1794)年	細判錦絵	308×139	山口屋忠右衛門	春潮画		
319	379		勝川春潮	「妹背山五枚統」	天明(1781-89)中期	中判錦絵	258×185	不詳	春潮画		
320	380		勝川春潮	「深川八景 やぐ ら下のばんしや う」	天明(1781-89)中期	小判錦絵	222×156	西村屋与八	春潮画		
321	381		勝川春潮	田園の美人	天明(1781-89)後期	大判錦絵 (2枚統の うち右)	390×265	不詳	春潮画(印)		
322	382		勝川春潮	萩見の美人	天明(1781-89)後期	大判錦絵 (3枚統の うち右)	371×250	不詳	春潮画(印)		
323	383		勝川春潮	押上村行楽	天明(1781-89)後期	大判錦絵 (3枚統の うち右)	394×259	和泉屋市兵衛	春潮画(印)		「普賢菩薩 押 上村」
324	384		勝川春潮	仮宅の遊女	天明(1781-89)後期	柱絵判錦 絵	691×115	秩父屋庄左衛門	春潮画(印)		
325	385		勝川春潮	三閑詣の芸者	寛政(1789-1801)前 期	柱絵判錦 絵	701×121	岩戸屋喜三郎	春潮画	「極」	「わるひ口…」
326	386	未	勝川春潮	御殿山の花見	天明(1781-89)後期	柱絵判錦 絵	684×121	秩父屋庄左衛門	春潮画(印)		
327	387		礪川亭永理	浜辺の女仕丁	寛政(1789-1801)後 期	大判錦絵 (3枚統の うち右か)	392×252	和泉屋市兵衛	礪川亭エひ り筆	「極」	
328	388		歌川豊国	「ういろう売虎屋 藤吉 七代目 市川ゑび蔵 相勤 申候」	寛政12(1800)年	細判錦絵	321×148	鶴屋喜右衛門	豊国画		5月中村座 六代 目市川團十郎一 周忌追善「外郎 売」
329	389		歌川豊国	浴衣美人	寛政(1789-1801)後 期	大判錦絵	245×176	若狭屋与一	豊国画		大判の周囲が切 れた版か。390と 同シリーズか。
330	390		歌川豊国	煙管の遊女	寛政(1789-1801)後 期	大判錦絵	245×176	若狭屋与一	豊国画		大判の周囲が切 れた版か。389と 同シリーズか。
331	391		歌川豊国	三代目沢村宗十 郎と嵐龍蔵	寛政8(1796)年頃	大判錦絵	322×222	山伝	豊国画		この年桐座で共 演
332	392		歌川豊国	「三国小女郎 瀬川菊之丞 小 女郎 兄九十郎 嵐三八」	寛政10(1798)年	大判錦絵	389×263	西村屋与八	豊国画	「極」	正月桐座「富岡 恋山開」
333	393	未	歌川豊国	「役者舞台之姿 繪 きのくにや」 二代目沢村淀五 郎	寛政7(1795)年	大判錦絵	366×245	和泉屋市兵衛	豊国画	「極」	8月河原崎座「全 盛東伽藍」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
275	335		鳥居清長	三代目沢村宗十郎と茶屋女	天明3-4(1783-84)年	細判錦絵	325×144	不詳	清長画		3月森田座「ひらがな盛衰記」
276	336		鳥居清長	二代目市川門之助の助六	安永8(1779)年	細判錦絵	308×141	上州屋金蔵	清長画		
277	337		鳥居清長	「四季の富士新大橋」	天明(1781-89)中期	中判錦絵	264×200	不詳	清長画		3月中村座「助六廊夜桜」
278	338		鳥居清長	「山王御祭礼新大坂町通油町田所町しやつきやう華笠踊やたい」	安永9(1780)年	中判錦絵	260×194	西村屋与八	清長画		
279	339		鳥居清長	「四季の不二腋河町」	天明5(1785)年	中判錦絵	248×187	不詳	清長画		
280	340		鳥居清長	「色競艶婦姿髪結」	天明(1781-89)初期	中判錦絵	286×184	不詳	清長画		
281	341		鳥居清長	「基太平記白石嘶道行玉川の段」	天明5(1785)年頃	中判錦絵	245×191	不詳	清長画		
282	342		鳥居清長	「基太平記白石嘶石堂やかたの段・切」	天明5(1785)年頃	中判錦絵	256×194	不詳	清長画		
283	343		鳥居清長	「江都七福神まいり日暮里布袋」	寛政(1789-1801)前期	中判錦絵(2枚統のうち左)	248×189	葛屋重三郎	清長画		
284	344		鳥居清長	「四季八景初春晴嵐」	安永(1772-81)後期	中判錦絵	262×190	西村屋与八	清長画		
285	345	未	鳥居清長	「四季八景暮春晚鐘」	安永(1772-81)後期	中判錦絵	255×189	西村屋与八	清長画		
286	346		鳥居清長	年始回礼の支度	安永(1772-81)前期	中判錦絵	256×191	不詳	清長画		
287	347		鳥居清長	松風村雨(汐汲み)	安永(1772-81)後期	中判錦絵	264×192	不詳	清長画		
288	348		鳥居清長	「戯童十二月」初午稲荷詣で	安永(1772-81)後期	中判錦絵	254×194	西村屋与八	清長画		
289	349		鳥居清長	「風流四季の月詣花見月」	天明(1781-89)前期	中判錦絵	256×187	和泉屋か	清長画		
290	350		鳥居清長	牛若丸と弁慶	天明(1781-89)前期	大判錦絵	379×260	西村屋与八	清長画		
291	351		鳥居清長	四代目岩井半四郎の葛の葉、三代目市川八百蔵のやかん平、市川海老蔵の安部童子	天明4(1784)年	大判錦絵	356×241	不詳	清長画		「江戸榎の…」9月中村座「芦屋道満大内鑑」
292	352		鳥居清長	「風俗東之錦」春の野遊び	天明(1781-89)前期	大判錦絵(2枚統のうち右)	384×156	不詳	清長画		
293	353		鳥居清長	「風俗東之錦」姫君と侍女四人	天明(1781-89)前期	大判錦絵	383×247	不詳	(清長画)		署名部分欠
294	354		鳥居清長	三代目沢村宗十郎の楠正行、嵐村次郎の弁の内侍	天明6(1786)年	大判錦絵	383×260	西村屋与八	清長画		「あふ坂の…」「淨るり 富本豊喜太夫 富本斎宮太夫 富本加賀太夫 三弦名見崎徳治 佐々木市四郎」「振袖雪吉野拾遺」
295	355		鳥居清長	(出語り図)二代目小佐川常世の梅川、四代目坂東又九郎の忠兵衛、中村勝五郎の孫右衛門	天明4(1784)年	大判錦絵	386×263	西村屋与八	清長画		浄瑠璃二代目富本豊前太夫、脇語り富本斎宮太夫、三弦名見崎徳治、森田座「契情恋飛脚」
296	356		鳥居清長	「風俗東之錦」武家の若殿、乳母と侍女二人	天明(1781-89)前期	大判錦絵	391×264	不詳	清長画		
297	357		鳥居清長	吉原歎々楼遊興	寛政(1789-1801)前期	大判錦絵(3枚統のうち左)	367×252	伊勢屋治助	清長画		「極」
298	358		鳥居清長	美南見十二候八月月見の宴	天明4(1784)年頃	大判錦絵(2枚統のうち左)	383×155	不詳	清長画		
299	359		鳥居清長(複製)	美南見十二候八月月見の宴	近代	大判錦絵(2枚統のうち左)	386×290	不詳	清長画		
300	360		鳥居清長	当世遊里美人合座敷酒宴	天明4(1784)年頃	大判錦絵(2枚統のうち左)	378×251	不詳	清長画		
301	361		鳥居清長	吾妻橋下の涼船	天明6(1786)年頃	大判錦絵(3枚統のうち中)	372×249	高津屋伊助	清長画		

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
244	304		勝川春英	二代目市川門之助	寛政5(1793)年頃	細判錦絵	305×137	葛屋重三郎	春英画	「極」	秋市村座「近江源氏先陣館」か
245	305	未	勝川春英	三代目瀬川菊之丞の油屋おそめ	寛政8(1796)年頃	大判錦絵	381×258	上村与兵衛	春英画	「極」	7月村座「時花唄比翼三紋」
246	306		勝川春好	二代目市川八百蔵か	安永(1772-81)後期	細判錦絵	313×143	不詳	春好画		
247	307		勝川春好	中村富士郎の春駒	安永7(1778)年	細判錦絵	314×151	不詳	春好画		9月市村座「鏡返七客鏡」(富士郎名残 七変化)
248	308		勝川春好	四代目岩井半四郎	安永(1772-81)後期	細判錦絵	303×154	不詳	春好画		所蔵印あり
249	309		勝川春好	三代目沢村宗十郎、中山小十郎、二代目市川八百蔵の猿若万蔵	天明6(1786)年	細判錦絵3枚統	325×437	不詳	春好画		正月中村座「猿若万蔵舞台」
250	310		勝川春常	三代目瀬川吉次か	天明(1781-89)初期	細判錦絵	325×148	不詳	春常画		
251	311		一筆斎文調	「市川伊達蔵市鶴」(『絵本舞台扇』のうち)	明和7(1770)年	もと彩色摺絵本	284×186	雁金屋伊兵衛	(印)		
252	312		一筆斎文調	四代目岩井半四郎の所作	明和7(1770)年頃	細判錦絵	325×148	不詳	一筆斎文調画(印)		
253	313		一筆斎文調	二代目市川八百蔵の左近狐	明和7(1770)年	細判錦絵	314×141	不詳	一筆斎文調画(印)		11月中村座「鶴森一陽的」
254	314		一筆斎文調	中村富士郎の牛車の側に立つ茶屋娘	明和8(1771)年頃	細判錦絵	310×141	西村屋与八	一筆斎文調画		
255	315		一筆斎文調	中村松江の宗貞女房桜木	明和8(1771)年	細判錦絵	294×135	不詳	一筆斎文調画(印)		11月中村座「倭花小野五文字」
256	316		一筆斎文調	中村歌右衛門清玄と風雛治の桜姫	明和6(1769)年	細判錦絵	299×141	西村屋与八	一筆斎文調画(印)		この年中村座で共演
257	317	未	一筆斎文調 鈴木春信	やつし草摺引	明和5-6(1768-69)年頃	中判錦絵	282×210	不詳	春信戯画 一筆斎文調画		
258	318		勝川春山	「青楼俄全盛遊田毎の植付」	寛政期(1789-1801)頃	大判錦絵	338×230	西村屋与八	勝春山画	「極」	
259	319		勝川春山	旭日に白梅	寛政期(1789-1801)頃	团扇絵判錦絵	230×257	不詳	春山画(印)		
260	320		窪俊満	六玉川 三島	天明(1781-89)後期	大判錦絵6枚統のうち	386×241	伏見屋善六	俊満画(印)		
261	321		窪俊満	七人の女	文化期(1804-18)	中判摺物	214×284	—	尚左堂窪俊満画(印)	(印)	官女、宮仕、遊女、妓女、かくし妻、小原女、贅の7人
262	322		窪俊満	孔雀の羽根に梅花	文化期(1804-18)	色紙判摺物	212×184	—	(俊満印)		「梅咲て…」
263	323		窪俊満	「桶つむ春ふきの臺」	文化期(1804-18)	色紙判摺物	203×175	—	「霞連草木合 俊満製」印		「大江門も…」
264	324		窪俊満	新春の神社	文化期(1804-18)	長大判摺物	187×511	—	(俊満印)		
265	325		歌川派か	見立群仙図	天保期(1830-44)	長大判摺物	194×514	—			
266	326		鳥居清長	江戸八景 金龍山暮雪・愛宕秋の月	安永(1772-81)後期	細判錦絵	137×316	不詳	清長画		「まつち山…」
267	327		鳥居清長	「延享年中綴本表格写 もんづくしなごや曾我第一ばん目 あざいなつらね」	文化(1804-18)前期	墨摺絵	261×174	和泉屋権四郎	似鳥居清倍筆 清長写		
268	328		鳥居清長	「二代目団十郎栢庭」	文化2(1805)年	小判錦絵摺物か	240×164	不詳	鳥居二代目清倍図 清長画		「根元 もくさ三舁屋」
269	329		鳥居清長	「奈須与一」	安永(1772-81)中期	細判紅摺絵	266×128	江崎屋吉兵衛	清長画		
270	330		鳥居清長	「娘おなみ (三代目)瀬川菊之丞」	安永7(1778)年	細判錦絵	313×135	不詳	清長画		11月市村座「開増梅輦案」
271	331		鳥居清長	「(九代目)市川羽左衛門(の狂女)」	安永3(1774)年頃	細判錦絵	310×136	江喜	清長画		
272	332		鳥居清長	「五良時致 (二代目)市川門之助」	安永7(1778)年	細判錦絵(2枚統のうち右)	297×134	不詳	清長画		2月中村座「国色和曾我」
273	333		鳥居清長	「ぬれかみ小しづか 瀬川菊之丞」	安永9(1780)年か	細判錦絵	285×135	伊勢屋治助	清長画		1月市村座「梅暦曾我」
274	334		鳥居清長	「ひぐちの次良 大谷広次」	安永5(1776)年	細判紅摺絵	287×133	鱗形屋孫兵衛	清長画		

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
211	271		勝川春章	中島勘左衛門	安永(1772-81)中期	細判錦絵	310×151	不詳	春章画		
212	272		勝川春章	二代目山下金作	安永(1772-81)中期	細判錦絵	314×149	不詳	春章画		
213	273		勝川春章	大谷友右衛門	安永(1772-81)末期	細判錦絵	322×149	不詳	春章画		
214	274		勝川春章	四代目岩井半四郎	安永(1772-81)末期	細判錦絵	325×148	不詳	春章画		
215	275		勝川春章	二代目市川八百蔵の下男常七実 は真壁ノ八郎か	明和6(1769)年か	細判錦絵	316×149	不詳	春章画 (印)		中村座7月「念力 樗葉鑑」か
216	276	未	勝川春章	「かみこやしなひ 草 第一」	安永1-4(1772-75) 年頃	中判錦絵	260×187	不詳	勝川春章画		「蛭種の紙…」
217	277		勝川春章	中村仲蔵と中村 里好	安永(1772-81)末 期-天明(1781-89) 初期	間判錦絵	321×221	不詳	春章画		
218	278		勝川春章	楽屋の二代目市 川門之助、三代 目瀬川菊之丞、 四代目岩井半四 郎	天明(1781-89)初期	大判錦絵	364×249	不詳	春章画		
219	279		勝川春章	五代目市川团十 郎と山下金作	安永(1772-81)末 期-天明(1781-89) 初期	間判錦絵	319×225	不詳	春章画		
220	280		勝川春章	土俵の力士(谷風 と出水川)	天明(1781-89)中期	大判錦絵2 枚続	352×476	川清か	春章画		
221	281		勝川春章	「東方 関脇 阿 洲 虹ヶ嶽 右エ 門 前頭 小倉 筆ノ海金右エ門」	天明2-3(1782-83) 年頃	大判錦絵	387×256	松村弥兵衛	春章画		
222	282	未	勝川春章	瀬川富三郎の道 成寺	安永3(1774)年	柱絵判錦 絵	697×122	不詳	勝川春章画		3月市村座二代目 瀬川菊之丞一周 忌追善「花形見 折鳥帽子」
223	283		勝川春章	立美人図	安永(1772-81)中期	幅広柱絵 判錦絵	695×165	不詳	勝川春章画		
224	284		勝川春章 (没後)	(大江山四幅対)	文化期(1804-18)頃	中判摺物	187×279	—	故勝川春章 (印)		狂歌堂真顔の狂 歌等。1950.285 の版を流用した摺 物。
225	285		勝川春章 (没後)	「故春章筆大江 山四幅続」	文化期(1804-18)頃	色紙判摺 物	205×206	—			「初声に…」
226	286		北尾重政か	桜の枝を手折る 童子	安永(1772-81)前期	小判錦絵	225×164	不詳			
227	287		北尾重政	「ひき松 坂東彦 三良」	宝暦(1751-64)末期	細判紅摺 絵	291×137	江浪屋	北尾重政画		
228	288		北尾重政	「牛王のまへ 市山七蔵」	明和(1764-72)前期	細判紅摺 絵	302×135	伊勢屋幸七	北尾重政画		
229	289		北尾重政	「浮世六玉川第 三 相模 摂津」	明和期(1764-72)	細判錦絵	306×141	森	北尾重政画		「松かぜの…」 所蔵印あり
230	290		北尾重政	「鏡台秋月」	明和期(1764-72)	色紙判錦 絵	192×186	不詳	北尾重政画		「秋のよの…」
231	291		北尾重政か	「青楼美人 寄 名八景 江戸一 丁目 扇子屋内 たき川の帛帆」	安永(1772-81)中期	間判錦絵	322×228	不詳			
232	292		北尾重政	子ども七福神 恵比寿	安永期(1772-81)	大判錦絵	384×256	不詳			林忠正印
233	293		不詳	「天満宮御一代 記 三幅対 左」	寛政期(1789-1801) 頃	大判錦絵	394×267	西村屋与八		「極」	
234	294	未	北尾重政	見立鉢の木	明和(1764-72)末期	柱絵判錦 絵	714×105	鱗形屋孫兵衛	北尾重政画		
235	295		磯田湖龍斎	「風流略源氏 紅葉の賀」	明和(1764-72)末期	小判錦絵	203×159	不詳	湖龍斎画		「ものをふに…」
236	296		磯田湖龍斎	「風流五讀小供 遊 義」	安永(1772-81)前期	中判錦絵	260×192	不詳	湖龍斎画		
237	297		磯田湖龍斎	女万歳図	明和(1764-72) 末-安永(1772-81) 初期	柱絵判錦 絵	700×121	不詳	湖龍斎画 (印)		
238	298		磯田湖龍斎	煙草に火を着け る男女	安永(1772-81)前期	柱絵判錦 絵	691×121	不詳	湖龍斎画		
239	299		磯田湖龍斎	「露屋内 新すが わら」	安永(1772-81)後期	柱絵判錦 絵	673×114	西村屋与八	湖龍斎画 (花押)		
240	300		磯田湖龍斎	「風流六歌仙 文屋安秀」	明和(1764-72) 末-安永(1772-81) 初期	柱絵判錦 絵	749×132	不詳	湖龍斎画		「ふくらかに…」
241	301		磯田湖龍斎	梅を手折る若衆	明和(1764-72)末期	柱絵判錦 絵	681×122	不詳	湖龍斎画		
242	302		勝川春英	片岡仁左衛門の 高師直	寛政7(1795)年	間判錦絵	324×211	榎木屋吉兵衛	春英画		4月都座「仮名手 本忠臣蔵」
243	303		勝川春英	「滝野屋 新車」 (二代目市川門之 助)	寛政3(1791)年頃	細判錦絵	311×145	伊勢屋治助	春英画	「極」	

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
172	232		鈴木春信	綿屋の娘と若衆	明和4(1767)年頃	中判錦絵	270×218	不詳	春信画		
173	233		駒井美信か	布袋と美人	明和6-7(1769-70)年頃	中判錦絵	270×200	不詳			
174	234		不詳	牛若丸	明和12(1765)年絵巻	中判摺物	256×186	—	巨川連中故 雇工		絵師はデータベースによる。林忠正印。
175	235		(無款)鈴木春信	見立三夕 西行	もと明和12(1765)年絵巻	中判錦絵	279×195	不詳			
176	236		鈴木春信	大名行列遊び	明和5(1768)年頃	中判錦絵	270×195	不詳	春信画		
177	237		(無款)鈴木春信	見立伊勢物語五段	もと明和12(1765)年絵巻か	中判錦絵	368×740	不詳			
178	238		鈴木春信	松風村雨	明和6-7(1769-70)年頃	中判錦絵	275×184	不詳	春信画		「わくらばに…」
179	239		(無款)鈴木春信	菊の鉢植え	もと明和13(1766)年絵巻	中判錦絵	267×192	不詳			
180	240		(無款)鈴木春信	六玉川 調布の玉川	明和4(1767)年頃	中判錦絵	279×208	不詳			「たづくりや…」
181	241		鈴木春信	縁先美人(見立無間の鐘)	明和4(1767)年頃	中判錦絵	279×213	不詳	春信画		
182	242	未	鈴木春信	「いせ屋」	明和6-7(1769-70)年頃	中判錦絵	282×212	不詳	鈴木春信画		
183	243		鈴木春信 (複製)	茶屋の娘	近代	中判錦絵	284×208	不詳	鈴木春信画		
184	244	未	鈴木春信	紅葉を焚く女仕丁	明和6-7(1769-70)年頃	中判錦絵	284×212	不詳	春信画		
185	245		高見澤版か	雪中の男女(文読み)	近代	中判錦絵	217×212	高見澤版			春画の改ざん版
186	246		高見澤版か	雪中の男女	近代	中判錦絵	230×310	高見澤版	春信画		春画の改ざん版
187	247		鈴木春信	牡丹に錦鶏	明和期(1764-72)	柱絵判錦絵 (正面摺)	699×106	不詳	鈴木春信画		
188	248		鈴木春信	柄杓を持ち破れた文を見る遊客 (見立無間の鐘)	明和6-7(1769-70)年頃	柱絵判錦絵	690×114	不詳	春信画		
189	249		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「え」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「風吹ば…」
190	250		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「か」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	勝川春章画		「ゆく水に…」
191	251		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「ほ」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「人しれぬ…」
192	252		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「む」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「秋かけて…」
193	253		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「め」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「きのふけふ…」
194	254		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「を」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	勝川春章画		「あひ思はで…」
195	255		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「ち」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「むさし野は…」
196	256		(無款)勝川春章	風流錦絵伊勢物語「ほ」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳			「から衣…」
197	257		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「ゑ」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「ちはやぶる…」 ※上部キレ
198	258		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「け」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「うちわびて…」
199	259		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「れ」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「かち人の…」
200	260		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「し」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「出ていなば…」
201	261		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「な」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「ぬきみだる…」
202	262		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「ろ」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「思ひあらば…」
203	263		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「お」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「あやめかり…」
204	264		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「み」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「あしべより…」
205	265		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「ゐ」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「雁なきて…」
206	266		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「そ」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	勝川春章画		「千早振神の…」
207	267		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「や」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「わすれ草…」
208	268		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「に」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	勝川春章画		「しら玉か…」
209	269		勝川春章	風流錦絵伊勢物語「う」	明和7-9(1770-72)年頃	小判錦絵	227×157	不詳	春章画		「わがたのむ…」
210	270		勝川春章	二代目市川八百蔵の桜丸	安永5(1776)年	細判錦絵	316×145	不詳	春章画		市村座「菅原伝授手習鑑」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
139	199		奥村政信	鍾馗	宝暦期(1751-64)	柱絵判紅摺絵	568×124	不詳	芳月堂丹鳥斎・奥村文角政信梅翁画(印)		
140	200		奥村政信	鏡を見る美人	延享-寛延期(1744-51)	幅広柱絵判紅絵	709×252	不詳	芳月堂正名奥村文角政信正筆(印)		
141	201		(無款)奥村政信か	賢人と唐子	宝暦期(1751-64)	柱絵判紅摺絵	991×125	奥村屋			
142	202		奥村政信	羽根突きをする美人	宝永-正徳期(1704-16)	大々判墨摺絵	653×322	西村屋伝兵衛	東武大和画師奥村政信図(印)		
143	203		西村重信	「三條勘太郎萩野伊三郎」	享保期(1716-36)頃	細判漆絵	311×152	丸屋九左右衛門	絵師西村孫三郎筆		
144	204		西村重信	「むすめ風三ふくつひ 左 本町式丁目 いとやの小さいと」	享保期(1716-36)頃	細判漆絵	299×149	鱗形屋孫兵衛	絵師西村重信筆		
145	205		石川豊信	佐野川市松と瀬川菊之丞の相合傘	宝暦期(1751-64)	大判紅摺絵	429×268	鱗形屋孫兵衛	咀篠堂 石川秀葩豊信図(印)(印)		
146	206		石川豊信	坂東菊松の春駒	寛延2(1749)年頃	大判紅摺絵	411×286	丸屋小兵衛	石川秀葩豊信図(印)(印)		「さる引の…」
147	207		石川豊信	猿曳き	宝暦期(1751-64)	細判紅摺絵	310×145	鱗形屋孫兵衛	石川秀葩筆		「撥尽朝霜…」
148	208		石川豊信	朝鮮通信使	宝暦期(1751-64)	細判紅摺絵	286×141	鱗形屋孫兵衛	石川秀葩筆		
149	209		石川豊信	佐野川市松の傘を持つ若衆	寛延期(1748-51)	幅広柱絵判紅絵	735×254	不詳	咀篠堂 石川秀葩豊信図(印)(印)		
150	210		石川豊信	傘を持つ美人	延享-寛延期(1744-51)	幅広柱絵判紅絵	699×157	鱗形屋孫兵衛	咀篠堂 石川秀葩豊信図(印)(印)		
151	211		石川豊信	遊女図	延享-寛延期(1744-51)	幅広柱絵判紅絵	614×160	村田屋治郎兵衛	咀篠堂 石川秀葩豊信図(印)(印)		「川嶋の…」
152	212		石川豊信	海女図	宝暦期(1751-64)	柱絵判紅摺絵	718×97	鱗形屋孫兵衛	咀篠堂 石川秀葩画(印)		
153	213		石川豊信	湯上り美人図	宝暦期(1751-64)	柱絵判紅摺絵	657×103	丸屋小兵衛	石川豊信筆		「湯あかりは…」
154	214		鳥居清満	柿本人麻呂	宝暦期(1751-64)	細判墨摺絵(校合摺)	327×143	西村屋与八	鳥居清満画		「ほのへへと…」
155	215		鳥居清満	六条右大臣	明和(1764-72)初期	細判水絵	276×122	西村屋与八	鳥居清満画		「水の色は…」
156	216		鳥居清満	菅丞相	明和(1764-72)初期	細判水絵	313×133	西村屋与八	鳥居清満画		「こちふかば…」
157	217		鳥居清満	「みだ二郎 坂東彦三郎」	宝暦期(1751-64)	細判紅摺絵	306×138	富田屋	鳥居清満画		「秋月や…」
158	218		鳥居清満	「市川八百蔵定花」	宝暦期(1751-64)	細判紅摺絵	313×148	鱗形屋孫兵衛	鳥居清満画		
159	219		鳥居清満	「足輕寺岡平右門 市村羽左衛門」	宝暦12(1762)年	細判紅摺絵	300×137	丸屋甚八	鳥居清満画		秋、市村座「仮名手本忠臣蔵」
160	220		鳥居清満	「玉つくりの小町尾上松助 はだの大膳武とら 大谷広次」	宝暦12(1762)年	細判紅摺絵	313×141	岩戸屋源八	鳥居清満画		11月市村座「競歌栄小町」
161	221		鳥居清満	「むらさめ 中村松江 やっこ 市村吉五良」	宝暦12(1762)年	細判紅摺絵	306×141	扇に「や」印	鳥居清満画		11月市村座「競歌栄小町」
162	222		鳥居清満	母と子の遊び	宝暦期(1751-64)	大判(細判3丁掛)紅摺絵	279×432	村田屋治郎兵衛	鳥居清満画		「駆出すや…」
163	223		鳥居清満	「竹田近江大極」(水芸)	宝暦期(1751-64)	大判紅摺絵	410×289	堺屋九郎兵衛	鳥居清満筆		「此さいくは…」
164	224		鳥居清満	中村富十郎のお夏	宝暦8(1758)年	柱絵判紅摺絵	645×98	丸屋小兵衛	鳥居清満画(印)		「富士白し…」3月市村座「花吹雪富士普笠」
165	225		鳥居清満	笠を被った若衆	宝暦期(1751-64)	柱絵判紅摺絵	706×100	奥村源六	鳥居清満画(印)		「若後家の…」
166	226		鈴木春信	「もんがく上人 市川団十郎 平の清もり 沢村宗十良」	宝暦12(1762)年	細判紅摺絵	294×132	岩戸屋源八	鈴木春信筆		11月中村座「椰葉伊豆形貌図」
167	227		鈴木春信	天神図	宝暦(1751-64)末期	大判紅摺絵	410×275	堺屋九郎兵衛	鈴木春信画(印)		「我たのむ…」
168	228	未	鈴木春信	「曾我五郎時致朝比奈三郎義秀」	宝暦13(1763)年	大判紅摺絵	406×288	岩戸屋源八	鈴木春信筆		
169	229		鈴木春信	平忠盛と油坊主	明和(1764-72)初期	細判水絵	303×140	不詳	春信画		
170	230		鈴木春信	柿本人麻呂	明和(1764-72)初期	細判水絵	308×137	岩戸屋源八	春信画		「ほのへへと…」
171	231		鈴木春信	「近江八景の内 石山秋月」	明和(1764-72)初期	細判紅摺絵	310×140	不詳	春信画		「石山や…」

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
108	168		西村重長	旭日と梅に鶴	延享(1744-48)-宝暦(1751-64)初期	細判紅摺 絵	316×148	駿河屋	西村重長筆		
109	169		奥村政信	文字絵遊女図	正徳期(1711-16)頃	大判墨摺 絵	256×129	不詳	(風流大和 絵師 奥村 政信図之)		大きく切断されて いる。シカゴ美術 館に完品あり。
110	170		鳥居清広	水辺の男女と子 供	宝暦(1751-64)前期	大判紅摺 絵	269×352	丸屋小兵衛	鳥居清広筆		「袋をまくれば…」
111	171		鳥居清広	身支度をする母と 子	宝暦(1751-64)前期	細判紅摺 絵	310×145	伊賀屋勘右衛門	鳥居清広筆		
112	172		鳥居清経	「大いそのとら 中村松江 工ど う左衛門 市川 雷蔵」	明和11(1764)年	細判紅摺 絵	291×135	中嶋屋伊左衛門	鳥居清経画		
113	173		鳥居清経	八代目市村羽左 衛門と尾上民蔵 の五役	明和(1764-72)末期	細判錦絵	300×143	不詳	鳥居清経画		
114	174		鳥居清朝	嵐小六の青物売	享保期(1716-36)	細判紅絵	295×152	伊勢屋金兵衛	鳥居清朝筆		
115	175		近藤清春	俵藤太の百足退 治	享保16(1731)年絵 暦	細判墨摺 絵	329×154	相模屋	近藤助五良 清春筆		
116	176		不詳	「梅がへ 瀬川 菊之丞」	宝暦期(1751-64)	細判紅摺 絵	295×132	不詳			
117	177		富川房信	関羽図	宝暦期(1751-64)	細判紅摺 絵	314×145	西村屋伝兵衛	富川房信画 (印)		「跨馬故郷帰…」
118	178		山本藤信	「九十三騎醋曾 我 そが十良す けなり 中村七 三郎 少長 同 五良ときむね 市村亀蔵 家橘」	宝暦8(1758)年	細判紅摺 絵	314×141	丸屋小兵衛	山本藤信書 (印)		正月市村座「九 十三騎醋曾我」
119	179	未	西川祐信	立美人図	享保期(1716-36)	墨摺絵(版 本の一部)	257×168	不詳	大和絵師 西川祐信筆		
120	180	未	西川祐信か	琴と女	享保期(1716-36)	墨摺絵(版 本の一部) (彩色後 世)	232×159	不詳			
121	181	未	西川祐信	文を読む女	享保期(1716-36)	墨摺絵(版 本の一部) (彩色後 世)	291×160	不詳	大和絵師 西川祐信筆		
122	182		懷月堂度繁	遊女図(波に片輪 車模様)	正徳期(1711-16)	大々判墨 摺絵	564×321	伊賀屋勘右衛門	日本戯画懷 月末葉度繁 之図(印)		
123	183		懷月堂安知	遊女図(銀杏文 様)	正徳期(1711-16)	大々判丹 絵	560×292	丸屋喜八	日本戯画懷 月末葉安知 図(印)		
124	184		懷月堂度辰 (複製)	遊女図(笠文様)	近代	大々判墨 摺絵	594×321	不詳	日本戯画懷 月末葉度辰 図(印)		
125	185		(無款)菱川 師宣	蓮を採る天女と 親子	天和期(1681-84)頃	大判墨摺 絵	273×379	不詳			
126	186		奥村政信	「七夕によるいも せ」	正徳期(1711-16)	大判墨摺 絵	302×438	伊賀屋勘右衛門	奥村政信図 (印)		
127	187		(無款)奥村 政信	「源氏 夕顔」	宝永-正徳期(1704- 16)	大判墨摺 絵	259×362	不詳			
128	188		(無款)奥村 政信	遊女と猿廻し	宝永-正徳期(1704- 16)	大判墨摺 絵	270×359	不詳			
129	189		(無款)奥村 政信	布袋と若衆	宝永-正徳期(1704- 16)	大判墨摺 絵(彩色後 世)	259×360	不詳			
130	190		(無款)奥村 政信	「りんれいぞ」	宝永-正徳期(1704- 16)	大判墨摺 絵	300×440	伊賀屋勘右衛門	(政信印)		
131	191		(無款)奥村 政信(複製)	狸々と遊女	近代	大判墨摺 絵	276×402	不詳			
132	192		(無款)菱川 師宣	(「上野花見の 躰」 仁王門	天和期(1681-84)頃	大判墨摺 絵(彩色後 世)	268×413	山形屋市郎右衛門			
133	193		不詳	鉄拐	不詳	大判墨摺 絵	408×294	不詳			
134	194		奥村政信	寒山拾得図	延享-寛延期(1744- 51)頃	細判墨摺 絵(石摺絵)	310×146	不詳	芳月堂 奥 村政信画 (印)		「我此師道也」
135	195		奥村政信	「八百やお七 恋桜」	享保期(1716-36)頃	細判漆絵	288×144	不詳	奥村政信筆		「竹本喜代太夫」
136	196		二代鳥居清 倍	「沢村宗十郎」と 女形	享保(1716-36)後期	細判漆絵	322×151	伊賀屋勘右衛門	絵師鳥居清 倍筆		
137	197		奥村政信	(「新吉原大門口 中之町浮絵根 元」)	寛保-延享期(1741- 48)	大判墨摺 筆彩	287×411	奥村屋源六	(「日本東武 画工 芳月 堂丹鳥斎 奥村政信 筆」)		マージン欠
138	198		奥村政信	柳下で涼む遊女	宝暦期(1751-64)	細判紅摺 絵	304×142	不詳	芳月堂 奥 村文角政信 画(印)		「柳風通を…」

メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵版画目録(調査報告)

整理 番号	所蔵 番号	調査	絵師	作品名	制作年	判型	法量(mm)	版元	署名	改印	備考
74	134	未	不詳	鍾馗	近代	紙本淡彩	302×232	—			
75	135		(無款) 菱川師宣	低唱の後	延宝(1673-81)後期	大判墨摺 筆彩	279×348	不詳			
76	136		(無款) 菱川師宣	(「上野花見の 駄」) 花見の一 行(小姓衆)	天和期(1681-84)頃	大判墨摺 絵	278×422	山形屋市郎右衛門			
77	137		奥村政信か	「市川団十郎 松本幸四郎」	享保11(1726)年	細判墨摺 筆彩	292×152	不詳			正月中村座「門 松四天王」
78	138		不詳	恵比寿と大黒	享保(1716-36)前期	細判丹絵	308×159	不詳			
79	139		(無款) 奥村政信	見立芦葉達磨	正徳期(1711-16)頃	大判墨摺 絵	305×418	不詳			
80	140		西村重信	釈迦涅槃図	享保(1716-36)後期	大短冊判 漆絵	432×280	(村田屋次郎兵衛)	(画工西村 孫三良重 信)		下部の版元、署 名部分欠
81	141		二代鳥居清 信	「瀬川菊次郎 さの川市松」	延享4(1747)年	細判紅摺 絵	313×149	鱗形屋孫兵衛	鳥居清信筆		8月市村座「満月 小栗殿」
82	142		二代鳥居清 信	「瀬川菊之丞 市川羽左衛門」	延享4(1747)年	細判紅摺 絵	318×146	中嶋屋伊左衛門	鳥居清信筆		正月市村座「玉 柳粧曾我」か
83	143		二代鳥居清 信	「三幅対行平 松風村雨」	延享-寛延期(1744- 51)	大判(細判 3丁掛)紅 摺絵	289×416	伊賀屋勘右衛門	鳥居清信筆		
84	144		二代鳥居清 信	「夕涼おどりこ風 両国二間茶屋」	享保(1716-36)後期	細判漆絵	313×148	村田屋治郎兵衛	鳥居清信筆		
85	145		鳥居清信か	役者図	宝永-正徳期(1704- 16)	大々判墨 摺絵	562×283	不詳	菱川師重図 (印)		Keys氏は落款後 入れとする。
86	146		二代鳥居清 倍	「享保十二年丁未 大友真鳥 兼道」	享保12(1727)年 絵暦	細判墨摺 絵	319×157	相模屋太兵衛	鳥居清倍書 之		
87	147		鳥居清倍	「げんぶく五郎」	享保(1716-36)初期	大判墨摺 絵	299×440	伊賀屋勘右衛門	鳥居清倍 (印)		
88	148		鳥居清倍	雪中傘を差す遊 女と侍女	正徳期(1711-16)頃	大々判墨 摺絵(彩色 後世か)	564×321	中嶋屋伊左衛門	鳥居清倍 (印)		
89	149		二代鳥居清 倍	役者図	享保(1716-36)前期	細判漆絵	305×152	伊賀屋勘右衛門	鳥居清倍筆		
90	150		二代鳥居清 倍	「団十郎 牛王 姫いせ野」	享保期(1716-36)	細判漆絵	305×141	鱗形屋孫兵衛	絵師鳥居清 倍筆		
91	151		二代鳥居清 倍か	「瀬川菊次郎 瀬川きくの丞」	享保期(1716-36)	細判漆絵	291×145	不詳			
92	152		鳥居清倍	子供を抱く美人	宝永期(1704-11)	大々判丹 絵	557×302	中嶋屋伊左衛門	鳥居清倍 (印)		
93	153		(無款) 奥村政信(複製 か)	初代市川門之助 の蒔絵売り	近代か	細判漆絵	311×150	不詳			
94	154		鳥居清忠	三条勘太郎の琴 弾く官女	享保期(1716-36)	細判漆絵	321×152	不詳	鳥居清忠筆		
95	155		鳥居清重	四代目市川団十 郎	宝暦(1751-64)後期	大短冊判 錦絵	362×176	不詳	鳥居清重画 (印)		明和期頃の摺
96	156		鳥居清重	「大谷広治 十 町」	宝暦(1751-64)後期	大短冊判 錦絵	379×170	丸屋小兵衛	鳥居清重画 (印)		明和期頃の摺
97	157		鳥居清重	渡唐天神	宝暦期(1751-64)	柱絵判紅 摺絵	682×98	丸屋九左衛門	鳥居清重画 (印)		
98	158		奥村利信	「市村座 のぎ 清松」	享保(1716-36)中期	細判漆絵	306×152	不詳	大和画工 奥村利信筆 (印)		
99	159		奥村利信	木兎と雀	享保期(1716-36)	細判漆絵	297×156	江見屋吉右衛門	大和画工 奥村利信筆		
100	160		奥村利信	「市川団十郎 ほめことば」	享保期(1716-36)	細判漆絵	291×157	舩屋	大和画工 奥村利信筆		
101	161		西村重長 (複製)	「やろう風 三幅 対右」	近代	大短冊判 紅摺絵	357×152	不詳	大和画工 奥村利信筆		
102	162		奥村利信	「三幅対右 らやお染」	享保期(1716-36)	細判漆絵	321×148	伊賀屋勘右衛門	大和画工 奥村利信筆 (印)		
103	163		西村重長	近江八景 「唐 崎夜雨」	享保期(1716-36)	細判丹絵	313×156	江見屋吉右衛門	ゑ師西村重 長(印)		
104	164	未	西村重長 (複製)	若衆図	近代	細判漆絵	332×157	不詳	日本画工西 村重長筆 (印)		
105	165		西村重長	渡唐天神	宝暦期(1751-64)	柱絵判紅 摺絵	705×105	鱗形屋孫兵衛	仙花堂西村 重長百寿図 (印)		
106	166		西村重長	鍾馗	宝暦期(1751-64)	柱絵判紅 摺絵	721×98	鱗形屋孫兵衛	仙花堂西村 重長筆		
107	167		西村重長	佐野川市松	延享-寛延期(1744- 51)	幅広柱絵 判紅絵	699×165	鱗形屋孫兵衛	仙花堂西村 重長筆		

Allen Memorial Art Museum Collection, Oberlin University

A Catalogue of The Mary Ainsworth Collection of Ukiyo-e Prints: Result of Research

A collection of Ukiyo-e prints belonging to Mary Ainsworth, a female American visitor to Japan in 1906, is housed in the Allen Memorial Art Museum of Oberlin University, Ohio, USA. Since its founding in 1833, Oberlin University has been well known as a Liberal Arts College accepting students regardless of sex and ethnicity, and includes Mary Ainsworth among its graduates.

Ainsworth's Ukiyo-e Collection continued to expand after her return from Japan, and stands at over 1,500 items. It includes works by almost all the major artists, from early rare works to those by the Bakumatsu (end of the Edo Period) artists; however, the works by Katsushika Hokusai (1760-1849), Utagawa Hiroshige (1797-1858) and Utagawa Kuniyoshi (1797-1861) are of especially good quality and condition. Hiroshige seems to have been her particular favorite, with the work of Hiroshige comprising over half of the collection. The main features of the collection were introduced by Roger S. Keyes in *Japanese Woodblock Prints, A Catalogue of the Mary A. Ainsworth Collection* (Oberlin University, 1984), although there has been no public display outside of the Allen Memorial Art Museum, and it has yet to be seen in Japan.

In anticipation of the introduction of this important Ukiyo-e collection to Japan, we took the opportunity of carrying out research at the collection ahead of its exhibition tour of Japan to be held in 2019. This paper constitutes a report of that research, making available in Japanese a list of the works in the Mary Ainsworth Collection. Due to time constraints, we were unable to confirm details of the entire collection during the research trip, so that a section of the record relies on material submitted by the Allen Memorial Art Museum and access to its public database. The list as a whole was completed with reference to the knowledge of Roger Keyes in the above-mentioned publication.

(Translated by Barbara Cross)

平成二七(二〇一五)年度 千葉市美術館の活動

一 展覧会

(一)企画展(六件)

①二〇一五年五月一九日(火)～六月二八日(日) 七階第五展示室・八階展示室
「開館二〇周年記念 ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画―「マネジメントの父」が愛した日本の美―」

＊世界の企業人に多大な影響を与え、「マネジメントの父」と言われる経営学者のピーター・F・ドラッカー(一九〇九～二〇〇五)が三〇年以上かけて形成した室町時代の水墨画を中心とするコレクションのなかから約一一〇点の作品と、本人ゆかりの品や資料をあわせて展示した。今なぜまたドラッカーなのか、深い洞察と先見性にすぐれたドラッカーがみた日本を、美術コレクションを通じて探った展覧会。没後一〇年記念。

(四〇日間／入場者一九、三七二人)



チラシ

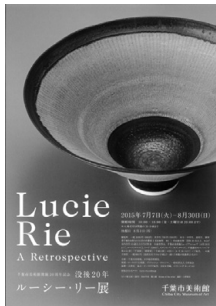


「開館二〇周年記念 ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画―「マネジメントの父」が愛した日本の美―」 会場場

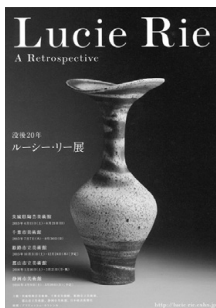
②七月七日(火)～八月三〇日(日) 七階第五展示室・八階展示室
「開館二〇周年記念 没後二〇年 ルーシー・リー展」

＊イギリスのスタジオ・ポタリーを代表する陶芸家で、近年日本でも非常に人気が高まっております。国内にも多くのコレクターや愛好家が存在しているルーシー・リー(一九〇二～九五)の回顧展。文化が成熟した時期のウィーンに生まれ、近代陶芸の興隆期にイギリスへ渡った彼女の作品は、モダンデザイン思潮を色濃く反映したフォルムで、きわめてシンプルかつ清潔であり、素材と技法が結びついた動感が魅力的とされる。作家の生きた時代背景、バックボーンを掘り下げながら、日本人から見たルーシー・リーを一つの視点として定め、来館者が陶芸に親しむ機会を提供した。

(五四日間／入場者一八、七六八人)



チラシ



先行チラシ



チラシ

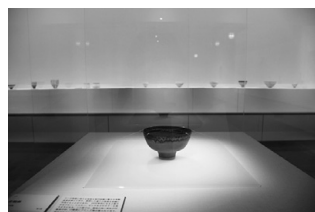


先行チラシ

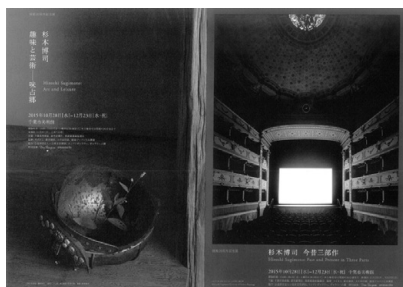
(三九日間／一三、二〇〇人)

＊近年徐々に注目されている、江戸時代中期の大坂で活動した個性豊かな絵師、墨江武禪(に七七〇〜一八〇六)と林閼苑(うらえん、二七三〇〜一八〇六)に光を当てた初めての展覧会。彼らは流行の中国絵画を学んだ「唐画師」として独自の表現を追求し、当時大いに人気を集めていた。本展では二人の画業をたどるとともに、武禪の師である月岡雪鼎や閼苑の師・福原五岳、さらに同時代の大坂や京都で活躍した伊藤若冲や曾我蕭白、松本奉時や耳鳥斎らの作品もあわせ、約一五〇点の作品を紹介した。

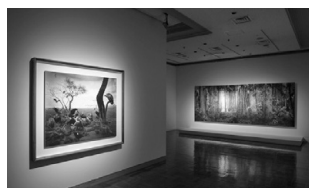
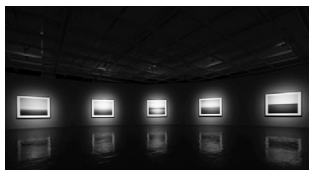
③九月八日(火)〜一〇月一八日(日) 七階第五展示室・八階展示室
「開館二〇周年記念 唐画もんー武禪に閼苑、若冲も」



「開館二〇周年記念 没後二〇年ルーシー・リー展」会場



チラシ

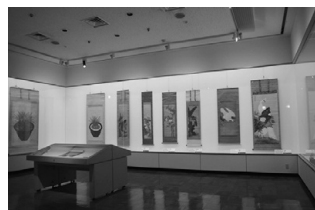


「開館二〇周年記念 杉本博司今昔三部作」展会場

(五五日間／入場者二二、七九九人)

④一〇月二八日(水)〜一二月三日(水・祝) 七・八階展示室
「開館二〇周年記念 杉本博司 趣味と芸術ー味占郷／今昔三部作」

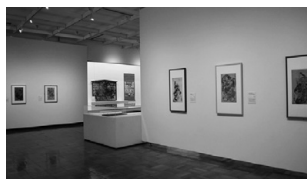
＊八階展示室で行われた「今昔三部作」では「ジオラマ」、「劇場」、「海景」の各シリーズの初期作と最新作を展示。七階展示室の「趣味と芸術ー味占郷」では平安から江戸時代の古物を中心とした自らのコレクションを用い、二七の床のしつらえをつくりあげ、「趣味」として蒐集した古今の名品・珍品を組み合わせること、新たな「芸術」を生み出した。



「開館二〇周年記念 唐画もんー武禪に閼苑、若冲も」展会場



チラシ



「開館二〇周年記念 初期浮世絵展
一版の力・筆の力」 展会場

⑤二〇一六年一月九日(土)～二月二八日(日) 七階第五展示室・八階展示室
「開館二〇周年記念 初期浮世絵展―版の力・筆の力―」

*どのように浮世絵は生まれ、発展し、なぜ近代に至るまでの高い人気と需要を継承できたのか。本展では、大英博物館、シカゴ美術館、ホノルル美術館をはじめ海外からの里帰り品を含めた版画・肉筆画の名品約二〇〇点により、浮世絵草創期の世界を紹介し、版と筆それぞれの表現の魅力を探究した。近世初期風俗画から始まり高度な多色摺木版画技法、すなわち錦絵が誕生する鈴木春信(一七二五?～一七九〇)の登場までを通観する、日本初の総合的な初期浮世絵の展覧会となった。

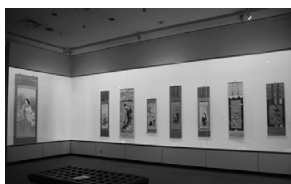
(四九日間／入場者一三、二四六人)



「開館二〇周年記念 杉本博司
趣味と芸術一味占郷」 展会場



チラシ



「開館二〇周年記念 歴代館長が選ぶ
所蔵名品展」 会場

①②二〇一五年四月一〇日(金)～五月一〇日(日) 七・八階展示室(第一部)／五月一九日(火)～六月二八日(日) 七階第六～八展示室(第二部)
「開館二〇周年記念 歴代館長が選ぶ 所蔵名品展」

*千葉市美術館の所蔵作品から、歴代館長が選んだ優品を中心に二部に分けて紹介した。
(第一部・三〇日間／入場者六、九二六人 第二部・四〇日間／入場者一九、二二五人)

⑥三月五日(土)～二五日(金) 七・八階展示室、九階市民ギャラリー、一一階講堂
「第四七回千葉市民美術展覧会」
*第四五回千葉市民芸術祭の一環として、千葉市美術協会会員及び公募入選作品約千点を七部門に分けて展示した。
(二〇日間／入場者一四、六一五人)
(二)所蔵品を中心としたテーマ展(五件)



「開館二〇周年記念 歴代館長が選ぶ 所蔵名品展」会場

③七月七日(火)～八月三〇日(日) 七階第六～八展示室

「辰野登恵子がいた時代」

*「ルーシー・リー展」にちなみ、二〇一四年に急逝した辰野登恵子(一九五〇年生)の作品を中心に紹介した。

(五四日間／入場者一七、五〇六人)



「辰野登恵子がいた時代」展会場

④九月八日(火)～一〇月一八日(日) 七階第六～八展示室

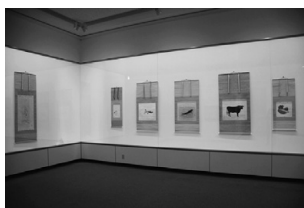
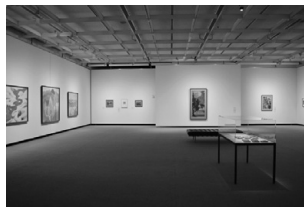
「田中一村と東山魁夷―千葉ゆかりの画家たち、それぞれの道―」

*所蔵作品の中から、千葉にゆかりのある田中一村と東山魁夷の作品を中心に展示した。

(三九日間／入場者一四、二〇〇人)



チラシ



「田中一村と東山魁夷―千葉ゆかりの画家たち、それぞれの道―」展会場

⑤二〇一六年一月九日(土)～二月二八日(日) 七階第六～八展示室

「新寄贈寄託作品展―花づくし―」

*「初期浮世絵展」と同時開催の所蔵作品展として、近年寄贈あるいは寄託された作品のなかから、江戸時代の絵画を中心に、大正・昭和半ばまでの多様な花の表現を紹介した。

(四九日間／入場者二一、八九五人)

二 展覧会関連講演会およびイベント等（二五件）

〈歴代館長が選ぶ 所蔵名品展〉

①二〇一五年四月二五日（土） 千葉市民会館大ホール（参加者七九五入）
シンポジウム「歴代館長よもやま話」

司会 河野元昭（京都美術工芸大学学長）

パネラー 辻惟雄（MIHOMUSEUM館長・初代当館館長）、小林忠（岡田美術館館長・二代当館館長）、河合正朝（現当館館長）

*千葉市美術館研究紀要『採蓮』第一八号（一三一）（四）―②に再録。

〈ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画〉

②五月三一日（日） 八階展示室（参加者一六八人）

ワークショップ「カラダに^きつく まあるい世界」

指導 禪學佳秀（愚尚庵庵主）

③六月六日（土） 一一階講堂（参加者一七五人）

講演会「Adventures of The Collector's Bystander」（「コレクターの傍観者としての時代」）

講師 セシリー・ドロッカー（ピーター&ドリス・ドロッカーの次女・弁護士）

*通訳付

④六月一四日（日） 一一階講堂（参加者一三五人）

講演会「ドロッカー・コレクションの魅力―経営学と水墨画」

講師 島尾新（学習院大学教授）

〈ルーシー・リー展〉

⑤七月二〇日（月・祝） 一一階講堂（参加者一四九人）
講演会「ルーシー・リー・スタイルの形ができるまで」

講師 金子賢治（茨城県陶芸美術館館長）

⑥七月二六日（日） 一一階講堂（参加者一一八人）

講演会「再現 ルーシー・リーの制作技法について」

講師 小山耕一（陶芸家）

⑦八月一六日（日） 一階さや堂ホール（参加者三〇〇人）

特別企画「美術館で緑日気分!!」

参加・協力団体 花輪茶之介（飴細工師）、千葉市埋蔵文化財調査センター、千葉大学WiCAN、当館ボランティア

〈唐画もん〉

⑧九月二七日（日） 一一階講堂（参加者一三六八人）

講演会「近世大坂の絵画と唐画もん」

講師 岩佐伸一（大阪歴史博物館学芸員）

⑨一〇月一〇日（土） 一一階講堂（参加者九九九人）

落語会「上方落語で大坂気分!!」

出演 鈴々舎八ゑ馬（落語家）

〈杉本博司 趣味と芸術―味占郷／今昔三部作〉

⑩一〇月三一日（土） 一一階講堂（参加者一四九人）

講演会「時候を測る―江之浦測候所建設計画近況報告」

講師 杉本博司(アーティスト)

⑪ 二月七日(土) 一階講堂 (参加者一六九人)

対談「趣味と芸術」

出演 杉本博司(アーティスト)、千宗屋(武者小路千家一五代家元後嗣)

進行 河合正朝(当館館長)

⑫ 二月二二日(日) 一階講堂 (参加者一四〇人)

映画上映会「SUGIMOTO」(監督・岸本康、二〇一三年作品、六六分)

〈初期浮世絵展〉

⑬ 二〇一六年一月九日(土) 八階展示室入口

新春の獅子舞

出演 登戸神社登戸神楽囃子連

⑭ 一月一六日(土) 一階講堂 (参加者九四人)

特別企画「寛文美人から元禄美人へ―髪結いの実演と解説」

解説 村田孝子(ポーラ文化研究所)

結髪師 林照乃

⑮ 二月六日(土) 一階講堂 (参加者一五三人)

講演会「愛しい初期浮世絵版画―美しさ・力強さ・ユーモア―」

講師 武藤純子(清泉女子大学兼任講師・文学博士)

三 市民美術講座(二〇回)

① 五月三〇日(土) 一階講堂 (参加者一三二人)

「逸名の室町水墨画家たち―ドロッカーさんが愛した墨絵の世界」

講師 河合正朝(当館館長)

② 六月二〇日(土) 一階講堂 (参加者一九五人)

「ドロッカー・コレクションの軌跡」

講師 松尾知子(当館学芸係長)

③ 七月一八日(土) 一階講堂 (参加者三二人)

「辰野登恵子 かたちの生成」

講師 藁科英也(当館学芸課長代理)

④ 八月二二日(土) 一階講堂 (参加者一二九人)

「ルーシー・リーのうつつわ」

講師 山根佳奈(当館学芸員)

⑤ 九月一九日(土) 一階講堂 (参加者六六人)

「所蔵作品展『田中一村と東山魁夷』の見どころ、味わいどころ」

講師 松尾知子(当館学芸係長)

⑥ 一〇月三日(土) 一階講堂 (参加者六三人)

「はじめまして!大坂画壇」

講師 松岡まり江(当館主任学芸員)

⑦二月五日(土) 一階講堂 (参加者六五人)

「杉本博司と古美術」

講師 河合正朝(当館館長)

⑧二月一九日(土) 一階講堂 (参加者七六人)

「ジオラマ、劇場、海景―杉本博司の初期三部作」

講師 水沼啓和(当館主任学芸員)

⑨二〇一六年二月七日(日) 一階講堂 (参加者二九人)

「千葉で生まれた浮世絵の始祖 菱川師宣」

講師 田辺昌子(当館副館長兼学芸課長)

⑩二月二〇日(土) 一階講堂 (参加者三五人)

「花づくし―新寄贈寄託作品の魅力」

講師 松尾知子(当館学芸係長)

四 講師の派遣による講座等(二三件)

①二〇一五年四月九、一六、二三、三〇日(木) 学習院大学 (参加者五二人)

学芸員実習

講師 山根佳奈(当館学芸員)

②五月七、一四、二二、二八日(木) 学習院大学 (参加者五二人)

学芸員実習

講師 山根佳奈(当館学芸員)

③六月四、一一、一八、二五日(木) 学習院大学 (参加者五二人)

学芸員実習

講師 山根佳奈(当館学芸員)

④六月六日(土) 本館一階講堂 (参加者四五人)

生涯学習アカデミーちば「千葉市美術館特別講座「ドロッカー・コレクション展」主催 千葉市生涯学習センター」

講師 松尾知子(当館学芸係長)

⑤六月六日(土) 日本経済新聞社東京本社 (参加者九〇人)

日経アカデミア特別講座「みんなが愛するドロッカー」(主催 日本経済新聞社)

講師 河合正朝(当館館長)

⑥六月七日(日) 本館一階講堂 (参加者三五人)

日経アカデミア特別講座「みんなが愛するドロッカー」(主催 日本経済新聞社)

講師 松尾知子(当館学芸係長)

⑦七月九日(木) 学習院大学 (参加者一三人)

学芸員実習

講師 山根佳奈(当館学芸員)

⑧七月二日(土) 北海道立帯広美術館 (参加者二〇人)

「勅使河原蒼風 伝統に生き、現代をひらく」(主催 北海道立帯広美術館ほか)
講師 藁科英也(当館学芸課長代理)

⑨八月二日(日) 金谷美術館 (参加者三七人)

「八犬伝―妖まじの魅力と浮世絵」(主催 金谷美術館)
講師 田辺昌子(当館副館長兼学芸課長)

⑩八月七日(金) 6次元 (参加者三〇人)

「ルーシー・リー鑑賞会」(主催 6次元)
講師 山根佳奈(当館学芸員)

⑪九月一二日(土) 足利市立美術館 (参加者二〇人)

「浮世絵に描かれた子どものパラダイス」(主催 足利市立美術館)
講師 田辺昌子(当館副館長兼学芸課長)

⑫九月一二日(土) 北海道立函館美術館 (参加者四二人)

「勅使河原蒼風 伝統に生き、現代をひらく」(主催 北海道立函館美術館ほか)
講師 藁科英也(当館学芸課長代理)

⑬九月一七、二四日(木) 学習院大学 (参加者二六人)

学芸員実習
講師 山根佳奈(当館学芸員)

⑭一〇月八、一五、二二、二九日(木) 学習院大学 (参加者五二人)

学芸員実習

講師 山根佳奈(当館学芸員)

⑮一〇月二〇日(火) 銀座メディアカルビル (参加者三二人)

「唯一無二 初期浮世絵の至宝」(主催 日本アート評価保存協会)
講師 田辺昌子(当館副館長兼学芸課長)

⑯十一月五、一二、一九、二六日(木) 学習院大学 (参加者五二人)

学芸員実習
講師 山根佳奈(当館学芸員)

⑰十二月二四日(火) 千葉市文化センター (参加者六二人)

「杉本博司…現代美術と伝統文化」
講師 水沼啓和(当館主任学芸員)

⑱十二月三、一〇、一七日(木) 学習院大学 (参加者三九人)

学芸員実習
講師 山根佳奈(当館学芸員)

⑲二〇一六年一月二九、三一日(金、日) 東京国立博物館

第二回北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業 国際シンポジウム
「海外における日本美術コレクションの意義とその活用」および日本美術専門
家会議への出席(主催 海外ミュージアム日本専門家連携・交流事業実行委員
会二〇一五)

パネラー 松尾知子(当館学芸係長)

⑳二月一三日(土) 千葉市稲毛図書館 (参加者五〇人)

「美術講座 初期浮世絵展の魅力」(主催 千葉市稲毛図書館)

講師 田辺昌子(当館副館長兼学芸課長)

㉑二月一八、二二、二四、二六日(木、月、水、金) 城西国際大学千葉東金キャンパス (参加者四〇人)

学芸員実習

講師 山根佳奈(当館学芸員)

㉒三月一六日(水) 出光美術館 (参加者一二〇人)

「浮世絵黄金期への道」

講師 田辺昌子(当館副館長兼学芸課長)

㉓三月一七日(木) 印西市役所(印西市教育委員会)

印西市文化財審議会

委員 西山純子(当館主任学芸員)

五 外部機関誌等への執筆(四件)

①松尾知子(当館学芸係長) 『ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画―「マネジメントの父」が愛した日本の美―展について』『ドラッカー・フォーラム C&M Journal』二〇一五年夏号、五一―八頁

②西山純子(当館主任学芸員) 「郷愁の木版絵師・川瀬巴水」『國華清話会会報』

二六号、二〇一五年十一月、六―八頁

③西山純子(当館主任学芸員) 「重力について―恩地孝四郎の一九三〇年代」『現代の眼』六一五号、二〇一五年二月、四―五頁

④畑井恵(当館学芸員) 「パラダイスのゆくえ」演劇まちあるぎ」に見る共有のあり方」『民族藝術』三二号、二〇一六年三月、一九四―一九五頁

六 ワークショップ等(三回)

ヘルシー・リー展

①七月二四日(金)、二五日(土) 七・八階展示室 (参加者のべ六九人)

「中学生のためのギャラリートークルーズ」¹⁵⁾

講師 鑑賞リーダー(美術館ボランティア)、山根佳奈・畑井恵(当館学芸員)

②八月二日(日) 一一階講堂 (参加者二〇人)

「オートクチュールのボタンをつくる」

講師 田口由佳(当館嘱託員)

〈杉本博司 趣味と芸術―味占郷／今昔三部作〉

③十一月二九日(日) 一一階講堂 (参加者一五人)

「サイアノタイプ体験 ものの影を撮る」

講師 倉谷拓朴(写真家)

七 学芸員によるギャラリー・トーク(各一回)

「歴代館長が選ぶ所蔵名品展」(参加者五人)

「ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画」(参加者五人)

「ルーシー・リー展」(参加者五人)

「唐画もん」(参加者四人)

「杉本博司 趣味と芸術―味占郷／今昔三部作」(参加者五人)

「初期浮世絵展」(参加者五人)

八 学校との連携授業

(一) 学校団体の受け入れ

①「小中特別支援学校鑑賞教育推進事業」(合計二校、一、一四八人)

* 遠隔校等の来館を促進するため、美術館が送迎バスを用意し鑑賞プログラムを提供。

「歴代館長が選ぶ所蔵名品展」(二校、四七人)

「ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画」(六校、三五五人)

「唐画もん」(三校、一三九人)

「杉本博司 趣味と芸術―味占郷／今昔三部作」(六校、三八三人)

「初期浮世絵展」(五校、二二四人)

②右記以外の方法で来館する児童・生徒の団体受け入れ(小中特別支援学校二校八七九人／高等学校四校一三一人)

* うち二三校、七一人に①と同様の鑑賞プログラムを提供。

「ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画」(二校、六一人)

「ルーシー・リー展」(二校、二七六人)

「唐画もん」(四校、二五八人)

「杉本博司 趣味と芸術―味占郷／今昔三部作」(七校、二六五人)

「初期浮世絵展」(四校、一五〇人)

(二) 職場体験学習の受け入れ(二五校五三人)

(三)「千葉市図工・美術科担当等教職員鑑賞一日研修」八月二〇日(木)実施
(参加者三八人)

事例発表 鶴岡京子(千葉市立幸町第三小学校、縣拓充(千葉大学)

(四) 千葉市教育研究会中学校造形部会美術館活用グループとの連携

中学校美術部合同鑑賞会の実施 七月二八日(火)、二九日(水) (参加者六校のべ一二三人)

(五) 高等学校の利用促進

①「高校生美術館体験プログラム」七月二二日(水)実施(二校六人)
講師 武藤亜希子(美術家)

②企画展、所蔵作品展の高校生観覧料無料化(利用者五九五)

(六)千葉大学との連携

①「博物館学実習(講義)」六月七日(日) (参加者二〇人)

②「千葉大学普遍教育教養展開科目『展示をつくるA』『博物館実習B』企画展示」(参加者一六人)

(講義)七月四、一、二、一八日(土、土、日、土)

(展示)八月四日(火)～九日(日)「一六人の千葉大学生による三二点の千葉市美術館コレクション」九階市民ギャラリー(入場者数三〇二人)

九 アウトリーチプログラム

*千葉大学や教育機関、地域NPOとの連携事業である「千葉アートネットワーク・プロジェクト(WiCAN)」の活動。

①一 一二月八日(火)～二〇一六年一月一七日(日) 一階プロジェクトルーム(入場無料)

アーティストプロジェクト(展示)「ファンタスマゴリアー千葉をうつす影」

アーティスト 原倫太郎＋原游

①二 一二月二〇日(日) 一一階講堂(来場者四〇人)

「ファンタスマゴリア カフェ&トークーアートが地域でできること」

②小学校×美術館×大学による「杉本博司 趣味と芸術―味占郷／今昔三部作」鑑賞教育プログラムの実施(協力校二校)

(千葉市立大宮中学校)

一一月一〇日(火)事前授業 千葉市立大宮中学校

一一月一三日(金)展覧会鑑賞

一一月一八日(水)事後授業 千葉市立大宮中学校

(千葉市立千城台東小学校)

一一月一六日(月)事前授業 千葉市立千城台東小学校

一一月一七日(火)展覧会鑑賞

一一月二〇日(金)事後授業 千葉市立千城台東小学校

一〇 県内外の美術館・博物館等との連携

近隣美術館連絡会加盟館(千葉市美術館、千葉県立美術館、DIC川村記念美術館、佐倉市立美術館、成田山書道美術館)による「千葉近隣美術館ガイドマップ」の発行(一〇、〇〇〇部)および配布。

一一 その他の提携事業

〈ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画〉

(二)イオン株式会社との各種提携

①五月一五～一七日(金～日) イオン鎌取店

「千葉市フェア in 鎌取」への参加

②五月一七日(日) イオンホール(イオンモール幕張新都心グランドモール三階)

関連講演会「ドラッカー展を観てもうひとりの自分を創ろう!—芸術と経営を結ぶ教養とは?—」

講師 村山にな(玉川大学芸術学部准教授)・村山元英(国際経営文化学会会長・千葉大学名誉教授)

③五月一九日(火)〜六月下旬 未来屋書店(イオン店内の千葉市六店舗、市内を除く千葉県内二一店舗)

「ドラッカー特集」売場を設置

(二)ドラッカー学会との提携

五月二二日(金) 一一階講堂

公開読書会「日本画に見る日本」

ファシリテーター 佐藤等(佐藤等公認会計士事務所所長)

一一 ボランティア活動

(二)ギャラリートーク(合計 定例三四回、自主一九回/参加者一、〇六六人(定例七四三人、自主三三三三人))

*会期中毎週水曜日の定例ギャラリートークのほか、各ボランティアが自主的に行った不定期のギャラリートークについて記載。

「歴代館長が選ぶ所蔵名品展」(定例三回、自主一回/参加者五一)

「ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画」(定例五回、自主三回/参加者二七人)

「ルーシー・リー展」(定例七回、自主五回/参加者二五八人)

「唐画もん」(定例五回、自主二回/参加者一四五人)

「杉本博司 趣味と芸術―味占郷／今昔三部作」(定例八回、自主四回/参加者一七六)

「初期浮世絵展」(定例六回、自主四回/参加者二〇九)

(二)鑑賞リーダー(のべ六〇回二九七)

*「小中特別支援学校鑑賞教育推進事業」等児童・生徒の団体受け入れ(八一)①への協力活動。学校側の希望に応じて、少人数グループでの鑑賞に対応する。鑑賞リーダーとして対応したボランティアのべ人数を記録。

「歴代館長が選ぶ所蔵名品展」(二回七)

「ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画」(二〇回六三)

「ルーシー・リー展」(二九回四七)

*「中学生のためのギャラリークルーズ」15(六一)①を含む。

「唐画もん」(九回五四)

「杉本博司 趣味と芸術―味占郷／今昔三部作」(一二回六九)

「初期浮世絵展」(九回五七)

(三)ワークショップの企画・実施

①二〇一五年八月一六日(日) 一階さや堂ホール (参加者四八)

「ボタンでカード&アクセサリー作り」

②八月一六日(日) 一階さや堂ホール (参加者一〇四人)
「ボタンでぶんぶん」

③二月八、一五日(日) 九階講座室 (参加者一五人)
「サイアノタイプ体験 ものの影を撮る」
講師：倉谷拓朴(写真家)

④一二月六日(日) 千葉市生涯学習センター (参加者一二二人)
まなびフェスタ2015「木版画多色摺ワークショップ」

⑤二〇一六年二月二四日(日) 一階プロジェクトルーム (参加者一七〇人)
木版画多色摺ワークショップ

一三 出版活動

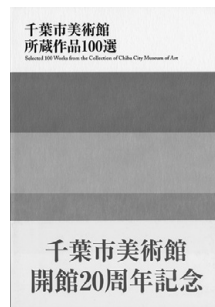
(一) 展覧会図録等(五冊)および主な掲載論文等(編集あるいは発行が千葉市美術館によるもの)

①『千葉市美術館 所蔵作品一〇〇選』 編集 千葉市美術館／発行 千葉市美術館

河合正朝『千葉市美術館 所蔵作品一〇〇選』の刊行にあたって
辻惟雄、小林忠、河合正朝「歴代館長による鼎談」千葉市美術館のコレクション

ン」

* 開館二〇周年記念として刊行。



②『ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画 「マネジメントの父」が愛した日本の美』 監修 河合正朝／編集 松尾知子(千葉市美術館)／発行 美術出版社

ピーター・F・ドラッカー(訳 松尾知子)「日本美術へのラブレター」
ドリス・ドラッカー(訳 井坂康志)「講演録 なぜ日本画に心惹かれたか」
セシリー・A・ドラッカー(訳 松尾知子)「わがコレクター父母の傍観者としての時代」

河合正朝「回想のドラッカー教授、そして教授収集の逸伝画家による室町水墨画などのことども」

ピーター・F・ドラッカー「講演録 ガイジンの見た日本美術」

佐久間裕之「ドラッカー・ポートレイト・フランクフルト時代(一九二九―三年)の軌跡」

松尾知子「ドラッカーは何を見たのか―一九三〇年代ロンドン、日本美術展事情」

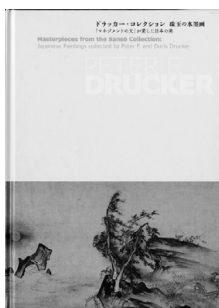
荏開津通彦「雪村の画本」

ピーター・F・ドラッカー(訳 松尾知子)「講演録 私と室町水墨画」

山脇秀樹「人間中心のマネジメント・ドラッカーとリベラル・アーツ」

加藤悦子「ドラッカーの日本美術コレクション形成とその『日本美術・日本

論』」



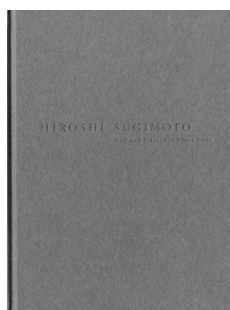
③『唐画もん—武禪に閨苑、若冲も』 企画・編集 岩佐伸一(大阪歴史博物館)、
伊藤紫織(尚美学園大学)、松岡まり江(千葉市美術館)／発行 大阪歴史博物
館、千葉市美術館、産経新聞社

岩佐伸一「概説 墨江武禪と林閨苑」

伊藤紫織「山水を描き、山水を造る—墨江武禪の絵画—」



④『杉本博司 今昔三部作』 編集／発行 千葉市美術館
杉本博司「不自然な自然」
水沼啓和「今」を刻み続ける三部作」



⑤『千葉市美術館開館二〇周年記念 初期浮世絵展—版の力・筆の力—』 編集
田辺昌子(千葉市美術館)／発行 千葉市美術館／協力 高久国際奨学財団
田辺昌子「浮世絵はいかに生まれ、なぜ続いたのか—房州に生まれた浮世絵の
祖 菱川師宣」

武藤純子「鳥居派の役者絵と奥村政信のやつし絵」



(二) 展覧会図録等(二冊)および主な掲載論文等(一)以外)

①『没後二〇年 ルーシー・リー展』 編集 茨城県陶芸美術館、日本経済新聞社文化事業部／発行 日本経済新聞社

金子賢治「ルーシー・リーのものの作り方」

ライナルト・フランツ(訳 長谷川珠緒)「初期の器、モダンなものたち」

ルーシー・ゴンペルツの初期ウィーン時代(一九二一―二六年)における制作とオーストリア応用美術・現代美術館所蔵の新発見作品」

佐藤秀彦「ルーシー・リーのフォルムと技法」

内藤裕子(編)「関連年表」

山根佳奈(編)「邦語主要文献」

②『趣味と芸術―謎の割烹 味占郷』 著者 杉本博司／編集 婦人画報編集
部／発行 ハースト婦人画報社

(三) 展覧会の出品目録

* 企画展・所蔵作品展ごとに発行。

(四) 定期刊行物

① 美術館ニュース『C'n』第七〇〜七三号(四回)

② 千葉市美術館研究紀要『採蓮』第一八号 ※掲載論文等は左記の通り

「開館二〇周年記念 歴代館長によるシンポジウム 歴代館長よもやま話」
松岡まり江『桃源詩画』について―画僧・月僊の桃源郷」

③ 千葉アートネットワークプロジェクト二〇一五ドキュメント(発行…千葉アートネットワーク・プロジェクト)

一四 作品の収集

(一) 購入(二五件)

吉田博作品

《光る海(瀬戸内海集)》、《雨後の夕(瀬戸内海集)》、《駒ヶ岳山頂より(日本南アルプス集)》、《シンガポール(印度と東南アジア)》、《ラングーンの金塔(印度と東南アジア)》、《ベナレスのガット(印度と東南アジア)》、《タジマハルの庭(印度と東南アジア)》、《タジマハルの庭夜(印度と東南アジア)》、《フワテプールシクリ(印度と東南アジア)》、《ウダイプールの城(印度と東南アジア)》、《アジヤンタ(印度と東南アジア)》、《エロラカイラサテンブル(印度と東南アジア)》、《ウダイプールの島御殿(印度と東南アジア)》、《三溪園(櫻八題)》、《弘前城(櫻八題)》、《春雨(櫻八題)》、《樓門(櫻八題)》、《嵐山(櫻八題)》、《川越之櫻(櫻八題)》、《鐘樓(櫻八題)》、《花盛り(櫻八題)》、《東照宮》、《陽明門》、《港之夜》、《農家》

(二)寄贈(二四件)

椿貞雄《魚図》(大関啓子氏寄贈)

鶴田吾郎《九十九里濱》、同《九十九里の漁夫》(以上、木村悦雄・正子氏寄贈)

田中一村《軍鶏図》(伊藤修平氏寄贈)

東山魁夷《静晨》、関主税《枯林》、同《おしどり》、同《訪春(エスキ

ス)》、石井林響《雛》、同《楓》(以上、鎌田慶市郎氏寄贈)

深澤幸雄《奇妙な手品師》、同《暁の鳥》(以上、松井勝氏寄贈)

赤瀬川原平《模型千円札Ⅲ》、ハイレッド・センター《特報!通信衛星は何者に

使われているか!》、千円札事件懇談会《東京地方裁判所刑事第701号法

廷》、同《千円札裁判へ、ブツ・法廷・行為》、同《千円札裁判押収品目録》、

赤瀬川原平《大日本零円札》(以上、赤瀬川尚子氏寄贈)

娑婆留闘社《獄送激画通信(一)》、同《獄送激画通信(二)》、同《獄送激画通信

(三)》、同《獄送激画通信(四)》(以上、松田哲夫氏寄贈)

辰野登恵子《Work 80-P-17》、同《Work 81-P-23》(以上、辰野仁蔵

氏寄贈)

(三)寄託(六三件)

椿貞雄《きじ図》他

一五 所蔵作品の修復・保存等

マット装(二点)

一六 所蔵作品の貸出、特別利用

(一)作品の貸出(三件一二七点)

*平成二七年度開催(以後の巡回展も含む)について記載

①「江戸へようこそ! 浮世絵に描かれた子どもたち」(滋賀県立近代美術館、

二〇一五年四月―六月/足利市立美術館、八月―九月)

鈴木春信《蚊帳の母と子》他 二七点

②「モダン百花繚乱―大分世界美術館」(大分県立美術館、二〇一五年四月―

七月)

イサム・ノグチ《かぶと》他 二点(ともに寄託作品)

③「平家物語を描く―近代によみがえった古典」(井原市立田中美術館、二〇一

五年四月―五月)

月岡芳年《雪中常磐図》一点(寄託作品)

④「画家たちと戦争…彼らはいかにして生きぬいたのか」(名古屋市美術館、二

〇一五年七月―九月)

恩地孝四郎《Lyrique No.2楽曲によせる抒情 山田耕筰「おやすみなさい」》

他 二点

⑤「被爆70周年 ヒロシマを見つめる三部作 第一部 ライフワーク」(広島市

現代美術館、二〇一五年七月—九月)

村上友晴《無題》他 三点

⑥「肉筆浮世絵の世界」(福岡市美術館、二〇一五年八月—九月)

菊川英山《花魁図》他 一〇点(うち寄託作品八点)

⑦「若林奮 飛葉と振動」(神奈川県立近代美術館 葉山、二〇一五年八月—二月)

若林奮《5.15-7.20 クロバエ》(部分)(寄託作品)一点

⑧「木版画家 立原位貫—江戸の浮世絵に真似る」(山口県立秋美術館・浦上記念館、二〇一五年八月—九月)

鈴木春信《三十六歌仙 紀友則》他 二点

⑨「没後50年 “日本のルソー” 横井弘三の世界展」(長野県信濃美術館、二〇一五年九月—十一月／練馬区立美術館、二〇一六年四月—六月)

小林猶治郎《漁樵問答》(寄託作品)一点

⑩「Yayoi Kusama」(Louisiana Museum of Modern Art、デンマーク、二〇一五年九月—二〇一六年一月／Henie-Onstad Art Centre、ノルウェー、二月—五月／Moderna Museet、スウェーデン、六月—九月／Helsinki Art Museum、フィンランド、一〇月—二〇一七年一月)

草間彌生《No.B White》一点

⑪「画家の詩、詩人の絵—絵は詩のごとく、詩は絵のごとく」(平塚市美術館、

二〇一五年九月—十一月／碧南市藤井達吉現代美術館、十一月—十二月／姫路市立美術館、二〇一六年二月—三月／足利市立美術館、四月—六月／北海道立函館美術館、六月—八月)

北園克衛《プラスチック・ポエム “Moonlight night in a bag”》他 四点

⑫「喜多川歌麿展」(とちぎ蔵の街美術館、二〇一五年一〇月—十一月)

喜多川歌麿《楼上二美人》他 一〇点

⑬「逆境の絵師 久隅守景 親しきものへのまなざし」(サントリー美術館、二〇一五年一〇月—十一月)

久隅守景《四季耕作図》一点

⑭「浮世絵から写真へ—視覚の文明開化—」(江戸東京博物館、二〇一五年一〇月—十二月)

落合芳幾《俳優写真鏡 花垣七三郎 澤村訥升》他 六点

⑮「新居浜市総合文化施設開館記念展 新居浜—日本 回想の新居浜美術」(新居浜市美術館、二〇一五年十一月—十二月)

北代省三《エウクレイデスの世界》他 四点

⑯「唐画もん—武禪に閨苑、若冲も」(大阪歴史博物館、二〇一五年一〇月—二月)

墨江愛山『古景盤図式』他 一一点(うち寄託作品三点)

* 本展覧会は千葉市美術館より巡回(一一)―③参照。

⑰「ピアズリーと日本」(宇都宮美術館、二〇一五年二月―二〇一六年一月／滋賀県立近代美術館、二月―三月／新潟県立万代島美術館、四月―六月／石川県立美術館、七月―八月)

溪斎英泉《雲龍襦袢の花魁》他 二点

⑱「北斎と富嶽」(一般財団法人北斎館、二〇一五年二月―二〇一六年三月)抱亭五清《富士遠望図屏風》一点(寄託作品)

⑲「恩地孝四郎展」(東京国立近代美術館、二〇一六年一月―二月／和歌山県立近代美術館、四月―六月)

恩地孝四郎《失題》他 一点

⑳「生誕二九〇年記念 勝川春章」(大田記念美術館、二〇一六年二月―三月)一筆斎文調《市川弁蔵の団三郎》他 二点

㉑「国芳イズム―歌川国芳とその系脈 武蔵野の洋画家 恵俊彦コレクション」(練馬区立美術館、二〇一六年二月―四月)鳥居清長《草摺曳図》他 二点(共に寄託作品)

㉒「生誕二九〇年記念 勝川春章と肉筆美人画―〈みやび〉の女性像」(出光美術館、二〇一六年二月―三月)勝川春章《遊女と禿図》他 八点(うち寄託作品二点)

㉓「武田二十四将―信玄を支えた家臣たちの姿―」(山梨県立博物館、二〇一六年三月―五月)

歌川貞秀《武田家勇将軍評定之図》一点(寄託作品)

(二)写真の貸出、撮影等(特別利用)(八九件一九七点)

比田井南谷《作品I(電のヴァリエーション)》他

一七 友の会運営事業

(一)会員数 二、五八七人(二〇一六年三月三十一日現在)

(二)友の会バスツアー

「陶芸の町・益子を訪ねて」

二〇一五年二月二日(水) (参加者三九人)

(三)その他のイベント

①二〇一五年四月二五日(土) 一階講堂 (参加者六四人)

「歴代館長との懇談会」(二―①参照)

辻惟雄(MIHO MUSEUM館長・初代当館館長)、小林忠(岡田美術館館長・二代当館館長)、河合正朝(現当館館長)

②二〇一六年二月一五日(月) 一階レストラン (参加者一九人)「『初期浮世絵展』特別鑑賞会及び館長を囲む食事会」

河合正朝(当館館長)、田辺昌子(当館副館長兼学芸課長)

二二 美術館ふれあい会議

一八 博物館実習(実習生二校二一人)

二〇一五年八月三十一日(月)～九月八日(火)(延べ六日間)

二〇一六年二月二十五日(木) 一〇階会議室(参加者一四人)

「千葉市美術館における教育普及事業のあり方」

* 近隣の施設・商店街・団体と連携し、美術に関係する人々のコミュニティの場を創出する。

一九 図書室の運営

公開日数 三四八日

利用人数 一、二三九人

二〇 施設の利用(利用日数)

市民ギャラリー 二三日(二九団体三三、七〇〇人)

講堂 四二七コマ

講座室 四六一コマ

さや堂ホール 三五八コマ

※ 講堂、講座室、さや堂ホールは、一日三コマ(一〇～一三時、一三～一七時、一七～二一時)

二一 他施設利用者

ミュージアムショップ売上件数 二七、一六六件

レストラン来客数 一七、一二三人

平成二七年度 市民ギャラリー・いなげ 企画展および施設の利用者

(一)企画展(八件)

①二〇一五年七月七日(火)～二〇日(月・祝)

「花香利治スケッチ展―若葉区・緑区の神社仏閣」

* 稲毛区在住の洋画家である花香氏が千葉市内全ての神社仏閣を描いた「はがき絵」から若葉区・緑区を展示。

(二三日間／入場者一、一七四人)

②八月四日(火)～九日(日)

「世界児童画展千葉展」

* 「世界児童画展」の優秀作品と千葉県の入選以上の作品約四〇〇点を展示。市内の小学校八校、中学校一六校が参加。

(六日間／入場者六八三人)

③八月一二日(火)～一六日(日)

「創造海岸いなげ展」

* 千葉市にゆかりのある若手作家、箕輪茉海(木象嵌)、西川昇真(油彩)、牧田愛(油彩)三氏の合同展。

(六日間／入場者八〇八人)



「創造海岸いなげ展」会場

④八月一二日(火)～一六日(日)

「千葉市中学校美術部展」

* 市内中学校一八校の美術部合同展。約四五〇点を展示。

(六日間／入場者八三二人)

⑤一二月二三日(水・祝)～二〇一六年一月一〇日(日)

「写真展 それぞれの接点」

* 千葉大学との連携事業「普遍教育教養展開科目「アーティストと展示をつくる」の一環として開催。講師・坂田峰夫(写真家)。

(二日間／入場者五一五人)

⑥一月五日(火)～一七日(日)

「ギャラリー・いなげ新春展」

*市民ギャラリー・いなげで講習会等の指導を行う地域の作家一人による小品展。

(二日間／入場者一、〇四八人)

⑦一月二二日(木)～二月一日(月)

「藤澤保子 漆芸の展開Ⅱ」

*漆芸の研究家(元千葉大学講師)で、斬新なデザインと古典的な技法で制作を続ける作家の個展。

(二日間／入場者一、〇四八人)

⑧二月二〇日(水)～二月七日(日)

「NARAMI・佐藤央育二人展」生命の童話、静寂の物語」

*共に千葉市芸術文化新人賞受賞者であるNARAMI(渡邊万利菜)、佐藤央育^{えいすけ}氏による二人展。

(二七日間／入場者九九四人)

(二)講演会・イベントの開催 (二三件)

①二〇一五年四月二五日(土)

「春のスケッチ大会」(参加者五二人)

講師 神尾吉夫(行動美術協会会員)

②六月一三日(土)

「山口マオ版画ワークショップ」(参加者三三人)

講師 山口マオ(イラストレーター)

③七月一八日(土)

茶道に親しむ会「親子お茶会」(参加者六七人)

講師 堤美智子(表千家教授)／助手 高橋節子、菅幸子、高山みね子

④七月二八日(火)

「教職員を対象とした画材研修会」(参加者三三人)

講師 大塚義孝(ぺんてる株式会社開発課長)

⑤七月二九、三〇日(水、木)

「教職員実技講座」(参加者一五人)

講師 林哲生(市民ギャラリー・いなげ所長)

⑥八月一、二日(土、日)

「夏休み子ども美術講座」(参加者三一人)

講師 為我井直子(稲毛二小教諭)、水野祥江(磯辺小教諭)

⑦九月一九日、一〇月三、一七日(土)

創造海岸美術講座 ほっこりキッチングッズ作り(参加者一四人)

講師 藤澤保子(漆芸家)

⑧九月二六日(土)

白井綾写真講座「街を撮る」(参加者一六人)

講師 白井綾(写真家)

⑨一〇月一〇、一一日(土、日)

「秋休み子ども美術講座」(参加者三〇人)

講師 林哲生(市民ギャラリー・いなげ所長)

⑩一〇月二四日(土)

創造海岸美術講座色であそぼう〇〇どうぶつ (参加者二八人)

講師 NAMIKI(画家・デザイナー)

⑪二月七日(土)

「秋のスケッチ大会」(参加者六〇人)

講師 NARAMI(千葉市芸術文化新人賞受賞者)、佐藤史育(同)

⑫二月一四日(土)

創造海岸美術講座よとぼし灯ろうづくり (参加者一八人)

講師 林哲生(市民ギャラリー・いなげ所長)

⑬二月二一日(土)

佐藤信太郎 写真講座「夜景を撮る」(参加者二二人)

講師 佐藤信太郎(写真家)

(三)その他(地域連携等)

①二〇一五年四月一日、十一月一四日、二〇一六年三月五日(土)

「街ゼミ」への参加。

*地元商店街主催行事。

②七月一日、二月一九日(土)

稲毛お話し会 (参加者三七人)

③八月一、二日(火、水)

「カフェkaiki」

*千葉大学や教育機関、地域NPOとの連携事業である「千葉アートネットワーク・プロジェクト(WiCAN)」の活動。



「カフェkaiki」

④一〇月三一日(土)

「稲毛わくわくウォーク」への参加。

*経産省補助金を活用した地元商店街主催行事。

⑤二月二、三、四日(土、日)

稲毛あかり祭「夜灯」特別夜間公開 (参加者一、八一六人)

*「夜灯」に会場として参加し、打瀬船のオブジェと、「創造海岸美術講座」や地域小学校(稲毛第二、磯辺、磯辺第三)が授業で制作した灯ろうを展示した。

(四) 職場体験学習の受け入れ (五校一〇人)

(五) 施設の利用者

展示室(三〇八日／一九、七四九人)

制作室(三〇八日／一六、六〇七人)

(六) 旧神谷伝兵衛稲毛別荘の公開(三〇八日／一三、一三三人)

* 市内小学校より一五校が見学した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
展覧会観覧者	開館20周年記念 ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画		3,053	16,319										19,372
	開館20周年記念 没後二〇年 ルーシー・リー展				6,387	12,381								18,768
	開館20周年記念 唐画もん						5,701	7,499						13,200
	開館20周年記念 杉本博司 趣味と芸術							824	5,200	6,775				12,799
	開館20周年記念 初期浮世絵展										5,045	8,201		13,246
	第47回千葉市民美術展覧会												14,615	14,615
	開館20周年記念 歴代館長が選ぶ 所蔵名品展(第1部)	4,692	2,234											6,926
	同(第2部)		3,414	15,801										19,215
	辰野登恵子がいいた時代				5,893	11,613								17,506
	田中一村と東山魁夷						6,102	8,098						14,200
貸出施設利用者	新寄贈寄託作品展―花づくし										4,949	7,946		12,895
	展覧会観覧者 計	4,692	8,701	32,120	12,280	23,994	11,803	16,421	5,200	6,775	9,994	16,147	14,615	162,742
	市民ギャラリー	1,334	2,447	1,556		1,122	2,454	2,704	1,592	500	19,991			33,700
	講座室	385	353	418	468	476	327	367	472	434	491	141	329	4,661
	講堂	163	345	257	295	393	260	324	318	257	250	299	80	3,241
その他利用者	さや堂ホール	252	181	100	463	758	151	172	432	536	44	478	50	3,617
	貸出施設利用者 計	2,134	3,326	2,331	1,226	2,749	3,192	3,567	2,814	1,727	20,776	918	459	45,219
	図書室	71	54	204	132	155	72	75	96	100	111	114	55	1,239
	講座・講演会等	846	187	570	299	429	202	368	309	141	153	317		3,821
	コンサート・ワークショップ等		16			20	21		30					87
市民ギャラリーいなか	学校プログラム・実習等	44	86	292	337	71	179	202	324	350	71	304		2,260
	その他利用者 計	961	343	1,066	768	675	474	645	759	591	335	735	55	7,407
	ミュージアムショップ売上件数	903	1,547	6,443	2,247	4,835	1,307	2,582	1,522	1,942	1,509	2,049	280	27,166
	レストラン来客数	1,229	1,334	2,386	1,209	2,103	1,748	1,396	921	971	1,088	1,554	1,183	17,122
	他施設利用者 計	2,132	2,881	8,829	3,456	6,938	3,055	3,978	2,443	2,913	2,597	3,603	1,463	44,288
市民ギャラリーいなか	美術館 利用者総計	9,919	15,251	44,346	17,730	34,356	18,524	24,611	11,216	12,006	33,702	21,403	16,592	259,656
	花香利治スケッチ展―若葉区・ 緑区の神社仏閣				1,174									1,174
	世界児童画展千葉展					683								683
	創造海岸いなか展					808								808
	千葉市中学校美術部展					831								831
	写真展 それぞれの接点									515				515
	ギャラリー・いなか新春展										1,048			1,048
	藤澤保子 漆芸の展開Ⅱ										1,048			1,048
	NARAMIX・佐藤央二展										994			994
	講演会・イベント参加者	52		23	105	31	16	72	1,906	37				2,242
	展示室利用者	1,494	1,950	1,552	2,062	2,210	1,407	1,761	1,605	1,172	1,739	1,235	1,562	19,749
	制作室利用者	484	847	1,094	1,687	1,861	1,244	2,016	780	1,169	2,669	1,597	1,159	16,607
	旧神谷伝兵衛稲毛別荘	873	862	882	589	1,311	845	1,394	2,849	823	1,179	723	803	13,133
	市民ギャラリーいなか 利用者総数	2,903	3,659	3,551	5,617	7,735	3,512	5,243	7,140	3,716	8,677	3,555	3,524	58,832

(空欄は該当なし・利用不能を示す。)

千葉市美術館研究紀要
採蓮 第十九号

二〇一七年三月三十一日発行

編集・発行―財団法人千葉市教育振興財団
千葉市美術館

〒〇一八七三 千葉市中央区中央三―一〇―八
電話〇四三―二二―二二二一(代)

翻訳―バーバラ・クロス

制作―印象社

Bulletin of Chiba City Museum of Art
Siren No.19

March 31, 2017

Edited and Published by

Chiba City Museum of Art

3-10-8 Chuo, Chuo-ku, Chiba 260-8733 JAPAN

Phone. 043-221-2311

Translated by

Barbara Cross

Produced by

Insho-sha

ISSN 1343-148X